

Peregrine

AssetCenter



ポートフォリオとソフトウェア ライセンス

(c) Copyright 2005 Peregrine Systems, Inc.

All rights reserved.

本書に記載されている情報は、Peregrine Systems, Incorporatedが所有し、Peregrine Systems, Inc.の書面による許可なく使用または開示することはできません。本書の一部または全部を、Peregrine Systems, Inc.の事前の書面による許可なく無断で複製することを禁じます。本書に記載されている商品名は、該当する各社の商標または登録商標です。

Peregrine Systems ®およびAssetCenter ®は、Peregrine Systems, Inc.の商標です。

本書で説明されているソフトウェアは、Peregrine Systems, Inc.とエンドユーザ間で締結されるライセンス契約に基づいて提供されます。契約の条項に従って、ソフトウェアを使用する必要があります。Peregrine Systems, Inc.は、本書の内容については一切の責任を負いかねます。また、本書の内容が予告なく変更されることもあります。本書の最終バージョンの日付を確認するには、Peregrine Systems, Inc.のカスタマサポートまでお問合せください。

デモ用データベースと本書の例に使用されている団体名および個人名は架空のものであり、本ソフトウェアの使用方法を説明するためのものです。現在、過去を問わず、実在する団体や個人とのいかなる類似もまったくの偶然によるものです。

本製品に関する技術情報の請求、またはライセンスをお持ちの製品に関するマニュアル類の請求については、Peregrine Systemsのカスタマサポート (support@peregrine.com) までお寄せください。

本マニュアルに関するご意見やご要望は、Peregrine Systems, Inc.の出版部 (doc_comments@peregrine.com) までお寄せください。

本書の内容は、ライセンス契約に基づくプログラムのバージョン4.4に適用されます。

AssetCenter

Peregrine Systems, Inc.
3611 Valley Centre Drive San Diego, CA 92130
858.481.5000
Fax 858.481.1751
www.peregrine.com



目次

PEREGRINE

はじめに	11
ポートフォリオモジュールの対象ユーザ	11
ポートフォリオモジュールの使用目的	12
本マニュアルの使用方法	12
1. 概要	15
3つの管理タイプ	15
ポートフォリオ管理の主要テーブル	17
オーバーフローテーブル	18
ポートフォリオ品目の説明とトラッキング情報	21
属性：作成と動作オプション	23
モデル：ポートフォリオの構成	25
2. ポートフォリオ品目	27
属性	27
モデル	30
資産	32
ロット	36
トラッキングしないロット	40
資産に関する財務情報のトラッキング	43
ポートフォリオ品目の移動	47
資産を契約に関連付ける	50
在庫	52

3. ITポートフォリオ	57
コンピュータ	57
コンピュータの標準セット	60
コンピュータ間の接続	61
リモートコントロール	69
4. ソフトウェア	73
準備段階	73
ライセンス、資格、インストール、使用、契約	75
ソフトウェアライセンス	80
ソフトウェアライセンス	95
インストール済ソフトウェア	101
ソフトウェア管理	115
ソフトウェアレポート	130
実用例	131
5. 電話機	191
電話機と機能	191
電話機の管理	192
6. 作業指示とプロジェクト	195
作業指示	195
プロジェクト	200
7. 調整項目	201
調整項目とターゲット項目	201
調整項目を使用する	203
フィールドを調整する - 例	205
8. 用語解説	211
ポートフォリオ品目	211
ソフトウェア	216
プロジェクト	218
9. 参考情報	219
メニューとタブページ	219
ツールバーのアイコン	228
インタフェースのオプション	229
テーブル	229
テーブルの関係	233
リストデータ	238

特殊フィールド	240
カウンタ	241
アクションとウィザード	241
ワークフロー	246
AssetCenter Serverモジュール	248
システムデータと専門分野データ	248
レポートと書式	250
自動プロセス	250
API	251
ビュー	251
その他のマニュアル	251
インデックス	255



図の一覧表

PEREGRINE

1.1. ポートフォリオ - データモデル	18
1.2. オーバーフローテーブル - データモデル	21
4.1. ソフトウェア - 物理データモデル	78
4.2. ソフトウェア - カウンタにリンクされたテーブル	117
4.3. ソフトウェア - 特定資格に関連するテーブル	118
4.4. ソフトウェア - カウンタ、資格、ポートフォリオ品目の間のリンク	119
6.1. 作業指示のライフサイクル	197

表の一覧表

PEREGRINE

2.1. 属性の例	29
4.1. ソフトウェア - テーブル	76
4.2. ライセンス契約承認 - 契約の承認ワークフローチャート	83
4.3. スキャンインポート - 前回のスキャンで見つからなかったソフトウェアの検出ワークフローチャート	109
4.4. ライセンスコントロール - 未承認のインストールワークフローチャート	110
4.5. ソフトウェア - カウンタ: カウントに使用できるフィールド	123
4.6. ソフトウェア - カウンタ: 使用 / インストールの識別に使用できるフィールド	123
4.7. ソフトウェア - カウンタ: ライセンス / 資格の識別に使用できるフィールド	123
4.8. ライセンスコントロール - ライセンス数の不足ワークフローチャート	127
4.9. ライセンスコントロール - ライセンス数の定期検証ワークフローチャート	129
6.1. 作業指示時のステータス	197
9.1. ポートフォリオモジュールのメニューとタブページ - 一覧	219
9.2. ソフトウェアライセンスモジュールのメニューとタブ - 一覧	224
9.3. テーブル (ポートフォリオ) - 一覧	229
9.4. ソフトウェアライセンスモジュールのテーブル - 一覧	232
9.5. テーブル間の依存関係 (ポートフォリオ) - 表	233
9.6. テーブル間の依存関係 (ポートフォリオ) - 表	235
9.7. リストデータ - 一覧	238
9.8. 特殊フィールド - 一覧	240

9.9. カウンタ - 一覧	241
9.10. アクションとウィザード - 一覧	242
9.11. ワークフロー - 一覧	247
9.12. AssetCenter Serverモジュール (ポートフォリオ) - 一覧	248
9.13. その他のマニュアル (ポートフォリオ) - 一覧	251



はじめに

PEREGRINE

ポートフォリオモジュールの対象ユーザ

ポートフォリオモジュールは、企業のあらゆる役職に関与します。
特に、以下のユーザがポートフォリオモジュールを利用します。

- ポートフォリオ管理者
- 在庫管理者
- AssetCenterの導入を担当する技術者
- 財務管理の責任者
- 購買の責任者
- セキュリティ担当者
- 総務部
- ケーブル責任者
- ネットワーク責任者
- 電話機器の管理責任者

ポートフォリオモジュールは、AssetCenterのその他のモジュールの中心です。本マニュアルは、AssetCenterの幅広いユーザに役立つこのモジュールの基本概念を説明しています。

ポートフォリオモジュールの使用目的

ポートフォリオモジュールでは、以下のタスクを実行できます。

- 以下の情報を指定してポートフォリオ品目の詳細情報を記録します。
 - 説明
 - 使用者と責任者
 - 設置場所
 - コストセンタ
- 以下の方法で、ポートフォリオ品目を正確にトラッキングします。
 - 個別管理
 - 一括管理
 - 非個別管理

上記のタスクを実行することにより、以下のことが可能になります。

- 各ポートフォリオ品目（任意管理項目、場所など）を指定する。
- 必要に応じて各ポートフォリオ品目をトラッキングする。
- ポートフォリオ品目を適切な管理モードで管理する。
- ポートフォリオ品目に対して作業指示を容易に実行する。
- ポートフォリオ品目の使用を要するプロジェクトを作成する。

本マニュアルの使用方法

「概要」の章

この章では、AssetCenterによって提案される各種ポートフォリオ管理スタイルを説明し、ポートフォリオを構成するために入力する必要があるテーブルについて解説します。

この章は、AssetCenterの概要を把握するためにご利用ください。

「ポートフォリオ品目」の章

この章では、ポートフォリオ品目の管理手順を説明します。

ポートフォリオモジュールの使用に慣れるために便利な章です。

「ITポートフォリオ」の章

この章では、ポートフォリオモジュールを使ってコンピュータポートフォリオを使用する方法を説明します。

コンピュータ、標準セット、およびコンピュータ間の接続の管理の仕方を把握できます。

また、コンピュータのリモートコントロールおよび自動スキャンについても説明されています。

「ソフトウェア」の章

この章では、ポートフォリオモジュールを使ってソフトウェアを使用する方法を説明します。

この章を読んで、インストール済ソフトウェア、ライセンスおよびソフトウェアカウンタを管理する方法を把握してください。

「電話機」の章

この章では、ポートフォリオモジュールを使って電話機を使用する方法を説明します。

この章を読んで、電話機を管理し、電話機のボタンに機能を割り当てる方法を習得してください。

「作業指示とプロジェクト」の章

この章では、ポートフォリオ品目に対して行われる作業指示を管理し、ポートフォリオ品目をプロジェクトに関連付ける方法を説明します。

「調整項目」の章

この章では、レコードのフィールドを調整する方法を説明します。

調整項目を使用する方法を説明するための、具体的なシナリオ例も記述されています。

「用語解説」の章

この章では、ポートフォリオモジュールに専用の主要用語を説明します。

各用語の定義を正確に把握してください。

1 | 概要

AssetCenterは、企業のポートフォリオを構成する様々な品目の管理を可能にします。ポートフォリオ品目には、有形の品目（コンピュータ、工作機械、消耗品、サプライ品など）や無形の品目（インストール済ソフトウェアなど）があります。

AssetCenterでは、ポートフォリオ品目に関連する情報をそのライフサイクルを通じてトラッキングすることができます。最適な管理タイプを適用することで、高価値なポートフォリオ品目と低価値なポートフォリオ品目を区別しつつ管理することが可能です。

3つの管理タイプ

AssetCenterでは、ポートフォリオ品目の価値に応じて以下の管理タイプを選択できます。

- 個別管理（資産別）
- 一括管理（ロット別）
- 非個別管理（トラッキングしないロット別）

上記の3つの管理タイプの相違点は、トラッキングのレベルの違いに起因します。ポートフォリオ品目が[資産]テーブルに登録されているかどうかに応じて、このポートフォリオ品目がトラッキングされるかどうかが決まります。[資産]テーブルの各レコードは、財務、技術、契約といった多岐にわたる情報を含んでいま

す。[資産]テーブルに登録されない品目に対しては、「トラッキングしないポートフォリオ品目」という概念を適用します。

AssetCenterでは、ポートフォリオ品目の管理レベルを上げることもできます。例えば、「トラッキングしないロット」を「トラッキングするロット」に変更できます。この結果、トラッキングするするロット対応するレコードが[資産]テーブル作成されます。

個別管理（資産別）

高価値のポートフォリオ品目は「資産」に当たります。AssetCenterでは、資産は個別にトラッキングされます。例えば、資産「サーバ」には設置場所、責任者、購入価格、減価償却方法といった多岐にわたる情報が含まれています。これらの情報はこのサーバに固有の情報であり、いつでも容易にアクセスできます。理論的に、AssetCenterにおける「資産」は、[ポートフォリオ品目]テーブルの1レコードに対応し、このレコードは[資産]テーブルの1レコードにリンクされています。

一括管理（ロット別）


個別に管理する資産ほど高価値ではない品目は、ロット単位でトラッキングできます。ロットの場合、ロットの各要素をトラッキングするのではなく、ロット全体に関するトラッキング情報が資産テーブルに記録されます。ロット単位の管理では、購入価格などのトラッキング情報の重複を避けることができます。理論的に、AssetCenterにおける「ロット」は、[資産]テーブルの1レコードに対応します。ただし、1つのロットが[ポートフォリオ品目]テーブルの複数のレコードに対応する場合があります。例えば、1ロットを複数のロットに分割し、複数の部署で使用する場合などです。

非個別管理（トラッキングしないロット別）

低価値のポートフォリオ品目（消耗品やサプライ品）は、「トラッキングしないロット」として管理されます。例えば、鉛筆やインクカートリッジなどがこれに当たります。トラッキングしないロットの場合、これに対応するレコードは[資産]テーブルに作成されません。大半の場合、トラッキングしないロットはリンクしている品目を經由して、間接的にトラッキングされます。トラッキングしないロットをトラッキングするロットに変更することは常時可能です。

ポートフォリオ管理の主要テーブル

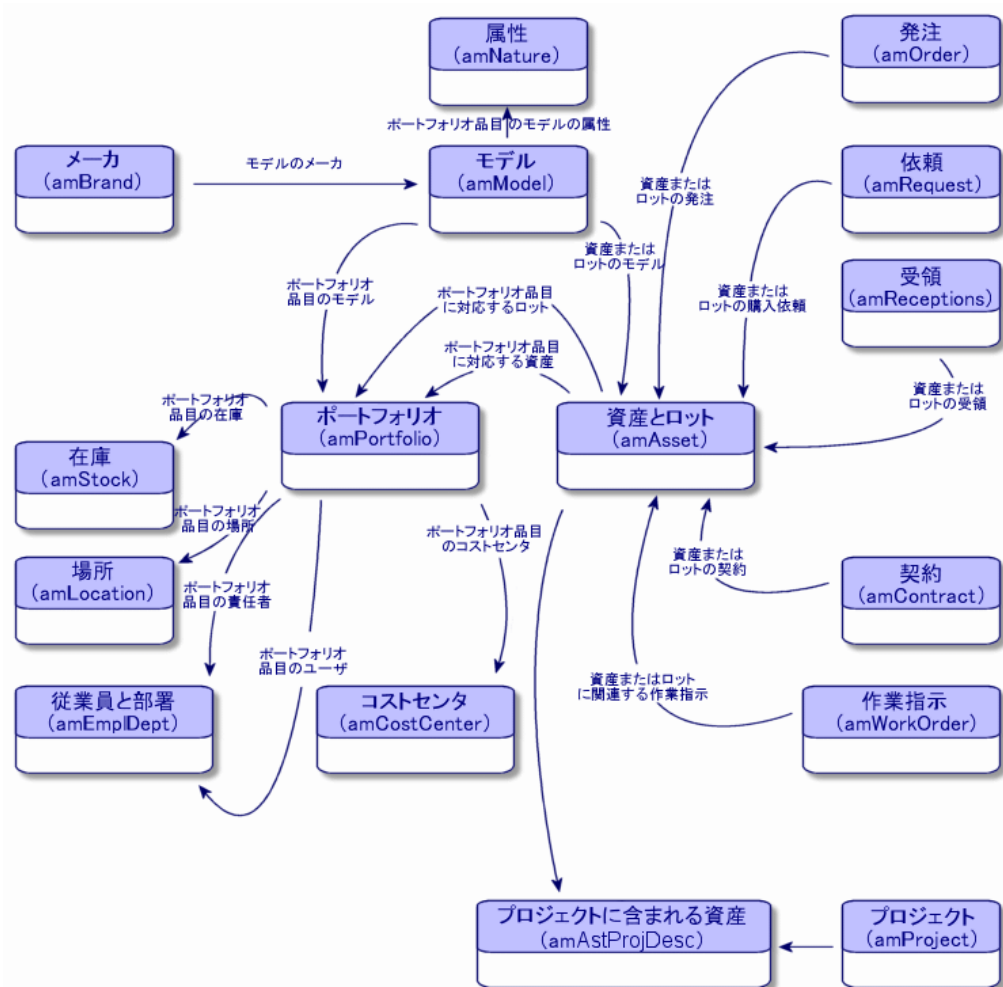
ポートフォリオ管理の主要テーブルは以下のとおりです。

- [モデル] テーブル (SQL名: amModel) と [属性] テーブル (SQL名: amNature)
上記の2つのテーブルはポートフォリオ品目の作成の前提となるテーブルです。ポートフォリオ品目はモデルを基に作成され、モデルは属性を基に作成されます。[モデル] テーブルを階層構造で構成することにより、ポートフォリオを構成することが可能になります (▶ [ポートフォリオ品目 \[修訂\]](#))。
- [ポートフォリオ品目] テーブル (SQL名: amPortfolio)
ポートフォリオ品目はすべてこのテーブルに記録されています。
ポートフォリオ品目の詳細にアクセスするには、以下の方法があります。
 - [ポートフォリオ/ポートフォリオ品目] メニューを選択します。
 -  をクリックします。
 - [ポートフォリオ/資産とロット] メニューを選択して資産とロットの画面を表示し、[ポートフォリオ] タブをクリックします。
資産の詳細画面を使うと、ポートフォリオ品目の詳細情報にアクセスできます。

[ポートフォリオ品目] テーブルは、ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定するために以下のテーブルにリンクされています。

 - [部署と従業員] (SQL名: amEmpIDept) テーブルは、ポートフォリオ品目の使用者および責任者に関する情報を含んでいます。
 - [場所] (SQL名: amLocation) テーブルは、ポートフォリオ品目の設置場所に関する情報を含んでいます。
 - [コストセンタ] (SQL名: amCostCenter) テーブルは、ポートフォリオ品目にリンクされている経費明細に関する情報を含んでいます。
- [資産] テーブル
ポートフォリオ品目が [資産] テーブルで参照されると、財務、技術、契約といった多岐にわたる関連詳細情報をトラッキングできます。これらの詳細情報は、資産テーブルにリンクしている複数のテーブルに記録されています。リンクするテーブルの例は、次のとおりです。
 - [契約] (SQL名: amContract) テーブル
 - [作業指示] (SQL名: amWOrder) テーブル
 - [プロジェクトに含まれる資産] (SQL名: amAstProjDesc) テーブル
 - [購入依頼] (SQL名: amRequest) テーブル
 - [発注] (SQL名: amPOOrder) テーブル
 - [受領] (SQL名: amReceiptLine) テーブル

図 1.1. ポートフォリオ - データモデル



オーバーフローテーブル

ポートフォリオ品目の中には、特定のフィールドを必要とする品目があります。例えば、コンピュータをトラッキング、管理する場合、多数の情報を保存する必要があります。このような情報を記録するために多数のフィールドをポートフォリオ品目のテーブルに追加すると、以下の不利が生じます。

- AssetCenterのパフォーマンスが低下する。
- これらのフィールドは、大多数のポートフォリオ品目に不要である。

典型的には、専用テーブルを使用することが解決策として考えられます。例えば、コンピュータに対応するポートフォリオ品目はまず [ポートフォリオ品目] テーブルに登録され、次に [コンピュータ] テーブルに登録されます。ただし、この結果同期プロセスが大変複雑になり、以下の事項を常時確認する必要があります。

- コンピュータが [ポートフォリオ品目] テーブルと [コンピュータ] テーブルの両方に記録されている。
- コンピュータがポートフォリオから削除された場合、これがコンピュータテーブルにも反映される。
- その他。

この複雑な同期プロセスを避けるために、AssetCenterでは「オーバーフローテーブル」を使用します。ポートフォリオ品目のレコードに対して1つまたは複数のオーバーフローテーブルが指定されると、レコードが [ポートフォリオ品目] テーブルとオーバーフローテーブルの両方に同時に作成されます（例： [資産] テーブルと [コンピュータ] テーブル）。これらの2テーブルのうちの1つでレコードが作成または削除される度に、他のテーブルにも変更が適用され、同期処理に要する時間が短縮されます。

オーバーフローテーブルを使用すると、AssetCenterに他のアプリケーションをさらに簡単に統合できます。例えば、AssetCenterは、リモートコントロールツールと即時に統合されますが、リモートコントロールツールに必要な情報を保存する必要があります。このような情報は、コンピュータのオーバーフローテーブルに保存されます。

AssetCenterでは必要に応じて新たにオーバーフローテーブルを追加することができます。また、データベースを大幅に変更することなく、物理データモデルを拡張することが可能になります。

詳細については、マニュアル『管理』の「データベースの標準記述ファイル」の章を参照してください。

オーバーフローテーブルの概要

ポートフォリオ品目をオーバーフローテーブルに登録するには、このポートフォリオ品目のモデルの属性で、適切なアクションを指定する必要があります（▶ [属性の作成基準 \[修職3\]](#)）。

使用可能なオーバーフローテーブル

AssetCenterでは、以下のオーバーフローテーブルが使用可能です。

- [資産]（SQL名：amAsset）テーブル

これはAssetCenterで最も大切なオーバーフローテーブルです。トラッキングしないロットに対応するポートフォリオ品目は、このテーブルに登録されません(▶[トラッキングしないロット \[修験0\]](#))。

 **注意:**

このテーブルに存在するオーバーフローリンク (PortfolioItems) は、ロットの作成のためのもので、外部キーを共有します。

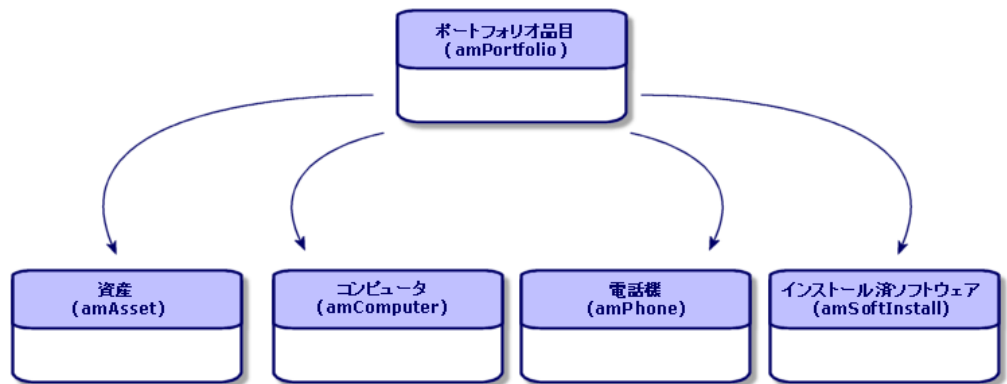
このテーブルは、資産に関する詳細情報を記録します。

- 購入日
- ステータス
- 賃貸料
- 取得方法
- 固定資産の番号
- その他
- [コンピュータ] (SQL名: amComputer) テーブル
このテーブルは、[資産] テーブルのオーバーフローテーブルです。コンピュータを作成すると、[ポートフォリオ品目] テーブル、[資産] テーブルおよび[コンピュータ] テーブルにレコードが作成されます。
特に、リモートコントロールツールとの統合に関する情報を記録することができます。
 - IPアドレス
 - スキャン日付
 - メモリ
 - ディスク容量
 - その他
- [電話機] (SQL名: amPhone) テーブル
このテーブルは、[資産] テーブルのオーバーフローテーブルです。電話機を作成すると、[ポートフォリオ品目] テーブル、[資産] テーブルおよび[電話機] テーブルにレコードが作成されます。
テレフォニー資産に関する情報を記録します。
 - ボイスメール
 - 内線
 - 番号
 - その他
- [インストール済ソフトウェア] (SQL名: amSoftInstall) テーブル
[インストール済ソフトウェア] テーブルは、[ポートフォリオ品目] テーブルのオーバーフローテーブルです。インストール済ソフトウェアを作成すると、[ポートフォリオ品目] テーブルおよび[インストール済ソフトウェア] テーブルにレコードが作成されます。

インストール済ソフトウェアテーブルには、インストール済ソフトウェアに固有の以下の情報を保存します。

- ライセンス番号
- 許可
- インストールの種類
- ソフトウェアをインストールする度に消費されるポイント数（「Microsoft Select」タイプのライセンスの場合）
- その他

図 1.2. オーバーフローテーブル - データモデル



ポートフォリオ品目の説明とトラッキング情報

AssetCenterでは、ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定し、トラッキングすることが可能です。

コンテキスト情報の指定

ポートフォリオ管理の主要目的の1つは、ポートフォリオ品目にそのコンテキスト情報を関連付けることです。ポートフォリオに含まれる品目数に関係なく、正確に各品目のコンテキスト情報を指定する必要があります。このため、AssetCenterは各ポートフォリオ品目またはロットに関する以下の情報を指定します。

- ポートフォリオにおけるステータス
 - 責任者と使用者
 - 設置場所
 - コストセンタ
 - リンクしているその他のポートフォリオ品目（関連資産、消耗品、用品）
- ポートフォリオ品目の設置場所を正確に把握すると、次のことが可能になります
- ポートフォリオ品目の移動を効率的にモニタする（例：複数のコンピュータを別の部署に割り当てる）。
 - 各部署のニーズを評価する（例：1部署につき必要なコピー機の台数を計算する）。
 - 新たに取得したコンピュータ機器を均等に割り当てる。
 - 割当済みのハードウェアの設置場所を即時確認する。
 - 1人の従業員に同じ資産を2つ割り当てることを避ける（例：複数のノートパソコンを使用するコンサルタント）。
 - ポートフォリオ品目にリンクしているコストセンタが再構成された場合、関連情報を適切に変更する。
 - その他。

トラッキング

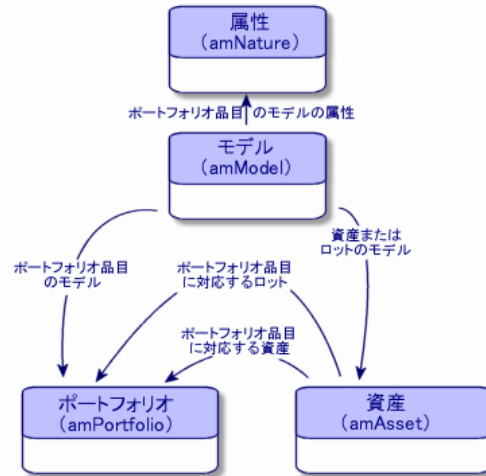
ポートフォリオ品目のトラッキングは必須です。AssetCenterでは、ポートフォリオ品目の個別またはロット別のトラッキングを選択できます。精密にトラッキングする必要がないと見なされるポートフォリオ品目（事務用品や消耗品）に対しては、非個別管理（トラッキングしないロット別）を適用します。この場合、コンテキスト情報のみが記録されます。

資産またはロットをトラッキングすると、次のことが可能になります。

- 資産またはロットを固定資産として管理する。
- 調達モジュールを使用する場合、リンクしている購入依頼、見積、発注および受領に関する情報を得る。
- 関連経費を把握する。
- リンクしているプロジェクトや作業指示を把握する。
- 取得方法を確認する（購入、リース、ローン）。

属性：作成と動作オプション

ポートフォリオ品目を適切に構成するためには、まずモデルを最適な方法で構成する必要があります。モデルは属性を基にして作成されるため、モデルを作成する前に、属性を作成します。



モデルの属性では、モデルが継承する様々な基準を定義します。モデルを基にして、AssetCenterで管理されるポートフォリオ品目やその他の要素（契約、研修、作業指示、ケーブルなど）を作成します。

属性は、属性にリンクするモデルがどのテーブルにレコードを作成するかを指定します。例えば、属性「コンピュータ」は、[ポートフォリオ品目]テーブルにコンピュータを作成するのに必要なモデルを作成するために使われます。ポートフォリオ品目作成用の属性では、「管理条件」を第2の基準として指定する必要があります。

また、ポートフォリオ品目のモデル作成用の属性では、動作オプションを選択できます。例えば、属性[コンピュータ]で、動作オプション[接続可能]を選択すると、接続ポートに関連するタブページが使用可能になります。

属性の作成基準

属性の詳細画面で、この属性を基にするモデルがどのテーブルにレコードを作成するかを指定します。例えば、ポートフォリオ品目のモデルを作成するための属性や、契約のモデルを作成するための属性などがあります。

ポートフォリオ品目を作成するための属性に対しては、オーバーフローテーブル（[コンピュータ]テーブル、[インストール済ソフトウェア]テーブル、[電話機]テーブルなど）を指定できます。例えば、ある属性はポートフォリオ品目のモデルとコンピュータのモデルの作成に使用されると仮定します。この場合、この属性を基にしてポートフォリオ品目を作成すると、同時に[コンピュータ]テーブルにもレコードが作成されます（▶ [コンピュータの属性を作成する](#) [修繕7]）。

詳細については、マニュアル『管理』の「データベースの標準記述ファイル」の章を参照してください。

管理条件

管理条件を指定すると、ポートフォリオ品目の管理方法を定義できます。

ポートフォリオ品目の管理条件では、資産タグを使用するかどうかを指定します。資産タグの付いたポートフォリオ品目は、[ポートフォリオ品目]テーブルと[資産]テーブルに自動的に記録されます。以下の3種類の管理条件があります。

- 固有資産タグ
固有資産タグが割り当てられているポートフォリオ品目は、個別にトラッキングされる資産に当たります。常時正確にトラッキングする必要のある高価値のポートフォリオ品目に対して、この制限条件を適用することをお勧めします（例：サーバ、工作機械、コピー機）。
- 固有/共有資産タグ
同じ資産タグを共有するポートフォリオ品目の集まりは、「トラッキングするロット」と呼ばれ、ロット単位で管理されます。個別にトラッキングする必要のない同一のポートフォリオ品目を管理するために、この管理条件を使用することをお勧めします（例：椅子100脚のロット、安全ヘルメット20個のロット）。
- 個別管理しない
ポートフォリオ品目の属性で「個別管理しない」を管理条件として選択すると、資産タグの有無を自由に管理できます。資産タグを持たないポートフォリオ品目は、精密なトラッキングを必要としないポートフォリオ品目です。このようなポートフォリオ品目は、「トラッキングしないロット」と呼ばれ、[資産]テーブルには記録されません。例えば、低価値の事務用品（鉛筆、消しゴム、クリップ）や、消耗品（消耗品のロットは、消耗品を消費するポートフォリオ品目経由でトラッキングされます）などにこの管理条件を適用します。

属性における動作オプション

品目の属性で1つまたは複数の動作オプションを選択することにより、それらの品目のテーブルで特定のフィールドおよびタブが使用できるかどうかが変わりま

す。例えば、ポートフォリオ品目の属性で [ライセンス] を選択すると、[モデル] テーブルに [ライセンス] タブが表示されます。AssetCenterでは以下の動作オプションが使用可能です。

- ソフトウェアをインストール
- 接続可能
- 消耗品
- ケーブルデバイス
- ライセンス

モデル：ポートフォリオの構成

ポートフォリオ品目のモデルを作成すると、このポートフォリオ品目の作成時に継承される様々な情報を指定することができます。例えば、名前、メーカ、コンピュータに特有の技術情報などです。

モデルは階層構造で構成されています。一般的なモデルを使って、具体的なモデルを統括します。各企業のポートフォリオの管理方法を反映した方法で、モデルを作成、分類しなければなりません。

2 | ポートフォリオ品目

本章では、ポートフォリオ品目の管理方法について説明します。ここでは、次のテーブルのレコードの編集方法を扱います。

- [属性] (SQL名 : amNature) テーブル
- [モデル] (SQL名 : amModel) テーブル
- [ポートフォリオ品目] (SQL名 : amPortfolio) テーブル
- [資産] (SQL名 : amAsset) テーブル
- [コンピュータ] (SQL名 : amComputer) テーブル
- [インストール済ソフトウェア] (SQL名 : amSoftInstall) テーブル
- [電話機] (SQL名 : amPhone) テーブル

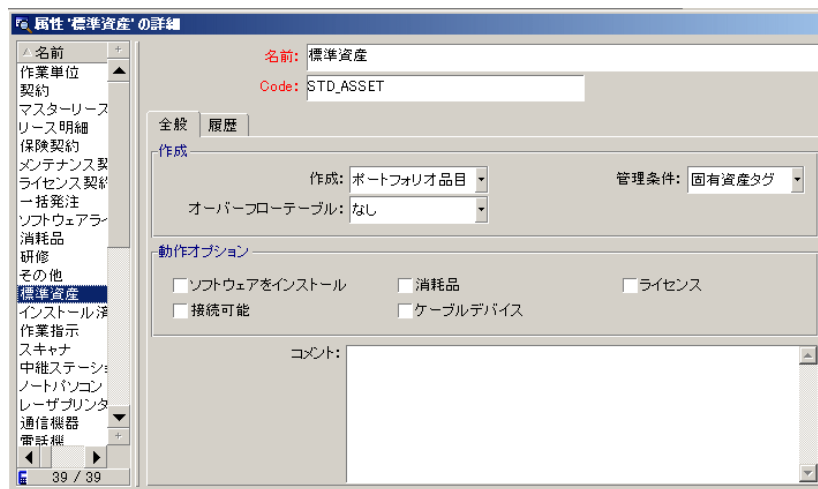
属性

ポートフォリオ品目用のモデルを作成するためには、まず属性を定義する必要があります。属性ではポートフォリオ品目の管理条件を定義します。企業で適用するポートフォリオ品目の管理タイプの数と同じ数だけ属性を作成します。例えば、ソフトウェアを「資産」、「ロット」および「トラッキングしないロット」として管理する場合、「ソフトウェア」、「ソフトウェア(ロット)」、および「ソフトウェア(トラッキングしないロット)」という3つの属性を作成します。

属性のリストを表示するには、以下の3つの方法があります。

-  をクリックします。

- [ポートフォリオ/属性]メニューを選択します。
- 機能とお気に入りのパネルで、[属性]をクリックします（[ポートフォリオ管理]トピック）。



ポートフォリオ品目の属性を作成する

ポートフォリオ品目のモデルの属性を作成するには、次の手順に従います。

- 1 属性のリストを表示します（[ポートフォリオ/属性]メニュー）。
- 2 [新規作成]をクリックします。
- 3 [名前]フィールドに入力します。
- 4 必要に応じて、[コード]フィールドの値を変更します。
デフォルトでは、[コード]フィールドには[名前]フィールドの値が入力されます。このフィールドには、レコードを個別に識別するためのコードを入力します。AssetCenterと他のデータベース間でデータをインポート/エクスポートする際に、このコードがレコードの識別キーとして使われます。
- 5 [作成]フィールドで[ポートフォリオ品目]を選択します。
- 6 電話機のモデルまたはコンピュータのモデル用の属性を作成する場合は、[オーバーフローテーブル]フィールドで[電話機]または[コンピュータ]を選択します。
- 7 管理条件を選択します。
- 8 必要に応じて、[動作]オプションを選択します。
- 9 [作成]をクリックして、作成を確定します。

属性の例

ポートフォリオ品目と同じ数だけ属性を作成することをお勧めします。以下の表は、様々な属性の例を示しています。

表 2.1. 属性の例

名前	オーバーフローテーブル	管理条件	動作オプション
全般			
資産	なし	固有資産タグ	オプションなし
ロット	なし	資産タグ	オプションなし
トラッキングしないロット	なし	個別管理しない	オプションなし
消耗品	なし	個別管理しない	消耗品
原料	なし	資産タグ	オプションなし
IT			
コンピュータ	コンピュータ	固有資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ソフトウェアをインストール ■ 接続可能
コンピュータ (ロット)	なし	資産タグ	オプションなし
インストール済ソフトウェア	インストール済ソフトウェア	固有資産タグ	オプションなし
インストール済ソフトウェア (ロット)	インストール済ソフトウェア	資産タグ	オプションなし
インストール済ソフトウェア (トラッキングしないロット)	インストール済ソフトウェア	個別管理しない	オプションなし
ライセンス	なし	固有資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ライセンス
ライセンス (ロット)	なし	資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ライセンス
ライセンス (トラッキングしないロット)	なし	個別管理しない	<ul style="list-style-type: none"> ■ ライセンス
コンピュータの標準セット	コンピュータ	資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ソフトウェアをインストール ■ 接続可能
その他			
ケーブルデバイス	なし	固有資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ケーブルデバイス

名前	オーバーフローテーブル	管理条件	動作オプション
電話機	電話機	固有資産タグ	オプションなし

モデル


モデルは、ポートフォリオ品目を分類するために使用されます。モデルは、属性を基にして作成されます。必要に応じて、一般的なモデルまたはより具体的なモデルを作成します。

ソフトウェアのモデルを構成する場合の例

以下の例では、ソフトウェアのモデルを構成する方法を説明します。

- 1 ソフトウェアの全モデルは、ポートフォリオ品目を作成する属性を基に作成されています。ソフトウェアの管理方法に応じて、管理条件（個別管理、一括管理、非個別管理）を選択します。
- 2 一般的なモデル「ソフトウェア」モデルを作成します。
- 3 従属モデルを使って、用途別にソフトウェアを分類します（例：自動化ツール、ERP、プロジェクト管理など）。
- 4 従属モデル「自動化ツール」用に、特定のアプリケーションのモデルを作成します（例：ワードプロセッサ、スプレッドシート、DTP、ファイル管理など）。
- 5 モデルの階層構造の終わりに作成されるモデル（例：ソフトウェア/自動化ツール/ワードプロセッサ/Microsoft Word 2001）が [ポートフォリオ品目] テーブルでソフトウェアを入力する際に使用されます。

モデルのリストを表示するには、以下の3つの方法があります。

-  をクリックします。
- [ポートフォリオ/モデル] メニューを選択します。
- 機能とお気に入りのパネルで、[モデル] をクリックします（[ポートフォリオ管理] トピック）。

ポートフォリオ品目のモデルを作成する

モデルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [新規作成] をクリックします。
- 2 [全般] タブページで [属性] フィールドに入力します。
- 3 [名前] フィールドに入力します。
- 4 [親モデル] フィールドに親モデルを入力します。

- 例：[自動化ツール] を作成する場合は、[親モデル] フィールドに「ソフトウェア」と入力します。
- 特定のモデルを作成する場合は、[メーカー] フィールドに入力します。
例：モデル「Word 2001」を作成する場合、[メーカー] フィールドに「Microsoft」と入力します。
 - ロットの場合は、使用する単位を選択します。
 - 作成するモデルを購入依頼で使用できる場合は、[購入依頼用に承認済] オプションを選択します。必要に応じて、承認日と承認レベルを入力します。
 - [作成] をクリックして、作成を確定します。
 - モデルを基にするポートフォリオ品目が継承する情報を、適切なタブページで入力します。

ロットで使用する単位

ロットのモデルを作成する場合、モデルの単位を指定しなくてはならないときがあります。例えば、砂のロットのモデルを作成する場合、単位「トン」を使用します。

単位を作成するには、ポートフォリオで使用する測定項目（次元）用に、基準単位をあらかじめ作成する必要があります。次元には、温度、寸法、質量などがあります。基準単位が一旦作成されると、他の単位を無限に作成できます。これらの単位に対して、基準単位との変換係数を指定します。例えば、次元「質量」の基準単位「キログラム」と単位「トン」を作成したと仮定します。この場合、「トン」の変換係数は1000です（ $1000\text{kg} = 1\text{t}$ ）。

ポートフォリオ品目のモデルで選択された単位は、[ポートフォリオ品目] テーブルと [資産] テーブルの [数量] フィールドの右横に記号で表示されます。

基準単位を作成する

基準単位を作成するには、次の手順に従います。

- 単位のリストを表示します（[管理 / 単位] メニュー）。
- [新規作成] をクリックします。
- [名前]、[次元]、[記号] フィールドに入力します（例：キログラム、質量、Kg）。
- [変換係数] フィールドに「1」と入力します。
- [作成] をクリックして、作成を確定します。

単位を作成する

単位を作成するには、次の手順に従います。

- 単位の詳細を表示します（[管理 / 単位]）。

- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [名前]、[次元]、[記号] フィールドに入力します (例: ポンド、質量、Lb)。
次元を選択すると、[変換係数] フィールドの隣にあるフィールドに、この次元の基準単位の記号が表示されます。
- 4 基準単位を作成する単位に変換するための係数を [変換係数] フィールドに入力します。例えば、ポンドの場合は「0.454」と入力します (1ポンド=0.454キログラム)。
- 5 [作成] をクリックして、作成を確定します。

単位の表示

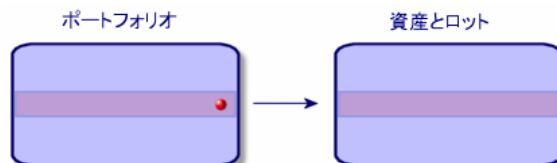
使いやすさのために、単位画面をカスタマイズし、仮想的な階層を作成することをお勧めします。

例えば、単位の次元で情報をまとめることができます。

- 1 単位の詳細を表示します ([管理/単位])。
- 2 [次元] フィールドを右クリックします。
- 3 ショートカットメニューから [このフィールドでグループ分け] を選択します。
リストは次元でソートされ、各次元が階層の1レベルを定義します。

資産


AssetCenterでは「資産」は固有資産タグの付いたポートフォリオ品目に当たります。つまり資産の属性では、管理条件が「固有資産タグ」に指定されています (▶管理条件 [修訂4])。この管理条件は、「個別管理」に対応します。データベース上では、資産は、[資産] テーブルの1レコードと [ポートフォリオ品目] テーブルの1レコードで参照されます。



 注意:

[資産] テーブルのレコードで、[ポートフォリオ] タブをクリックすると、対応するポートフォリオ品目の詳細情報を参照できます。

資産のリストを表示するには、以下の3つの方法があります。

-  をクリックします。
- [ポートフォリオ / 資産とロット] メニューを選択します。
- 機能とお気に入りのパネルで、[資産] をクリックします ([ポートフォリオ管理] トピック)。

資産を作成する

資産を作成するには、次の手順に従います。

- 1 資産のリストを表示します。
- 2 [新規作成] をクリックします。
[全般] タブページで新規レコードに資産タグが割り当てられます。
- 3 [モデル] フィールドでモデルを選択します。
資産のモデルは、管理条件 [固有資産タグ] を指定する属性を基盤にしています (▶ [管理条件 \[修献4\]](#))。
選択されたモデルで接頭コードが指定されている場合、この接頭コードが資産タグでも使用されます。
- 4 [作成] をクリックして、作成を確定します。
- 5 必要に応じて、資産に関するトラッキング情報を各タブページで入力します。
[全般]、[ポートフォリオ]、[プロジェクト] タブを除く全タブページは以下の分野に関連するトラッキング情報を含んでいます。
 - 財務分野
 - コスト
 - 取得方法
 - 固定資産このトラッキング分野に関しては、「[資産に関する財務情報のトラッキング \[修献3\]](#)」の節を参照してください。
 - IT分野
 - ライセンス
 - 接続
 - ポートこのトラッキング分野に関しては、「[ITポートフォリオ \[修献7\]](#)」と「[ソフトウェア \[修献3\]](#)」の章を参照してください。
 - 契約分野

- 契約
- メンテナンス
 - ▶ 資産を契約に関連付ける [[修献0](#)]およびマニュアル『[契約](#)』を参照してください。
- ケーブル分野
 - スロット
 - ピン/ターミナル
 - トレース
 - ポート

ケーブル情報のトラッキングに関しては、マニュアル『[ケーブル](#)』を参照してください。

資産にポートフォリオ品目に関連付ける

ポートフォリオ品目が資産である場合、これに他のポートフォリオ品目に関連付けることができます。資産に関連付けられるポートフォリオ品目は、次のカテゴリに分類できます。

- 消耗品

消耗品はポートフォリオ品目であり、基になるモデルの属性で [消耗品] オプションが選択されています。

動作オプションの詳細については、「[属性：作成と動作オプション \[修献3\]](#)」の節を参照してください。
- インストール済ソフトウェア

インストール済ソフトウェアは、ポートフォリオ品目であり、基になるモデルの属性の詳細画面にある [オーバーフローテーブル] (SQL名: seOverflowTbl) フィールドで [インストール済ソフトウェア] が選択されています。

 - ▶ [ソフトウェアライセンス \[修献5\]](#)
- ライセンス

ライセンスはポートフォリオ品目であり、基になるモデルの属性で [ライセンス] オプションが選択されています。

 - ▶ [インストール済ソフトウェア \[修献01\]](#)

資産にポートフォリオ品目に関連付ける

資産にポートフォリオ品目に関連付ける方法には、以下の条件に応じて複数の方法があります。

- データベースにポートフォリオ品目が既に存在する場合
- 関連付ける時にポートフォリオ品目を仮作成する場合

- ポートフォリオ品目が在庫にあるロットで、ロットに含まれている一部のアイテムのみを関連付ける場合


リストの左手にデフォルトで表示されるフィルタオプションを使用すると、資産に関連付けられているポートフォリオ品目に対して属性別に（消耗品、ライセンス、インストール済ソフトウェア）フィルタを適用できます。

[開始] フィールドと [終了] フィールドを使用すると、関連付けを行った日付に応じてフィルタを適用できます。

既存のポートフォリオ品目を資産に関連付けるには、次の手順に従います。

- 1 ポートフォリオ品目のリストを表示します（ [ポートフォリオ/ポートフォリオ品目] メニュー）。
- 2 資産に関連付けるポートフォリオ品目を選択します。
- 3 [親レコード]（SQL名：Parent）リンクで関連付け先の資産を選択します。
- 4 [変更] をクリックします。

仮作成のポートフォリオ品目を資産に関連付けるには、次の手順に従います。

- 1 資産のリストを表示します（ [ポートフォリオ/資産とロット] メニュー）。
- 2 ポートフォリオ品目の関連付け先となる資産を選択します。
- 3 [ポートフォリオ] タブページの [コンポーネント] サブタブページを選択します。
- 4  をクリックします。
- 5 資産に関連付けるポートフォリオ品目を作成します。
- 6 [追加] をクリックします。

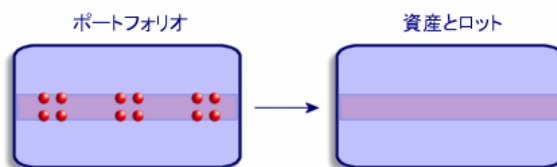
在庫にあるロットに含まれている一部のアイテムを資産に関連付けるには、次の手順に従います。

- 1 ポートフォリオ品目のリストを表示します（ [ポートフォリオ/ポートフォリオ品目] メニュー）。
- 2 在庫中のポートフォリオ品目の関連付け先となる資産を選択します。
- 3 [在庫] ボタンをクリックします。
- 4 [在庫の品目を追加する] ウィザードが表示されるのを待ちます。
- 5 [在庫の品目を選択する] 画面で、資産に関連付けるロットを選択します。
- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 [数量] ページで、資産に関連付けるロットのアイテムの数量を選択します。必要に応じて他のフィールドにも入力します。

8 [終了]をクリックします。

ロット

AssetCenterでは「ロット」は資産タグの付いたポートフォリオ品目に当たります。つまり資産の属性では、管理条件が「資産タグ」に指定されています（▶管理条件 [修融4]）。この管理条件は、個別（固定資産タグ）ではなく「一括管理」に対応します。ロットとは、同一の品物の集まりです（例：安全ヘルメット1000個のロット）。ロットには、可算のロット（キーボード、セメント袋のロット）と不可算のロット（セメント、砂、灯油）があります。付加算の品目の単位にはキログラム、トン、リットル、メーターなどが使用されます。ロットが作成されると、[資産]テーブルと[ポートフォリオ品目]テーブルの各々に1レコードが作成されます。




注意:

[資産]テーブルのレコードで、[ポートフォリオ]タブをクリックすると、対応するポートフォリオ品目の詳細情報を参照できます。

あるロットを複数のロットに分割した場合、[ポートフォリオ品目]テーブルには複数のレコードが作成されます。ただし、分割されたロットはすべて、[資産]テーブルの単一のレコードにリンクされたまま変わりません（▶ロットを分割する [修融8]）。

資産のリストを表示するには、以下の3つの方法があります。

-  をクリックします。
- [ポートフォリオ / 資産とロット]メニューを選択します。
- 機能とお気に入りのパネルで、[資産]をクリックします（[ポートフォリオ管理]トピック）。

ロットを作成する

ロットを作成するには、次の手順に従います。

- 1 資産のリストを表示します（ [ポートフォリオ / 資産とロット] メニュー）。
- 2 [新規作成] をクリックします。
[全般] タブページで新規レコードに資産タグが割り当てられます。
- 3 [モデル] フィールドでモデルを選択します。
ロットのモデルは、管理条件「資産タグ」が指定されている属性を基に作成されています（▶ [管理条件](#) [[修献4](#)]）。
選択されたモデルで接頭コードが指定されている場合、この接頭コードがロットの資産タグでも使用されます。
- 4 ロットの数量を指定します。
ロットを定義するために、ロットで使用する基準単位を選択します（▶ [ロットで使用する単位](#) [[修献1](#)]）。
- 5 [作成] をクリックして、作成を確定します。
- 6 必要に応じて、ロットに関するトラッキング情報を各タブページに入力します。

[全般]、[ポートフォリオ]、[プロジェクト] タブを除く全タブページは以下の分野に関連するトラッキング情報を含んでいます。

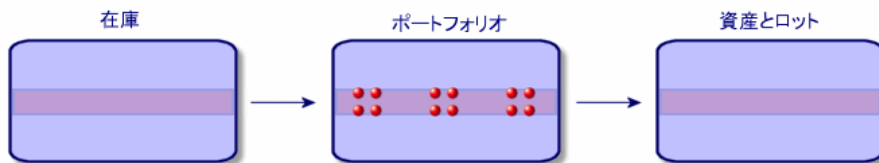
- 財務分野
 - コスト
 - 取得方法
 - 固定資産
 - ▶ [資産に関する財務情報のトラッキング](#) [[修献3](#)]
- IT分野
 - ライセンス
 - 接続
 - ポート
 - ▶ [ITポートフォリオ](#) [[修献7](#)] および [ソフトウェア](#) [[修献3](#)]
- 契約分野
 - 契約
 - メンテナンス
 - ▶ [資産を契約に関連付ける](#) [[修献0](#)] および [マニュアル『契約』](#)
- ケーブル分野
 - スロット
 - ピン/ターミナル
 - トレース
 - ポート

ケーブル情報のトラッキングに関しては、マニュアル『ケーブル』を参照してください。

ロットを分割する

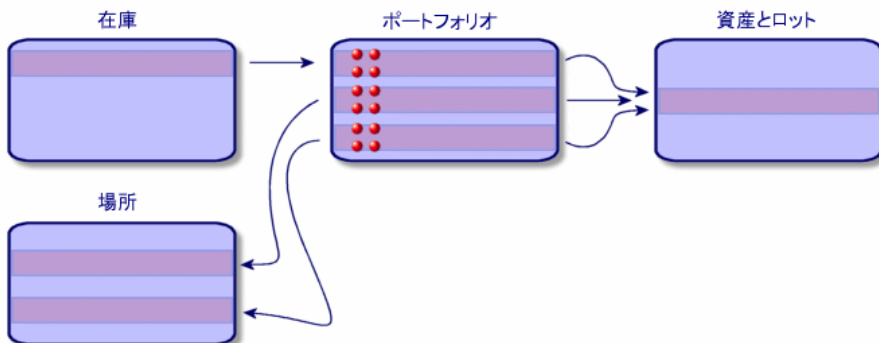
ロットを分割すると、元のロットのレコード（[資産]テーブル）から、[ポートフォリオ品目]テーブルに複数のレコードを作成できます。

例：椅子12脚のロットを受領し、在庫に入れると、[資産]テーブルに1レコードを作成します。データベース上では、[資産]テーブルと[ポートフォリオ品目]テーブルの各々に1レコードが作成されます。このロットを在庫に入庫します。



次にこのロットを、椅子4脚を含む3つのロットに分割します。1つのロット（椅子4脚）を在庫に保管したままにし、残りの2つのロットを2つの場所（AとB）に割り当てます。この場合、[資産]テーブルにある元のロットのレコードに変更はありません。しかし、[ポートフォリオ品目]テーブルは、以下の3つのロットに対応する3つのレコードが存在するように変更されます。

- 在庫に残す椅子4脚のロット
- 場所Aに割り当てられた椅子4脚のロット
- 場所Bに割り当てられた椅子4脚のロット



ロットを分割する

次の2とおりの方法でロットを分割できます。

- [ロットを分割する]ウィザードを使用する。
- [資産]テーブルから[ポートフォリオ品目]テーブルに向けて複数のリンクを作成する。

[ロットを分割する]ウィザードを使用する

[ロットを分割する]ウィザードを使用するには、次の手順に従います。

- 1 ポートフォリオ品目のリストを表示します。
- 2 分割するロットを選択します。
- 3 [分割]をクリックします。
- 4 [ロットの分割]ウィザードの画面が表示されるのを待ちます。

抽出数	1
割当	使用中
ユーザ	安西 博子
責任者	木村 敦子
在庫	大阪事務所の在庫
場所	/札幌事務所/ビル02/2階/
親しコード	1 Compaq Deskpro 4000S (DKTC)

- 5 [抽出数]フィールドに新しいロットに含める数量を入力します。
- 6 新しいロットに関する情報を入力します(場所、ユーザ、責任者など)
- 7 [終了]をクリックします。

[ポートフォリオ品目]テーブルでは、元のロットの数量が新しいロットの数量分減少しているはずですが、また同テーブルに新しいロットのレコードが作成されています。

[資産]テーブルから[ポートフォリオ品目]テーブルに向けて複数のリンクを作成する

[資産]テーブルから[ポートフォリオ品目]テーブルに向けて複数のリンクを作成するには、次の手順に従います。

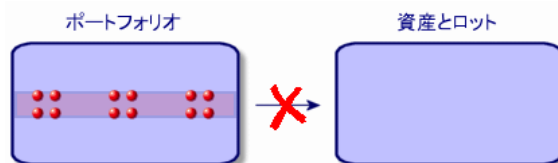
- 1 資産のリストを表示します。
- 2 ロットのレコードを選択します。
- 3 [ポートフォリオ]タブを選択し、[ポートフォリオ品目]テーブルに向けてリンクを作成します。

[資産]テーブルのレコードが、[ポートフォリオ品目]テーブルの複数のリンクに関連付けられるのと同時に、これらのリンクをリスト形式で表示することをお勧めします（[ポートフォリオ]タブページ内にマウスカーソルを置いてから、右クリックして[リスト形式で表示]メニューを選択します）。


トラッキングしないロット

「トラッキングしないロット」とは、管理条件が「個別管理しない」に指定されている属性を基にして作成するポートフォリオ品目を指します（▶ [管理条件 \[俊敏4\]](#)）。この管理条件は、「非個別管理」に対応します。

トラッキングしないロットは、[ポートフォリオ品目]テーブルのみに記録されます。これにより、トラッキングしないロットの場所、ユーザ、責任者、コストセンタなどのコンテキスト情報が指定されます。トラッキングしないロットは[資産]テーブルでは参照されないため、財務情報、技術情報、契約情報は関連付けられていません。低価値のポートフォリオ品目（消耗品やサプライ品）は、トラッキングしないロットとして管理されます。例えば、鉛筆やインクカートリッジなどがこれに当たります。消耗品は、これを消費するポートフォリオ品目を經由して、間接的にトラッキングされます。



ポートフォリオ品目のリストを表示するには、以下の3つの方法があります。

-  をクリックします。
- [ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]メニューを選択します。
- 機能とお気に入りのパネルで、[ポートフォリオ品目]をクリックします（[ポートフォリオ管理]トピック）。

トラッキングしないロットを作成する

トラッキングしないロットを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ポートフォリオ品目のリストを表示します（[ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]メニュー）。
- 2 [新規作成]をクリックします。
この新しいレコードにはコードが割り当てられます。
- 3 [モデル]フィールドでモデルを選択します。
- 4 トラッキングしないロットに含まれる数量を指定します。
ロットを定義するために、ロットで使用する基準単位を選択します（▶[ロットで使用する単位](#) [[俊融1](#)]）。
- 5 [作成]をクリックして、作成を確定します。
- 6 必要に応じて、ロットに関するコンテキスト情報を各タブページに入力します（▶[ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定する](#) [[俊融8](#)]）。

消耗品

「消耗品」とは、一旦資産に関連付けると、その関連付けが解除できないポートフォリオ品目を指します。「消耗品」は、管理条件が[個別管理しない]に指定されている属性を基にして作成されます。また、属性の動作オプションを[消耗品]に指定する必要があります（▶[管理条件](#) [[俊融4](#)]）。

▶[資産にポートフォリオ品目を関連付ける](#) [[俊融4](#)]

トラッキングしないロットを分割する

トラッキングしないロットを分割するには、次の手順に従います。

- 1 ポートフォリオ品目のリストを表示します。
- 2 分割するロットを選択します。
- 3 [分割]をクリックします。

- 4 [ロットを分割する]ウィザードの画面が表示されるのを待ちます。

- 5 [抽出数]フィールドに新しいロットに含める数量を入力します。
- 6 新しいロットに関する情報を入力します(場所、ユーザ、責任者など)
- 7 [終了]をクリックします。
- [ポートフォリオ品目]テーブルでは、元のロットの数量が新しいロットの数量分減少しているはずですが、また同じテーブルに新しいロットのレコードが作成されています。

トラッキングしないロットをトラッキングするロットに変える

いろいろな理由から、トラッキングしないロットをトラッキングするロットに変える必要がある場合があるかもしれません。例えば、複数のプロジェクトに、複数の見本市で使用する機のロットをリンクすると仮定します。この場合、このロットに対応するレコードを[資産]テーブルに作成します。

トラッキングしないロットを変換するには、次の手順に従います。

- 1 ポートフォリオ品目のリストを表示します。
- 2 トラッキングしないロットを選択します。
- 3 [タグ]をクリックします。

この結果、ロットに対応するレコードが[資産]テーブルに作成され、これに資産タグが割り当てられます。資産タグは、[資産]テーブルのレコードのみに割り当てられる識別用の情報です。

資産に関する財務情報のトラッキング

資産に関する財務情報のトラッキングでは、以下の情報が記録されます。

- 資産の取得方法
どの方法でメールサーバを取得したか（購入、リースまたはローン）
- 資産に関連する経費
部署Aのコピー機のために50リームのコピー用紙を含むロットを何度注文したか？
- 固定資産の詳細情報
どの減価償却方法を社用車に適用するか？

財務情報をトラッキング（表示、編集）するには、資産のリストを表示し、以下の3つのタブの1つを選択します。

- [取得] タブページ
- [コスト] タブページ
- [固定資産] タブページ



注意:

ここで指す「資産」は、[資産]テーブルに登録されている資産とロットの両方を総称的に意味します。

資産の取得

[取得] タブページでは、主に資産の取得に関する情報が表示され、このタブページの情報の大半は、サブタブページに分類されています。

取得方法

AssetCenterでは、資産の4つの取得方法を管理できます。

- 購入
- レンタル
- リース
- ローン

選択した取得方法に応じて、次の表示情報が変わります。

- 資産の詳細画面にある特定のタブページ
- [取得] タブページの特定のフィールド
- [取得] タブページの特定のサブタブページ

デフォルトの [取得方法] (SQL名: seAcquMethod) は、 [購入] です。他には、 [レンタル]、 [リース] [ローン] が選択可能です。

資産の取得に関連する契約

選択した取得方法に関係なく、 [調達] サブタブページで契約を取得に関連付けることができます。選択した契約は、資産の詳細画面の [契約] タブページに表示されます。



警告:

契約の選択を確定すると、資産の [取得方法] (SQL名: seAcquMethod) が、契約の詳細画面の [全般] タブページにある [取得方法] (SQL名: seAcquMethod) フィールドで指定したファイナンス情報を表示するように自動的に変更されません。

資産またはロットの取得に関連する会社

[調達] サブタブページでは、次のことを選択できます。

- レンタルまたはリース資産の場合は [貸主コード] (SQL名: LessorCode)
- ローン資産の場合は [貸主]

賃貸料に関する追加情報用のサブタブページ

選択した取得方法に関係なく、 [取得] タブページに賃貸料情報用のサブタブページを追加できます。サブタブのラベル部分をマウスの右ボタンでクリックして、ポップアップメニューから [リンクレコードの追加] を選択します。


ここでは、非常に幅広い意味で賃貸料という用語を使います。例えば、保険手数料、メンテナンス契約の支払など、定期的に支払う金額と考えることができます。

これらのサブタブページは、リース賃貸料の情報を入力するサブタブページと似ています。

資産のコスト

資産の詳細画面の [コスト] タブページには、資産に関連する経費明細のリストが表示されます。

専用フィルタが、リストの上部に表示されます。

フィルタで経費明細を検索した後に  ボタンを使うと、リストに表示されている経費明細のコストの合計を計算できます。

固定資産を定義する

ここでは、次の事項について説明します。

- 固定資産の詳細情報を入力する
- 固定資産の会計情報を資産と関連付ける

固定資産の詳細情報を入力する

資産の減価償却の詳細情報を入力および計算する

資産の減価償却に関する情報は、資産の詳細画面の [固定資産] タブページにあります。

このタブページは、[取得] タブの [取得方法] (SQL名: seAcquMethod) フィールドが [購入] に設定されている場合のみ表示されます。

このタブページには2種類の情報が表示されます。

- 画面左側には、資産の減価償却と残存価額の計算に使うフィールドとリンクが含まれています。
- 画面右側のリストには、資産をAssetCenterにインポートした後に、資産に関連付けられた [固定資産] (SQL名: amFixedAsset) テーブルのレコードが表示されます。

減価償却の計算式は、[減価償却の計算式] (SQL名: amDeprScheme) テーブルで定義します。

資産に適用する減価償却の計算方法は、[減価償却方法] (SQL名: DeprScheme) フィールド (リンク) を使って選択します。

減価償却の計算式を定義する

減価償却の計算式を定義するには、次の手順の1つに従います。

- 資産の詳細画面で次の操作を行います。
 - 1 [固定資産] タブページを表示します。
 - 2 回 ボタンをクリックします。
- [管理 / 画面一覧] メニューを選択します。
 - 1 [減価償却の計算式] のリスト (SQL名: amDeprScheme) を選択します。
 - 2 [新規作成] をクリックします。
 - 3 [全般] タブページに入力します。
 - 4 [スクリプト] タブページで計算スクリプトを作成します。

スクリプトには、次のフィールドを使って減価償却値を計算することを指定します。

- [減価償却の計算式] テーブル
 - [期間] (SQL名: tsDeprDur) フィールド

- [加速係数] (SQL名: fCoeff) フィールド
- [償却率] (SQL名: pRate) フィールド
- [資産] (SQL名: amAsset) テーブル
 - [開始日] (SQL名: dStartAcqu) フィールド
 - [減価償却基準] (SQL名: mDeprBasis) フィールド
 - [見積日] (SQL名: dDeprRecalc) フィールド

計算された結果によって、[減価償却] (SQL名: mDeprVal) フィールドの値が変わります。

注意:

[残存価額] (SQL名: mNetValue) フィールドは、[減価償却基準] フィールドまたは [減価償却] フィールド、あるいはその両方が変更されるとAssetCenterにより自動的に再計算されます。

定額法による減価償却の単純な計算スクリプトの例を示します。

```
Dim iNbOfDays As Integer
iNbOfDays = amDateDiff([dDeprRecalc],[dStartAcqu])
If (iNbOfDays <= 0) Or ([DeprScheme.tsDeprDur] <= 0) Then
Set [mDeprVal] = 0
ElseIf (iNbOfDays >= [DeprScheme.tsDeprDur]) Then
Set [mDeprVal] = [mDeprBasis]
Else
Set [mDeprVal] = [mDeprBasis] * iNbOfDays / [DeprScheme.tsDeprDur]
End If
Set [dDeprRecalc] = amDate -> Set [dDeprRecalc] = amDate()
```

[減価償却] フィールドの値は、参照フィールドが変更されると、AssetCenterの自動処理機能によって自動的に再計算されます。

複数の資産の減価償却を見積もる

選択した複数の資産の [減価償却] フィールドの値を同じ日付で計算して更新するには、更新する資産を同時に選択した後で、[見積日] フィールドの値を変更します。

この処理を実行する [スクリプト] [タイプ] のアクション (SQL名: seActionType) を作成することもできます。次のようなスクリプトを使います。

```
Set [dDeprRecalc] = amDate
```

[減価償却] フィールドの値は、AssetCenterのデフォルトの自動処理機能によって更新されます。

複数の資産に対して、定期的に上記のアクションをトリガするワークフローを作成することもできます。

固定資産の会計情報を資産と関連付ける

次の2つの方法があります。

資産の詳細画面で設定

- 1 [固定資産] タブページを表示します。
- 2 資産に関連する固定資産を追加または削除します。
または、別のウィンドウで固定資産のリストを表示して、資産に関連させる固定資産を選択し、資産の [固定資産] タブページのリストにドラッグして追加することもできます。

固定資産の詳細画面で設定

- 1 [資産] タブページを表示します。
- 2 資産に関連する固定資産を追加または削除します。
または、別のウィンドウで資産のリストを表示して、固定資産に関連させる資産を選択し、固定資産の [資産] タブページのリストにドラッグして追加することもできます。

ポートフォリオ品目の移動

[ポートフォリオ品目] テーブルを使って、ポートフォリオ品目の移動を管理できます。

AssetCenterでは、各ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を変更できます。また、他のテーブルで情報を変更すると、この変更事項は、[ポートフォリオ品目] テーブルに自動的に適用されます。例えば、コピー機Aが部署Bに割り当てられたと仮定します。[ポートフォリオ品目] テーブルでこのコピー機のレコードを表示すると、この場所変更を把握することができます。また、[ポートフォリオ品目] テーブルでは、納品待ちの注文品をどの従業員が予約しているかを知ることができます。

[ポートフォリオ品目] テーブルでは、ポートフォリオ品目の移動を管理するために、特に以下の2つのタブページを使用します。

- [全般] タブページでは、ポートフォリオ品目の移動をトラッキングします。
- [予約] タブページでは、未割当のポートフォリオ品目を予約できます。

ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定する

[ポートフォリオ品目]テーブルにある[全般]タブページのフィールドに入力すると、ポートフォリオ品目のコンテキスト情報を指定できます。以下のコンテキスト情報を入力できます。

- 割当
- 使用開始日と棚卸日
- ユーザ
- 責任者
- 設置場所（未割当のポートフォリオ品目の場合は在庫場所）
- コストセンタ

デフォルトで使用されるコンテキスト情報が不十分であると判断する場合は、新しいフィールドや任意管理項目を追加できます。任意管理項目の追加に関しては、AssetCenterのマニュアル『主要テーブル』の「任意管理項目の使用方法」の章、およびマニュアル『管理』の「データベースのカスタマイズ」の章を参照してください。

[ポートフォリオ品目]テーブルでは、ロットを分割することができます。[ロットを分割する [修飾8]]ウィザードを使って、ロットに新しい場所、部署、コストセンタなどを指定できます。[ロットを分割する [修飾8]]ウィザードを使って作成したロットは、[資産]テーブルの同じレコードにリンクされたままになります。この結果、異なるコンテキスト情報を持つ複数の品目をまとめてトラッキングできます。

▶ [ロット \[修飾6\]](#)

ポートフォリオ品目を予約する

ポートフォリオ品目を予約できるのは、ポートフォリオ品目の詳細画面の[全般]タブページにある[割当]（SQL名：seAssignment）フィールドが、[在庫中]または[納品待ち]に設定されている場合だけです。

ポートフォリオ品目は、次のいくつかの方法で予約できます。

ポートフォリオ品目の詳細画面で設定

ポートフォリオ品目を予約するには、次の手順に従います。

- 1 ポートフォリオ品目のリストを表示します（[ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]メニュー）。
- 2 選択されたポートフォリオ品目の依頼明細を入力します。
- 3 予約する資産の詳細画面の[予約]タブページを表示します。

4 予約の開始および終了日と、予約した人を指定します。



予約を削除するには、[割当] フィールドの値を変更するか、予約に関連するフィールドの値を削除します。

購入依頼の詳細画面で設定


購入依頼には、次のポートフォリオ品目を含めることができます。

- [ポートフォリオ品目] テーブルにまだ存在しない、発注予定のポートフォリオ品目
- 購入依頼を介して予約されるポートフォリオ品目。このようなポートフォリオ品目は既に [ポートフォリオ品目] テーブルに作成されており、上で定義した条件を満たしています。

購入依頼からポートフォリオ品目を予約するには、次の手順に従います。

- 1 購入依頼の詳細画面を表示します。
- 2 [明細] ボタンをクリックして、依頼内容の明細を表示します。
- 3 [予約] タブページに移動します。
- 4  をクリックします。
- 5 表示されるウィンドウには、[割当] (SQL名: seAssignment) フィールドが [在庫中] または [納品待ち] に設定されているポートフォリオ品目が表示されます。
- 6 条件を満たすポートフォリオ品目が既にデータベース内にある場合は、そのポートフォリオ品目を選択してから [選択] ボタンをクリックして予約します。希望するポートフォリオ品目がない場合は、[新規作成] ボタンをクリックして新しいポートフォリオ品目を作成します。作成するポートフォリオ品目の [割当] フィールドには、[在庫中] または [納品待ち] が表示されます。必要なフィールドに情報を入力してから、[追加] ボタンをクリックしてポートフォリオ品目を作成し、次に [選択] ボタンをクリックしてそのポートフォリオ品目を予約します。
- 7 依頼の明細の詳細画面で [変更] をクリックして、予約を確定します。
- 8 必要に応じて、依頼の明細の詳細画面の [予約] タブページで  をクリックし、ポートフォリオ品目の詳細画面の [全般] タブページにある [予約終了日] (SQL名: dReservEnd) フィールドに値を入力します。

依頼から作成したポートフォリオ品目の予約を削除するには、次の手順に従います。

- 1 依頼の明細の詳細画面の [予約] タブページで予約するポートフォリオ品目を選択します。
- 2  をクリックして、予約するポートフォリオ品目を削除します。

在庫管理への影響

ポートフォリオ品目を予約すると、このポートフォリオ品目の在庫管理に影響が及びます。予約したポートフォリオ品目は、在庫レベルのチェック時にはカウントされません（▶ [在庫規則の作成](#) [修繕2]）。

注意:

予約したポートフォリオ品目の割当て先の在庫は、ポートフォリオ品目の詳細画面の [全般] タブページにある [在庫]（SQL名：Stock）フィールドに示されません。

ポートフォリオ品目の寿命を管理する

ポートフォリオ品目が使われなくなった場合（処分、廃棄、盗難、売却など）は、データベースで各ポートフォリオ品目のステータスを現状に合わせて変更し、そのままデータベースに残しておく便利です。

ポートフォリオ品目の寿命を管理するには、以下の手順に従います。

- 1 使われなくなったポートフォリオ品目を選択します。
 - 2 [全般] タブページにある [割当]（SQL名：seAssignment）フィールドを [除却済] に設定します。
 - 3 必要に応じて、[親レコード]（SQL名：Parent）フィールドのテキストを削除して、親資産からこのポートフォリオ品目を切り離します。
 - 4 必要に応じて、[固定資産]、[契約]、[メンテ]、[取得]、[接続]、および [プロジェクト] タブページの情報も更新します。
-

注意:

ポートフォリオ品目のレコードを削除すると、ポートフォリオ品目に関する情報はすべて失われます。このため、使用期間が終了しても、情報（減価償却、履歴、メンテナンスなど）を保存する必要があるポートフォリオ品目は、ステータスを「除却済」に変更することをお勧めします。

資産を契約に関連付ける

資産を1つまたは複数の契約に関連付けることができます。

資産の詳細画面の [契約] タブページと [取得] タブページに、資産に関連付けられている契約のリストが表示されます。

 注意:

ここで指す「資産」は、[資産]テーブルに登録されている資産とロットの両方を総称的に意味します。

[契約] タブページ

資産の詳細画面の [契約] タブページには、資産に関連する契約のリストが表示されます。

専用フィルタはタブページの上部に表示されます。

このフィルタを使うと、以下の3条件に応じて契約を表示できます。

- フィルタ [すべて] は、すべての契約を表示します。
- フィルタ [有効] は、一定の期間で有効な契約を表示します。
- フィルタ [失効] は、有効期限の切れた契約を表示します。

関連契約は、属性、会社、開始日、終了日、資産の追加日別に表示 / 分類されています。

契約を追加する時、または契約明細を表示する時、契約明細の詳細画面が開きます。

- 希望する契約を選択してから、契約に資産を追加した日付と削除予定日を指定します。
- [権限] (SQL名 : seAuthorization) と [使用権利数] (SQL名 : IUseCount) フィールドにも必要に応じて値を入力します。

[取得] タブページ

契約内容に応じて資産を取得できます。

資産の詳細画面の [取得] タブページでは、次のいずれかの方法で取得した資産に契約を関連付けることができます。

- 購入
- レンタル
- リース
- ローン

取得方法に応じて表示されるサブタブページを使って、取得契約の詳細を指定できます。

資産に関連する契約の作成と管理に関する詳細については、マニュアル『契約』を参照してください。

在庫

在庫には、在庫に入っているポートフォリオ品目および納品待ちのポートフォリオ品目が含まれます。

ポートフォリオ品目の詳細画面で、[全般]タブページに[割当]（SQL名：seAssignment）フィールドが[在庫中]または[納品待ち]に設定されています。例：最近購入したポートフォリオ品目で、ユーザにはまだ割り当てられていないポートフォリオ品目。これらのポートフォリオ品目は、在庫の詳細画面の[ポートフォリオ]タブページに表示されます。

AssetCenterでは、自動購入依頼をトリガする規則を在庫に関連付けて、在庫を補充することができます。再発注レベルは、AssetCenter Serverがモニタします。

警告:

使用するモニタ機能を有効にするには、クライアントまたはサーバのコンピュータでAssetCenter Serverを稼働している必要があります。

AssetCenterで作成できる在庫数に制限はありません。

以下の方法で[在庫]テーブルにアクセスできます。

- [ポートフォリオ/在庫]メニューを選択します。
- 機能とお気に入りのパネルで、[在庫]をクリックします（[ポートフォリオ管理]トピック）。


在庫規則の作成

AssetCenterでは、在庫に自動購入依頼をトリガする規則を関連付けて、消費されるポートフォリオ品目の在庫を補充することができます。

これらの規則は、在庫の詳細画面の[管理]タブページで定義します。それぞれの規則にはモデルが関連付けられており、そのモデルを基にするポートフォリオ品目の在庫が一定数を下回ると、自動的に再発注されます。

各在庫明細の再発注状況は、AssetCenter Serverがモニタします。

在庫規則を作成するには、次の手順に従います。

- 1 [管理]タブをクリックします。
- 2  をクリックします。
- 3 [在庫に規則を追加]画面が表示されるのを待ちます。
- 4 在庫規則の適用対象となるポートフォリオ品目のモデルを指定します（例：プリンタのインクカートリッジ）。
- 5 [発注点]（SQL名：IReordLevel）フィールドで、購入依頼の作成をトリガする在庫数の下限を指定します（例：5個）。

- 6 [発注数] (SQL名: IQtyToOrder) フィールドには、上記の下限を下回ったときに発注するポートフォリオ品目の数量を指定します。
- ポートフォリオ品目が資産またはロットの場合、AssetCenter Serverは購入依頼 ([数量] フィールドの値=5) を作成します。この購入依頼から発注した品物を受領すると、次のことが起こります。
- 資産の場合、[ポートフォリオ品目] テーブルにレコード5個が作成されます。
 - ロットの場合、[ポートフォリオ品目] テーブルにインクカートリッジ5個を含むロットのレコードが1つが作成されます。

各モデルの在庫は、次のようにして自動的に管理されます。

- 1 在庫の詳細画面の [ポートフォリオ] タブページの情報を元に、AssetCenter Serverが現在の在庫数を計算します。
ロットに対応するポートフォリオ品目の場合、AssetCenter Serverはロットに含まれる [数量] (フィールド) の値を確認します。
- 2 現在の在庫数が、在庫規則の詳細画面の [発注点] (SQL名: IReordLevel) フィールドで指定した数量を下回ると、AssetCenter Serverは購入依頼を自動的に作成します。
- 3 依頼した全数量が受領されない間、AssetCenter Serverは依頼元の在庫規則をチェックしないため、新しい依頼は作成されません。
- 4 全依頼数が受領されると、AssetCenter Serverは次の処理を実行します。
 - 在庫数を再調整します。
 - 在庫規則の詳細画面の [依頼明細] (SQL名: ReqLine) フィールドの内容を消去します。
 - 在庫規則を再度有効にします。

注意:

在庫テーブルの数量をチェックする頻度を定義するには、AssetCenter Serverを使います。

現在の在庫数の計算方法

特定のモデルの在庫規則をチェックし、実際に使用できる在庫数を割り出すために、AssetCenter Serverは、在庫の詳細画面の [ポートフォリオ] タブページにある同モデルを基にしたポートフォリオ品目の数を計算します。

未予約のポートフォリオ品目のみが数えられます。

再発注依頼を作成する

必要に応じて、AssetCenter Serverが、次の情報を元に各在庫規則に従って再発注依頼を作成します。

- 在庫の詳細画面の [自動依頼] タブページで定義されている購入依頼の詳細。

- 購入依頼時の再発注数（在庫規則の詳細画面の [発注数]（SQL名：IQtyToOrder）フィールド）

この方法で在庫数をモニタした結果、自動的に作成された購入依頼の発注明細が受領されると、在庫数が調整されます。

在庫の管理プロセス

本節の内容は以下のとおりです。




- 在庫内のポートフォリオ品目のリスト
- ポートフォリオ品目を在庫に入庫する
- 在庫からポートフォリオ品目を出庫する

在庫内のポートフォリオ品目のリスト

在庫の詳細画面の [ポートフォリオ] タブページには、在庫内のすべてのポートフォリオ品目のリストが表示されます。

フィルタ

在庫のポートフォリオ品目のリストの上には、次の3つのフィルタが表示されません。

-  1番目のシンプルフィルタ
-  2番目のシンプルフィルタ
-  3番目のシンプルフィルタ

フィルタ間では、「AND」条件（SQLによる）が適用されます。

在庫のポートフォリオ品目のリストをツリー構造で表示する

在庫のポートフォリオ品目のリストをツリー構造で表示する場合は、次の点に注意してください。

- 在庫のポートフォリオ品目に従属ポートフォリオ品目が関連付けられていて、その従属ポートフォリオ品目が在庫にない場合は、従属ポートフォリオ品目は表示されません。
- 在庫のポートフォリオ品目が別のポートフォリオ品目の従属ポートフォリオ品目である場合は、その親ポートフォリオ品目も表示されます。ただしその親ポートフォリオ品目が在庫にない場合は、淡色で表示されます。

ポートフォリオ品目を在庫に入庫する


ポートフォリオ品目を在庫に入庫するには、次の方法があります。

ポートフォリオ品目の詳細画面で指定

ポートフォリオ品目の詳細画面の [全般] タブページで、次のように指定します。

- 1 [割当] (SQL名: seAssignment) フィールドを [在庫中] に設定します。
- 2 [在庫] (SQL名: Stock) フィールドで在庫名を選択します。

在庫の詳細画面で指定

在庫の詳細画面の [ポートフォリオ] タブページの  ボタンを使って、ポートフォリオ品目を追加します。

発注の詳細画面で指定

ポートフォリオ品目を作成する明細を使うと、在庫内にポートフォリオ品目を作成できます。作成するには、次の手順に従います。

- 1 発注のリスト ([調達/発注と見積]メニュー) で適切な発注を選択します。
- 2 ポートフォリオ品目を作成する発注明細の [購入] タブページの [配達先在庫] (SQL名: Stock) フィールドに、在庫名が表示されることを確認します。表示されない場合は、このフィールドに入力します。
- 3 納品待ちのポートフォリオ品目を作成するには、まず発注の [ステータス] フィールドの値が [承認済] または [発注済] であることを確認します。次に [作成] ボタンをクリックすると、ポートフォリオ品目が [ポートフォリオ品目] テーブルに作成されます。

このようにして作成したポートフォリオ品目の詳細情報は、次のようになります。

- ポートフォリオ品目の詳細画面の [全般] タブページ / [割当] フィールドは、[納品待ち] に設定されます。
- [在庫] フィールド (ポートフォリオ品目の詳細画面の [全般] タブページ) には、ポートフォリオ品目の発注の明細の [購入] タブページ / [配達先在庫] フィールドで指定した在庫と同じ在庫名が表示されます。

在庫からポートフォリオ品目を出庫する

特定の在庫からポートフォリオ品目を出庫するには、次の方法があります。


ポートフォリオ品目の詳細画面で指定

ポートフォリオ品目の詳細画面の [予約] タブページで、次のように指定します。


- 1 ポートフォリオ品目のリストを「リストと詳細」モードで表示します。
- 2 在庫から出庫するすべての資産を選択します。
- 3 [割当] (SQL名: seAssignment) フィールドを [使用中] に設定します。
- 4 ポートフォリオ品目のユーザと責任者が、在庫から出庫するすべての資産に共通している場合は、ユーザを選択します。

- 5 設置場所が在庫から出庫するすべてのポートフォリオ品目に共通している場合は、複数のポートフォリオ品目を選択したまま必要に応じて設置場所のフィールドに指定します。

在庫の詳細画面で指定

- 1 在庫の詳細画面の [ポートフォリオ] タブページに移動します。
- 2 在庫から出庫するポートフォリオ品目をすべて選択します。
- 3 リストの右側にある  ボタンを押します。ここでポートフォリオ品目を削除すると、ポートフォリオ品目の詳細画面の [割当] (SQL名: seAssignment) フィールドが [使用中] に設定されます。

または

- 1 在庫の詳細画面の [ポートフォリオ] タブを選択します。
- 2 在庫から出庫する各ポートフォリオ品目ごとに  ボタンをクリックします。
- 3 各ポートフォリオ品目の詳細画面の [全般] タブページ / [割当] フィールドを [使用中] に設定します。
- 4 ポートフォリオ品目のユーザ、責任者、および設置場所を選択します。

3 | ITポートフォリオ

AssetCenterはITポートフォリオの管理にとりわけ適しています。IT分野に関連するフィールドやテーブルを使って、様々な種類のコンピュータ（コンピュータ、ワークステーション、ノートブックコンピュータ、サーバなど）を管理できます。

コンピュータ

コンピュータを管理するには、個別管理タイプの管理方法をお勧めします。コンピュータのモデルで技術情報を定義すると、同モデルを基にして作成されるコンピュータはその技術情報を継承します。

個別管理タイプを選択する場合のみに、[ポートフォリオ品目]テーブル、[資産]テーブル、および[電話]テーブルの各々にレコードが作成されます（▶オーバーフローテーブル [倭献8]）。

コンピュータの属性を作成する

個別に管理するコンピュータの属性を作成するには、次の手順に従います。

- 1 属性のリストを表示します。
- 2 [作成]をクリックします。

- 3 作成する属性の名前とコードを入力します（例：コンピュータとコンピュータ）。
- 4 [作成] フィールドで [ポートフォリオ品目] を選択します。
- 5 [オーバーフローテーブル] フィールドで [コンピュータ] を選択します。
[コンピュータ] テーブルは、リモートコントロールツールをAssetCenterと統合するために使用されます。
- 6 [ソフトウェアをインストール] オプションと [接続可能] オプションを選択します。
- 7 [作成] をクリックして、作成を確定します。

コンピュータのモデルを作成する

コンピュータのモデルを作成するには、普通のモデルを作成する手順に従います（▶ [モデル \[修繕0\]](#)）。コンピュータに特有の属性を選択する必要があります（▶ [コンピュータの属性を作成する \[修繕7\]](#)）。

[ポートフォリオ品目] テーブルは [モデル] テーブルを基にして構成されるため、一般的なモデルをまず作成するようをお勧めします。例えば、モデル「コンピュータ」を作成し、その従属モデルとして「デスクトップコンピュータ」、「ポータブルコンピュータ」、「サーバ」を作成します。さらに、各従属モデルに属するモデルを作成し、これらのモデルを基にしてポートフォリオのコンピュータを作成します。

例：コンピュータのモデルを作成する

ここでは、以下の特性を持つコンピュータのモデルを作成します。

- コンピュータ「HP VECTRA VL 800」
- プロセッサ「Intel® Pentium® 4 1.3 GHz」
- 128 MB RDRAM
- 40GBのハードドライブ
- 3.5"、1.44MBのディスクドライブ
- DVD-ROM 12x/40x
- HPマルチメディアキーボード
- HPオプティカルマウス

このコンピュータのモデルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 モデルのリストを表示します。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [名前] フィールドに「VECTRA VL 800」と入力します。

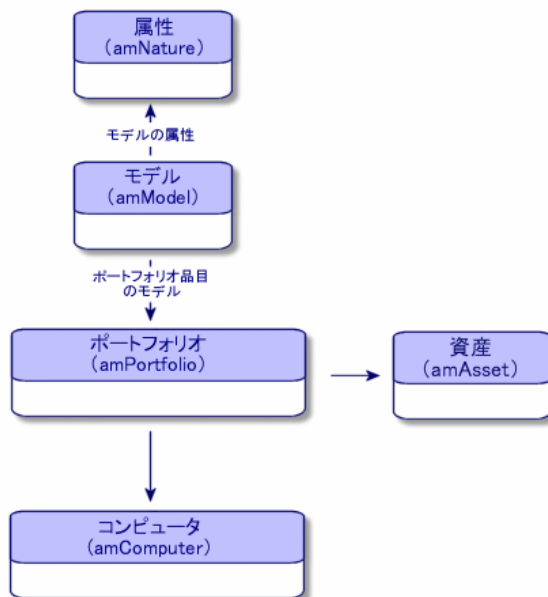
- 4 [メーカー]フィールドに「Hewlett-Packard」と入力します。
- 5 [親モデル]フィールドで、「デスクトップ」を選択します。
- 6 [全般]タブページの[属性]フィールドで、コンピュータのモデルを作成するのに適した属性を選択します(▶[コンピュータの属性を作成する \[倭麟7\]](#))。
- 7 [ハードウェア]タブページでコンピュータに関する情報を入力します。
 - [プロセッサ]フィールドに「プロセッサ」と入力します。
 - [CPU速度]フィールドに「1300」と入力します(デフォルト単位はメガヘルツです)。
 - [メモリ]フィールドに、「128」と入力します。
 - [ディスク容量]フィールドに「40000」と入力します。
- 8 [作成]をクリックして、作成を確定します。
- 9 上記の手順に従って、コンピュータのコンポーネント用のモデルを作成します。
 - ディスクドライブ
 - DVDドライブ
 - キーボード
 - マウス

あるモデルを別のモデルに関連付けることはできません。ただし、コンピュータ「VECTRA VL 800」を作成した後に、コンポーネントのモデルを基にした資産を同コンピュータに関連付けることは可能です(▶[資産にポートフォリオ品目を関連付ける \[倭麟4\]](#))。

コンピュータを作成する

- コンピュータは以下の3つのテーブルに記録されます。
- [ポートフォリオ品目] (SQL名: amPortfolio) テーブル
 - [資産とロット] (SQL名: amAsset) テーブル
 - [コンピュータ] (SQL名: amComputer) テーブル

以下の図は、コンピュータに関連するテーブルを示しています。



コンピュータの作成方法は、資産の作成方法に類似しているため、詳しくは「[資産を作成する \[倭献3\]](#)」の節を参照してください。ポートフォリオ品目をコンピュータに関連付ける方法については、「[資産にポートフォリオ品目を関連付ける \[倭献4\]](#)」の節を参照してください。コンピュータに関連付けられる資産とは、周辺機器（キーボード、プリンタ、各種ドライブ）、ソフトウェアアプリケーション、消耗品を指します。

コンピュータの標準セット

コンピュータの標準セット（バンドル商品）には、CPU、基本周辺機器、基本ソフトウェアが含まれています。

必要に応じて、標準セットを固有の資産として管理するか、または標準セットの各コンポーネントを別々の資産として管理するかを選択できます。

標準セットを固有の資産として管理する

標準セットを固有の資産として管理するには、これに対応するモデルをまず作成します。次にこのモデルを基にして標準セットを作成します。そして最後に、標準セットに消耗品、ソフトウェア、周辺機器を関連付けます。

利点

標準セットを固有の資産として管理すると、入力作業を軽減できます。また、標準セットは、[資産]テーブルの1レコードのみに対応するので、財務情報のトラッキングに関連するコストを減少できます（減価償却、固有の取得価格、会計の簡素化など）。ただし、標準セットのあるコンポーネントを大幅に変更する場合には（削除、更新）、複雑な調整プロセスを実行しなければなりません。

標準セットのコンポーネントを関連資産として管理する

標準セットのコンポーネントを関連資産として管理するには、次の操作を実行します。

- 1 関連資産に対応するレコードを作成する（▶「[資産を作成する \[修職3\]](#)」）。
- 2 標準セットのコンポーネントの中から、主要コンポーネントを選択する（例：CPU）。
- 3 主要コンポーネントにその他のコンポーネントを関連付ける（▶「[資産にポートフォリオ品目を関連付ける \[修職4\]](#)」）。

利点

標準セットのコンポーネントを関連資産として管理すると、各コンポーネントを正確にトラッキングできます。キーボードを交換する場合、古いキーボードへのリンクを削除し、新しいキーボードへのリンクを作成します。

コンピュータ間の接続

AssetCenterでは、コンピュータ間の接続情報を指定できます。

AssetCenterで使う接続テンプレートでは、AとBの2台のコンピュータ間の一般的な接続情報を指定できます。このテンプレートをカスタマイズすると、すべての接続タイプ、特にクライアント/サーバタイプの情報を指定できます。「接続」の概念は、AssetCenterの次の画面で使われます。

- モデルの詳細画面（SQL名：amModel）、または資産の詳細画面（SQL名：amAsset）の [ポート] タブページ
- 接続タイプのリスト（SQL名：amCnxType）

接続条件

接続情報は、資産の詳細画面の [ポート] タブページに入力されています。このタブページを表示するには、資産のモデルの属性の詳細画面で、[接続可能] オプションを選択する必要があります（▶属性における動作オプション [修献4] および 属性 [修献7]）。

注意:

コンピュータには任意の数のポートを設定でき、各ポートには固有の番号が付けられます。1つのポートで1つのコンピュータに接続できます。

ポート

コンピュータ間の接続はポートを使って行います。コンピュータAのポートとコンピュータBのポートが接続されたときに接続が有効になります。これは双方向の接続で、接続している両方のコンピュータの詳細画面の [ポート] タブページに接続状況が表示されます。このページで次の接続状況を確認できます。

- 使用中（別のコンピュータのポートまたは同じコンピュータの別のポートに接続している）。この場合は次のように表示されます。

```
<コンピュータ> <ポート番号> - <ポート番号> <コンピュータ>
```

例えば、コンピュータAとコンピュータBが接続されている場合は、それぞれの詳細画面に次のように表示されます。

- コンピュータAの接続状況

```
<コンピュータA> <コンピュータAが使用しているポート番号> - <コンピュータBが使用しているポート番号> <コンピュータB>
```

- コンピュータBの接続状況

```
<コンピュータB> <コンピュータBが使用しているポート番号> - <コンピュータAが使用しているポート番号> <コンピュータA>
```

- 空き（接続に使用できる）。この場合は次のように表示されます。

```
<コンピュータ> <ポート番号> -
```

接続を作成する

ここでは、2つのコンピュータ間の接続を作成する方法を、例を使って説明します。接続するコンピュータの片方をサーバ、もう片方をクライアントとして定義します。接続例の手順は次のとおりです。

- 1 接続を作成する
- 2 接続するコンピュータを作成する
- 3 コンピュータ間の接続を作成する
- 4 接続に関する追加情報

接続を作成する

接続タイプを作成すると、次のフィールドで2つのタイプのポートの関係を定義します。

- [タイプ] (SQL名: Type)。ソースポートを指定します。
- [ターゲットポートのタイプ] (SQL名: TargetType)。ソースポートに接続するリモートポート (ターゲットポート) を指定します。

これは1方向の接続です。特定のポートでソースポートのタイプを選択すると、接続先ポート (ターゲットポート) のタイプも自動的に選択されます。先にターゲットポートのタイプを選択した場合は、接続先のコンピュータのソースポートのタイプは自動的に選択されません。このため、双方向の接続テンプレートを作成するには、2種類の対称接続を作成する必要があります。例えば、クライアント/サーバ接続の場合は次のようになります。

- 「クライアント」タイプから「サーバ」タイプへ
- 「サーバ」タイプから「クライアント」タイプへ

ここでは、双方向のクライアント/サーバ接続テンプレートを作成します。コンピュータAとコンピュータB間の接続の作成時にこのテンプレートを選択すると、自動的に次のように処理されます。

- コンピュータAのポートタイプが「クライアント」の場合は、接続先のコンピュータBのポートタイプが「サーバ」になる。
- コンピュータAのポートタイプが「サーバ」の場合は、接続先のコンピュータBのポートタイプが「クライアント」になる。

注意:

この自動処理機能は、接続を直接作成した場合のみ起動されます。

接続タイプの画面を開く

[管理 / 接続タイプ] メニューを選択します。

クライアント/サーバタイプの接続を作成する

次の手順に従って、クライアント/サーバタイプの接続を作成します。

- 1 [新規作成] をクリックします。
- 2 [ソースポートのタイプ] フィールドを「クライアント」に設定します。
- 3 [ターゲットポートのタイプ] フィールドを「サーバ」に設定します。
- 4 必要に応じて、[説明] (SQL名: memDescription) フィールドに説明を入力します。
- 5 [作成] をクリックして、作成を確定します。

サーバ/クライアントタイプの接続を作成する

次の手順に従って、サーバ/クライアントタイプの接続を作成します。

- 1 [新規作成] をクリックします。
- 2 [ソースポートのタイプ] フィールドを「サーバ」に設定します。
- 3 [ターゲットポートのタイプ] を「クライアント」に設定します。
- 4 必要に応じて、[説明] (SQL名: memDescription) フィールドに説明を入力します。
- 5 [作成] をクリックして、作成を確定します。

接続するコンピュータを作成する

手順1 - コンピュータのモデルを作成する

サーバのモデルとクライアントのモデルを作成する方法については、「例: コンピュータのモデルを作成する [[俊麟8](#)]」の節を参照してください。


コンピュータ2台の各モデルを作成する際に、[ポート] タブページのフィールドに入力します。ここで入力される値は、これらのモデルを基にして作成されるコンピュータにより継承されます。

以下の表は、サーバのモデルとクライアントのモデルで入力する情報の例をです。

サーバ	クライアント
<ul style="list-style-type: none"> ■ Sun Microsystems Sun Fire 15K ■ UltraSparc III 64-bit 900 MHz 	<ul style="list-style-type: none"> ■ HP VECTRA VL 800コンピュータ ■ Intel® Pentium® 4 1.3 GHzプロセッサ ■ 128 MB RDRAM ■ 40GBのハードドライブ

サーバのモデルとクライアントのモデルを作成したら、次に[資産] テーブルに2台のコンピュータを作成します (▶ [資産を作成する \[俊麟3\]](#))。

手順2 - [資産] テーブルでコンピュータを作成する

[ポートフォリオ/資産とロット]メニューを選択するか、をクリックします。資産の詳細画面が表示されます。前の手順で作成した2つのモデルをそれぞれ使って、2つの新規資産を作成します。[作成]をクリックして、これらの資産の作成を確定します。

コンピュータ間の接続を作成する

接続の作成方法


2つのコンピュータ間で接続を作成するには、次の2つの方法があります。

- まず該当する各コンピュータでポートを作成し、これらのポートをリンクして接続を作成する。接続の作成にはこの方法をお勧めします。
- 2つのコンピュータの1台から直接接続を作成する。

ここでは、両方の方法を使って2つのコンピュータを接続します。


各コンピュータでポートを作成し、これらのポートをリンクする

資産のテーブルのレコードリストからコンピュータ「Sun Fire 15K」を選択し、資産の詳細画面の[ポート]タブをクリックします。次に、このコンピュータに空のポートを作成します。

- 1  ボタンをクリックします。コンピュータ「Sun Fire 15K」に接続ポートを追加するための画面が表示されます。
- 2 ここでは、空の「サーバ」タイプポートを作成するため、接続先のコンピュータとポートを指定する[接続先資産] (SQL名: TargetAsset) および[接続先ポート] (SQL名: TargetPorts) フィールドには何も入力しません。
- 3 [ソースポートのタイプ] (SQL名: Type) フィールドを「サーバ」に設定します。
- 4 [作成]をクリックして、作成を確定します。
- 5 [ポート]タブページに、ポート情報が次のように表示されます。

1


コンピュータ「VECTRA VL 800」でも同じようにしてポートを作成します。

- 1 コンピュータ「VECTRA VL 800」を選択し、詳細画面の[接続]タブをクリックします。
- 2  ボタンをクリックします。このコンピュータに接続ポートを作成するための画面が表示されます。
- 3 [ソースポートのタイプ] フィールドを「クライアント」に設定し、他のフィールドは空欄のままにしておきます。
- 4 [作成]をクリックして、作成を確定します。


- 5 [ポート] タブページに、ポート情報が次のように表示されます。

1

あとは、これら2つのポートを接続するだけです。これはどちらのコンピュータで実行してもかまいません。

- 1 サーバ「Sun Fire 15K」を選択し、[ポート] タブをクリックします。
- 2 ポート「1」を選択し、 をクリックします。
- 3 [接続先資産] (SQL名: TargetAsset) フィールドでクライアント「VECTRA VL 800」を選択します。
- 4 [接続先ポート] (SQL名: TargetPorts) フィールドでは、ドロップダウンリストでこのコンピュータのすべての空きポートを表示できます。

 注意:

 ボタンをクリックして、表示されたポートのリストから直接ポートを選択することもできます。このリストからポートを選択すると、[接続先資産] (SQL名: TargetAsset) フィールドに自動的に接続先コンピュータが入力されます。

- 5 [変更] または [閉じる] をクリックします。
- 6 コンピュータ「Sun Fire 15K」の詳細画面に、接続状況が次のように表示されます。

1-1 (<接続先資産の資産タグ>)


コンピュータ「VECTRA VL 800」の詳細画面にも次のように表示され、2つのコンピュータが相互に接続されていることを確認できます。

1-1 (<接続先資産の資産タグ>)


- 7 これで接続が確立されました。

コンピュータに直接接続を作成する

 注意:

前に作成したコンピュータを複製して接続を作成する場合は、複製したコンピュータの [ポート] タブページのエントリを削除する必要があります。削除するには、エントリを選択し、 ボタンをクリックします。

[資産] テーブルのレコードリストからコンピュータ「Sun Fire 15K」を選択し、その詳細画面の [コンピュータ] タブをクリックします。次に、コンピュータ「Sun Fire 15K」への接続を作成します。



- 1  ボタンをクリックします。コンピュータ「Sun Fire 15K」に接続ポートを作成するための画面が表示されます。

- 2 [接続先資産] (SQL名: TargetAsset) フィールドを「VECTRA VL 800」に設定します。
- 3 [タイプ]を「サーバ」に設定します。
- 4 [追加]をクリックします。

自動的に次のポートと接続が作成されます。

- コンピュータ「Sun Fire 15K」に「サーバ」タイプのポート
- コンピュータ「VECTRA VL 800」に「クライアント」タイプのポート
- これら2つのポート間の接続

接続に関する追加情報

AssetCenterでは、接続の詳細画面で接続に関する情報を追加できます。資産の詳細画面で、[ポート]タブをクリックして既存の接続を選択し、 ボタンをクリックします。接続の詳細情報が表示されます。[接続] (SQL名: Connection) フィールドを使って、追加情報を定義します。 ボタンをクリックすると、接続の詳細画面が表示されます。

注意:

接続の詳細画面のフィールドには、自動計算機能は関連付けられていません。この画面で値を指定しても、接続に関連する経費に経費明細が作成されることはありません。

接続を管理する

ここでは、接続の管理方法について説明します。内容は次のとおりです。

- 接続数を表示する
- 2つのコンピュータ間の接続を終了する
- 接続しているコンピュータを削除する
- 接続のポート割当てを変更する

接続数を表示する

資産の詳細画面の[ポート]タブページには、コンピュータ資産の接続に関する基本的な情報が表示されます。[最大接続数] (SQL名: sMaxCnxCount) および [現在の接続数] (SQL名: sCnxCount) フィールドは、コンピュータの可能接続数と実際の接続数を示します。接続を追加または削除すると、AssetCenterにより [現在の接続数] (SQL名: sCnxCount) フィールドが更新されます。

 注意:

[最大接続数] フィールドの値は、おおよその最大接続数を示します。このフィールドにより自動処理機能がトリガされることはありません。実際の接続数が最大接続数を超過しても、接続を追加することができます。

2つのコンピュータ間の接続を削除する

接続を削除するには、次の手順に従います。

- 1 接続している2つのコンピュータ資産のどちらかの資産の詳細画面を表示します。
- 2 [ポート] タブをクリックし、削除する接続を選択します。☒ ボタンをクリックします。
- 3 接続の詳細画面が表示されます。
- 4 [接続先資産] (SQL名: TargetAsset) または [接続先ポート] (SQL名: TargetPorts) フィールドのどちらかの値を消去し、[変更] をクリックします。2つのコンピュータ間の接続が終了します。その結果、次のようになります。
 - 追加の接続情報 ([接続] (SQL名: Connection) フィールドで指定した情報) が消去されます。
 - 接続に使われていたポートが解放されます。

 注意:

接続している片方のコンピュータの詳細画面の [ポート] タブページで☒ ボタンをクリックすると、接続に使われているポート自体も削除されます。

接続しているコンピュータ資産を削除する

接続したコンピュータ資産を削除すると、AssetCenterにより次の処理が実行されます。

- コンピュータ資産に関連するすべての接続を削除する。
- コンピュータ資産のすべてのポートを削除する。
- 削除したコンピュータ資産に接続されていたすべてのコンピュータ資産のポートを解放する。

接続のポート割当てを変更する

次の方法で、接続ポートの割当てを変更できます。

- 完全にポートを解放する。解放されたポートは新しい接続に使用できます。
- ポートを別のポートに接続する。この場合は、元の接続先ポートが解放され、新しい接続に使用できるようになります。

リモートコントロール

使用可能な機能

AssetCenterでは、詳細画面からポートフォリオ内のコンピュータを遠隔管理できます。AssetCenterは、次に示すリモートコントロールツールと即時に統合することができます。

- Windows XP RDP
- NetOp
- pcAnywhere
- LANDesk

重要項目:

AssetCenterでサポートされるこれらのツールのバージョンについては、ペレグリンシステムズのカスタマサポートのサイトに記載されている動作環境の表を参照してください。

統合は、リモートコントロールを行いたいコンピュータの詳細画面から一般的なアクション（SQL名sysCoreRemoteControlによるリモートコントロールアクション）を実行することによって実現します。アクションによって使用されるリモートコントロールツールは、データベース内のオプションで指定します。このオプションの値によって、指定されたサブアクションが実行されます。

注意:

リモートコントロール中に使用できる機能は、使用ツールによって異なります。

設定

リモートコントロール機能を有効にするために、次の点を必ず確認してください。

- 1 リモートコントロールツールを適切にインストールおよび設定する必要があります。次の表は、インストールしなくてはならないものとインストール対象コンピュータをまとめています。

 **注意:**

ホストコンピュータとはコントロールされるコンピュータを指し、クライアントとはAssetCenterがインストールされたコンピュータのことです。クライアントがリモートコントロールを開始します。

ツール	ホストにインストールされたコンポーネント	クライアントにインストールされたコンポーネント
Windows XP RDP	OSはXPでなくてはなりません。	OSはMicrosoft Windows XPまたはWindows 2000でなくてはなりません。クライアントはリモートコントロールを許可するように設定する必要があります。このためには、以下の手順を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ■ デスクトップから [マイコンピュータ] を右クリックして、 [プロパティ] を選択します。 ■ [リモート デスクトップ] 枠で [このコンピュータにユーザーがリモートで接続することを許可する] オプションを選択します。
NetOp	NetOp Host	NetOp Guest
pcAnywhere	pcAnywhere Host	pcAnywhere Guest
LANDesk	LANDesk Server	LANDesk Console

- 2 リモートコントロールツールは、データベースオプションで宣言します（ [管理 / データベースオプション]、 [リモートコントロールツール] ）。次の表に、この場合のオプションを示します。

オプション	コメント
リモートコントロールツールを選択	<p>リモートコントロールツールを宣言するには、このオプションを使用します。次に、使用できる値を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows XP RDPの場合、RDP ■ pcAnywhereの場合、PCAny ■ NetOpの場合、NetOp ■ LANDeskの場合、LANDesk <p>注意:</p> <p>このオプションを入力しないと、デフォルトでオプションがMicrosoft Windows XP RDPになります。</p>
pcAnywhere設定ファイル	<p>pcAnywhere設定ファイルの完全パス。通常、このファイルは次のフォルダに保存されます。</p> <p>C:/Documents and Settings/All Users/Application Data/Symantec/pcAnywhere/Remotes/</p> <p>このオプションの値は通常、次のとおりです。</p> <p>C:/Documents and Settings/All Users/Application Data/Symantec/pcAnywhere/Remotes/Network, Cable, DSL.chf</p>

- 3 各ツール専用のリモートコントロールアクションは、正確に設定する必要があります。これらのアクションは実行可能ファイルタイプのアクションであり、コマンドラインからツールを起動します。アクションは、アクション詳細画面の [実行可能ファイルまたはDDE] タブで設定します。

デフォルトパラメータは、ほとんどの環境で機能します。ただし、問題のアクションの [フォルダ] フィールドの値を変更しなくてはならない場合があります。このフィールドには、リモートコントロールツールの実行可能ファイルのパスを指定しますが、これはコンピュータによって異なるからです。

- 4 コントロール対象の各コンピュータに対して、統合情報が入力されます。コンピュータ詳細画面の [統合] と [ネットワーク] タブには、リモートコントロールに必要なフィールドが含まれます。それらのフィールドを正確に入力する必要があります。

- Microsoft Windows XP RDPの場合

統合には、[統合] タブの [RDPファイル] を入力する必要があります。このファイルには、リモートコンピュータへの接続に必要な情報が含まれます。コントロール対象の各コンピュータ用にRDPファイルを作成する必要があります。RDPファイルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 リモートデスクトップ接続を開始します ([スタート / プログラム / アクセサリ / 通信 / リモート デスクトップ接続])。


- 2 [オプション>>]をクリックします。
- 3 [コンピュータ]フィールドに入力してから、[名前を付けて保存]をクリックしてRDPファイルを保存します。このファイルは、コントロール対象のコンピュータの名前に基づいて保存することをお勧めします。

AssetCenterで、コンピュータ詳細画面の[RDPファイル]にファイル拡張子(.rdp)を除いたRDPファイルの名前を入力します。

- NetOpの場合
統合には、[統合]タブの[NetOp ID]フィールドを入力する必要があります。このフィールドには、ネットワーク上に表示されるホスト名かIPアドレスを指定する必要があります。また、コンピュータ詳細画面の[ネットワーク]タブの[IPアドレス]を入力する必要があります。
- pcAnywhereの場合
統合には、コンピュータ詳細画面の[ネットワーク]タブの[IPアドレス]フィールドを入力する必要があります。
- LANDeskの場合
統合には、コンピュータ詳細画面の[ネットワーク]タブの[IPアドレス]フィールドを入力する必要があります。

AssetCenterからコンピュータにリモートコントロールを実行する

コンピュータにリモートコントロールを実行するには、次の手順に従います。

- 1 コンピュータのリストを表示します（[ポートフォリオ/コンピュータ]メニュー）。
- 2 コンピュータを選択します。
- 3 コンピュータの詳細画面で[ リモコン]ボタンをクリックします。

4 ソフトウェア

AssetCenterでは、企業で使用するソフトウェアを効率的に管理するために多くの機能を提供します。例えば、以下の機能です。

- ソフトウェアの特徴に応じて管理する（無料のソフトウェア、所有ソフトウェア、オーダーメイドのソフトウェア）。
- ソフトウェアスイートを管理する（Microsoft Office、Sun Star Office）など。
- ソフトウェアのインベントリを定期的に行う。
- ソフトウェアのユーザ数とユーザ情報を把握する。
- ソフトウェアプロバイダに適合していることを確認する。インストール/使用の数をライセンス/資格の数と比較する。
- 内部方針との適合性を確認します。インストール/使用の数を、内部資格の数と比較します。
- ソフトウェアを特定の契約に関連付ける。
- その他。

準備段階

適切なライセンスの保有

AssetCenterユーザライセンスにソフトウェアライセンスモジュールが含まれることを確認します。

ソフトウェアライセンスモジュールを有効にする

- 1 AssetCenterを起動します。
- 2 ソフトウェアライセンスモジュールを起動します（[ファイル/モジュールの起動]メニュー）。

本番データベースでのソフトウェアの管理

ソフトウェアライセンスモジュールをデータベースと共に使用できるようにするには、ソフトウェア管理専門分野データをインポートする必要があります。

データベース作成時の専門分野データのインポート

マニュアル『管理』の「AssetCenterデータベースの作成、変更、および削除」の章、「AssetCenter Database Administratorを使ってデータベース構造を作成する」の節に記述されている手順に従います。

[インポートするデータ]ページで、[ソフトウェア管理 - 専門分野データの明細]を選択します。

既存のデータベースへの専門分野データのインポート

- 1 AssetCenter Database Administratorを開始します。
- 2 [ファイル/開く]メニューを選択します。
- 3 [データベース記述ファイルを開く(新規データベースの作成)]オプションを選択します。
- 4 確定します（[OK]）。
- 5 AssetCenterインストール先フォルダ（通常はC:\Program Files\Peregrine\AssetCenter）の「config」サブフォルダにあるファイル「gbase.xml」を選択します。
- 6 ファイルを開きます（[開く]）。
- 7 データベース作成ウィザードを開始します（[アクション/データベースの作成]メニュー）。
- 8 ウィザードのページを次のように入力します（ウィザードページの移動には[次へ]、[戻る]を使用）。

フィールド	値
[SQLスクリプトの生成/データベースの作成]ページ	

フィールド	値
データベース	専門分野データのインポート先にするデータベースへの接続を選択します。
作成 高度な作成オプションを使用 [作成パラメータ] ページ	専門分野データをインポートします。 このオプションは選択しません。
パスワード	管理者のパスワードを入力します。 注意: AssetCenterデータベース管理者は、[名前] (Name) フィールドが「Admin」に設定されている [部署と従業員] (amEmplDept) テーブルのレコードです。 データベース接続ログインは、[ユーザ名] (UserLogin) フィールドに保存されます。管理者名は「Admin」です。 パスワードは [パスワード] フィールドに保存されます (LoginPassword)。
[インポートするデータ] ページ 使用可能データ	[ソフトウェア管理-専門分野データの明細] を選択します。
エラー発生時にインポートを中止	エラーが発生した場合にインポートを中止するには、このオプションを選択します。
ログファイル	エラーや警告などすべてのインポート操作を記録するファイルの完全名。

9 ウィザードを使用して定義されたオプションを実行します ([終了])。

AssetCenterのインストールに関する詳細

マニュアル『インストール』を参照してください。

ライセンス、資格、インストール、使用、契約

ソフトウェアアプリケーションの管理とは、ソフトウェアのライセンス契約/資格、インストール/使用、および関連する契約を管理することを意味します。

ソフトウェア管理に関連するテーブル

ソフトウェア資産管理に関するテーブルは、以下のとおりです。

表 4.1. ソフトウェア - テーブル

テーブル	使用
属性 (amNature)	以下の属性を作成します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ライセンス / 資格 ■ インストール / 使用 ■ 契約
モデル (amModel)	以下のモデルを作成します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ライセンス / 資格 ■ インストール / 使用 ■ 契約
棚卸されたモデル (amInventModel)	自動棚卸ツールによるインストール / 使用モデルとAssetCenterデータベースのモデルとの間のマッピング
ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	インスタンスを作成します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ライセンス / 資格 ■ インストール / 使用
資産 (amAsset)	次の品目に該当するポートフォリオ品目が作成されるたびに、[資産]テーブルに該当レコードが作成されます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ すべてのライセンス。 ■ 資格、インストール、使用。ただし、これらはモデルに関連付けられており、そのモデルは[管理条件]フィールド (seMgtConstraint) が[資産タグ]または[固有資産タグ]に設定された属性と関連付けられている必要があります (▶3つの管理タイプ [参考文献5])。
インストール済ソフトウェア (amSoftInstall)	ソフトウェアのインストール / 使用に対応するポートフォリオ品目が作成されるたびに、対応するレコードが[インストール済ソフトウェア]テーブルに作成されます。

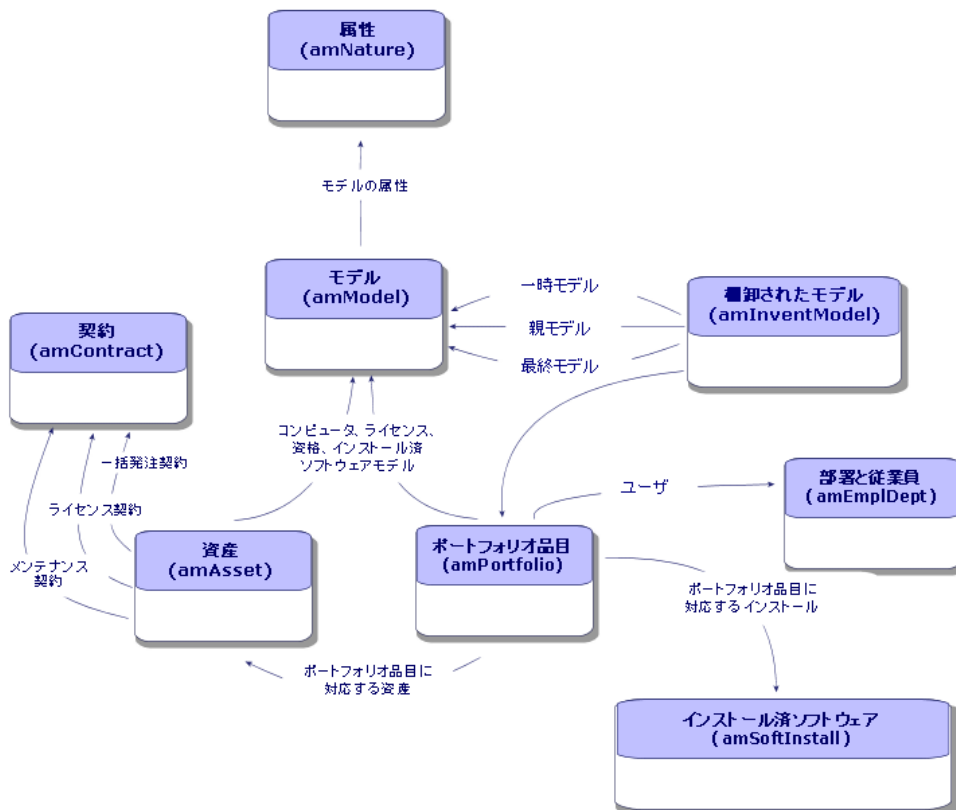
テーブル	使用
ソフトウェアカウンタ (amSoftLicCounter)	カウンタを使うことで、ソフトウェアプロバイダと会社の内部方針に適合していることを確認できます。 カウンタは、インストール/使用の数と、ライセンス/資格の数とを比較します。
ワークフローチャート (amWfScheme)	このテーブルには、ソフトウェアライセンス管理にリンクされた特定タスクを自動化するワークフローチャートが含まれます。
アクション (amAction)	このテーブルには、ソフトウェアライセンス管理にリンクされた特定タスクを自動化するウィザードが含まれます。
契約 (amContract)	この表では以下のものを作成できます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 必要に応じて、取得契約 (ライセンスにリンク) またはメンテナンス契約 (一般にインストール、場合によってはライセンスにリンク)。 ■ Microsoft Selectタイプのマスターリース契約。 ■ ASPタイプの契約。

 **注意:**

契約は、ソフトウェアプロバイダとの合意を記述するために使用します。契約の作成は、契約で記述する必要があるASP合意を除いてオプションです。

ライセンス契約の有無に関わらず、取得した各ライセンスに対してポートフォリオ品目を作成する必要があります。

図 4.1. ソフトウェア - 物理データモデル



インストール / 使用とライセンスの間のリンク

以下の2つの方法が選択できます。

- ライセンスとそのインストール / 使用を直接リンクする。
このためには、フィールドとAssetCenterデータベースでの詳細なトラッキングが必要です。
この方法を採用する場合、まずライセンスを作成し、次にインストール / 使用を作成して、対応するライセンスにリンクします。
- ライセンスとインストール / 使用を別々に管理する。

これはあまり厳密な方法ではありませんが、最も現実的です。ソフトウェアはライセンスと独立にCD-ROMやサーバからインストールされることが多いからです。

この方法を採用する場合、ライセンスは取得時に作成します。インストールは、実行されたとき、または自動ネットワークスキャンで記録されたときに独立に作成します。

ソフトウェアアカウントを使用することにより、ライセンスとインストール/使用の間に直接のリンクがなくても、これらを調整することが可能です。

管理タイプ

他の資産およびポートフォリオ品目に関しては、ライセンス、資格、インストール、使用に対する管理タイプを選択する必要があります。

これらの管理タイプは、その重要性和記述方法によって異なります。

- 非常に重要で高価値のソフトウェアに対しては、個別管理を適用します（AssetCenter、SAPなど）。
 - ▶ [資産](#) [[修献2](#)]
- 上記のソフトウェアほどの価値はなく、大量に購入するソフトウェアに対しては、一括管理を適用します（ファイル圧縮ソフトウェアなど）。
 - ▶ [ロット](#) [[修献6](#)]
- 無料のソフトウェアのユーザ数を把握する必要がある場合は、非個別管理を適用します（RealPlayerタイプのマルチメディアソフトウェアなど）。
 - ▶ [トラッキングしないロット](#) [[修献0](#)]

ソフトウェアライセンスモジュール実装の順序

- 1 ソフトウェアライセンス契約を作成します。（▶ [ソフトウェアライセンス](#) [[修献0](#)]
- 2 ソフトウェアライセンス/資格を作成します。（▶ [ソフトウェアライセンス](#) [[修献5](#)]
- 3 ソフトウェアのインストール/使用数の作成やインポートを実行します。（▶ [インストール済ソフトウェア](#) [[修献01](#)]
- 4 ライセンス/資格に対してインストール/使用数が適合していることを確認します。（▶ [ソフトウェア管理](#) [[修献15](#)]
- 5 会社の状況を分析します。（▶ [ソフトウェアレポート](#) [[修献30](#)]

レコードの作成方法

ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを使用して、契約、ライセンス/資格、インストール/使用数、およびソフトウェアカウンタに対応するレコードを作成します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理])。

このウィザードを使用すると、段階を追ってレコードを作成することができます。

重要項目:

ソフトウェアライセンスモジュールの使用を開始する場合は特に、ウィザードによってレコードを作成することをお勧めします。

モジュールに慣れたら、標準メニューコマンドを使用して任意のテーブルのレコードに直接アクセスすることもできます ([ソフトウェア/カウンタ] など)。

ソフトウェアライセンス

ここでは、AssetCenterによるライセンス契約管理の方法について説明します。

ライセンス契約は、ソフトウェアプロバイダおよびベンダと決められた条件を記述するために使用されます。

重要項目:

ライセンス契約を実際のライセンス自体 (ライセンス権限の取得に対応するポートフォリオ品目) と混同してはなりません。

取得した権限と消費した権限を一致させるために、カウンタでは契約でなくてライセンスを基盤として使用します。

ライセンス契約を作成する

ここでは、新しい契約を作成する方法を説明します。

方法1：ソフトウェアの管理ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

- 1 ソフトウェアプロバイダおよびベンダと締結した契約を収集します。
- 2 ソフトウェアの管理ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー)。

- 3 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェア契約の作成/変更] オプションを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 [契約管理] ページで、[新しいソフトウェア契約の作成(原案)] または [完全に承認された契約を入力] をクリックします。

 **注意:**

[新しいソフトウェア契約の作成(原案)] ボタンは、[契約ステータス] (seStatus) フィールドが「準備中」に設定された契約を作成するために使用します。

[完全に承認された契約を入力] は、[契約ステータス] (seStatus) フィールドが「承認済」に設定された契約を作成するために使用します。

これら2種類のボタンの違いはこれだけです。

- 6 これにより、ソフトウェア契約を作成(原案) (sysSamCreateSoftContract) ウィザードが開始します。
ニーズに合わせてウィザードに入力します。
契約のすべてのパラメータを確定します ([終了])。
ソフトウェア契約を作成(原案)ウィザードによって契約を作成します。

方法2 : メニューを使用する

- 1 ソフトウェアプロバイダと締結した契約を収集します。
- 2 契約を表示します ([契約 / 契約] メニュー)。
- 3 新しいレコードを追加します ([新規作成])。
- 4 特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	説明
タイプ (seType)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ [マスターリース] : ソフトウェアベンダのマスターリースがある場合 ▪ [ライセンス] : 厳密な意味でのライセンス契約の場合 ▪ [保険] : サポート契約、アップグレード、ソフトウェアアシユアランスなどの場合
[全般] タブ	
親契約 (Parent)	ライセンス契約をマスターリースにリンクするか、保険契約をライセンス契約にリンクするには
ライセンス (seLicenseType)	ライセンスタイプを指定します。

フィールドまたはリンク	説明
[ライセンス] タブ ライセンス (Licenses)	ライセンス契約で取得されたライセンス権限を記述する資産

ソフトウェアの管理ウィザード (sysSamLauncher) で現在の契約を選択する

ここでは、契約をデフォルトでソフトウェアの管理ウィザードに関連付ける方法について説明します。

注意:

選択した契約は、ウィザードを終了してもそのウィザードに関連付けられたまま残ります。

現在の契約は、AssetCenterデータベースログインに関連付けられているので、ログインごとに異なります。

- 1 ソフトウェアの管理ウィザードを開始します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理])。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、[作業対象の契約を選択] ボタンをクリックします。
- 3 これにより、現在のソフトウェア契約を選択 (sysSamGetEnv) ウィザードが開始します。
ニーズに合わせてウィザードに入力します。
契約の選択を確定します ([OK])。

このマニュアルで、現在の契約とは、AssetCenterデータベースへの任意のログインに対してソフトウェアの管理ウィザードに関連付けられている現行契約を指します。

自動契約承認

ここでは、AssetCenterによる契約承認の自動化の仕組みとその設定および組み込み方法について説明します。

概要

ソフトウェアライセンスモジュールに属するシステムデータには、契約の承認 (sysSam_CNTR_APPR) というワークフローが含まれます。

このワークフローチャートによって、ライセンス契約の承認が自動化されます。
このワークフローチャートを次に説明します。

表 4.2. ライセンス契約承認 - 契約の承認ワークフローチャート

ワークフロー チャートをトリ ガするイベント	ワークフローチャートは、次のいずれかのイベントが発生したときに開始します。 <ul style="list-style-type: none"> ▪ [契約] (amContract) テーブルにレコードが追加される。 ▪ [契約] (amContract) テーブル、 [ステータス] (Status) フィールドが更新される。 									
ワークフローの 実行を継続する ために必要な条 件	ワークフローチャートは、次のようにフィールドに値が設定されている場合に実行を継続します。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">テーブル名</th> <th style="text-align: left;">フィールド名</th> <th style="text-align: left;">フィールド値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>契約 (amContract)</td> <td>ステータス (Status)</td> <td>SAM_WORKFLOW</td> </tr> <tr> <td>契約 (amContract)</td> <td>契約ステータス (seStatus)</td> <td>承認待ち (13) または更 新承認待ち (33)</td> </tr> </tbody> </table>	テーブル名	フィールド名	フィールド値	契約 (amContract)	ステータス (Status)	SAM_WORKFLOW	契約 (amContract)	契約ステータス (seStatus)	承認待ち (13) または更 新承認待ち (33)
テーブル名	フィールド名	フィールド値								
契約 (amContract)	ステータス (Status)	SAM_WORKFLOW								
契約 (amContract)	契約ステータス (seStatus)	承認待ち (13) または更 新承認待ち (33)								
AssetCenter Serverはワーク フローチャート をトリガして実 行する必要がありますか？	いいえ									

- ワークフローチャートの概要説明
- 1 ワークフローチャートでは、ワークフローチャートによって選択されたグループに割り当てられる承認依頼が作成されます。
この承認依頼は、グループの責任者に割り当てられたワークフローのアクティビティによって表示されます。このワークフローのアクティビティは、グループ全員に表示されます。また、メッセージがグループの責任者に送信されます。
 - 2 この承認依頼を予算の承認グループのいずれかのメンバーが受領する場合、ワークフローチャートによって、契約 - 請求の承認、契約 - 法律の承認、契約 - 財務の承認、および契約 - 責任者の承認グループに対する承認依頼が作成されます。
これらの承認依頼は、グループの責任者に割り当てられたワークフローのアクティビティによってそれぞれ表示されます。これらのワークフローのアクティビティは、該当するグループ全員に表示されます。また、メッセージが各グループの責任者に送信されます。
 - 3 4つの承認依頼が承認されたら、契約の責任者がメッセージを受信します。
 - 4 契約が1つ以上の承認グループに拒否されたら、契約の責任者にメッセージが通知され、契約を現状のまま残すか承認するために変更を加えて再提出するかを選択するよう促されます。

予算の承認グループの選択方法を設定する

デフォルトで、適切な予算の承認グループを選択するために、ワークフローチャートは次のように進みます。

- 1 契約にリンクされたすべてのグループを検索します（グループ内の [契約] タブ）。
- 2 [バーコード]（BarCode）フィールドが「CNTRBUDGET」で始まるグループを選択します。
- 3 グループが見つからない場合、[バーコード]（BarCode）フィールドが「sysSam_CNTR_BUD」に設定されているグループに依頼承認が割り当てられます。

[契約の承認] ワークフローチャートを使用するためには、次の操作を行う必要があります。

- 1 グループを表示します（ [ポートフォリオ / グループ] メニュー）。
- 2 特定のグループによって承認された各契約に対して：
 - a 新規のグループを作成（ [新規作成] ボタン）するか、既存グループの詳細画面を表示します。
 - b 次のフィールドおよびリンクが適切な値であることを確認します。

フィールドまたはリンク	値
バーコード（BarCode）	CNTRBUDGETで始まる名前。

フィールドまたはリンク	値
責任者 (Supervisor)	このリンクで指定された責任者は、契約承認依頼のワークフローのアクティビティが契約の承認ワークフローによって作成されたときにメッセージを受信します。また、責任者はこれらのワークフローのアクティビティを確認します。
[グループ構成] タブ :	
メンバー (Members)	グループのメンバーは、契約の承認ワークフローによって作成された契約承認依頼のためのワークフローのアクティビティを確認してから、承認依頼を承認または却下することができます。
[契約] タブ	
契約 (Contracts)	グループによって予算の観点から承認されたその契約を追加します。

重要項目:

このシステムが機能するには、[バーコード] (BarCode) フィールドが「CNTRBUDGET」に設定された単一グループのみに承認対象の契約が含まれる必要があります。

- 3 一般的なグループによって承認する契約に対して:
 - a [バーコード] (BarCode) フィールドが「sysSam_CNTR_BUD」に設定されたグループの詳細画面を表示します。
 - b 次のフィールドおよびリンクが適切な値であることを確認します。

フィールドまたはリンク	値
責任者 (Supervisor)	このリンクで指定された責任者は、契約承認依頼のワークフローのアクティビティが契約の承認ワークフローによって作成されたときにメッセージを受信します。また、責任者はこれらのワークフローのアクティビティを確認します。
[グループ構成] タブ	

フィールドまたはリンク	値
メンバー (Members)	グループのメンバーは、契約の承認ワークフローによって作成された契約承認依頼のためのワークフローのアクティビティを確認してから、承認依頼を承認または却下することができます。

重要項目:

このグループを任意の契約に使用するには、[バーコード] (BarCode) フィールドが「CNTRBUDGET」で始まるグループにこの契約が含まれない必要があります。

その他の承認グループを設定する

その他の承認は、次の承認グループによって処理されます。

- 契約 - 請求の承認 (sysSam_CNTR_BILL)
- 契約 - 法律の承認 (sysSam_CNTR_JURI)
- 契約 - 財務の承認 (sysSam_CNTR_FINA)
- 契約 - 責任者の承認 (sysSam_CNTR_OPER)

これらのグループは、次のように定義する必要があります。

- 1 グループを表示します ([ポートフォリオ / グループ] メニュー)。
- 2 これらのグループの詳細画面を1つずつ表示します。
- 3 次のフィールドとリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値
責任者 (Supervisor)	このリンクで指定された責任者は、契約承認依頼のワークフローのアクティビティが契約の承認ワークフローによって作成されたときにメッセージを受信します。また、責任者はこれらのワークフローのアクティビティを確認します。

[グループ構成] タブ

フィールドまたはリンク	値
メンバー (Members)	グループのメンバーは、契約の承認ワークフローによって作成された契約承認依頼のためのワークフローのアクティビティを確認してから、承認依頼を承認または却下することができます。

契約の承認ワークフローチャートのカスタマイズ

契約の承認は、サンプルとみなし考える必要があります。

おそらく、特に次の部分でユーザ自身の承認プロセスに合わせるカスタマイズが必要になります。

- 実行する承認タイプ (予算、財務、責任者など)
- 承認者を選択する方法 (固定ユーザ、計算されたユーザ、固定グループ、計算されたグループ)

ここでは、例えばどのように財務の承認グループを選択する方法を変更して固定だけではなくて推定になるようにするかを示します。

- 1 ワークフローチャートを表示します ([ツール/ワークフロー/ワークフローチャート] メニュー)。
- 2 [契約の承認] (sysSam_CNTR_APPR) ワークフローチャートを選択します。
- 3 [契約の承認: 財務] (SAM_APPR_CNTR_FINA) アクティビティの詳細画面を表示します ([契約の承認: 財務] ボックスのショートカットメニュー [アクティビティの詳細])。
- 4 [パラメータ] タブを表示します。
- 5 [担当者] リンクの詳細画面を表示します (拡大鏡をクリックします)。
- 6 次のフィールドおよびリンクを変更します。

フィールドまたはリンク	値
コンテキスト (ContextTable)	契約 (amContract)
タイプ (seType)	計算されたグループ

フィールドまたはリンク	値
スクリプト (memScript)	<pre>Const STR<承認タイプ>="CNTR<承認タイプ>" RetVal=amDbGetLong("SELECT g.IGroupId FROM amRelEmplGrpCntr r, amEmplGroup g WHERE r.IGroupId=g.IGroupId AND r.ICntrlId=" & [ICntrlId] & " AND g.BarCode LIKE " & STR<承認タイプ> & "%") if RetVal=0 Then RetVal=amDbGetLong("SELECT IGroupId FROM amEmplGroup WHERE Bar Code ='sysSam_CNTR_<承認タイプ>") <承認タイプ>変数をFINAに置き換える</pre> <p>ヒント:</p> <p>別の承認グループタイプを選択する方法をカスタマイズしたい場合は、同じスクリプトを使用し、<承認タイプ>を次に示す別の値に置き換えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 請求の承認: BILL ▪ 法律の承認: LEGA ▪ 責任者の承認: OPER

- 7 変更を保存して ([変更] ボタン)、ワークフローの役割の詳細画面を閉じます ([閉じる] ボタン)。
- 8 アクティビティの詳細画面を閉じます ([閉じる] ボタン)。
- 9 ワークフローチャートの詳細画面を閉じます ([閉じる] ボタン)。
- 10 グループを表示します ([ポートフォリオ/グループ] メニュー)。
- 11 特定のグループによって承認される契約に対して:
 - a 新規のグループを作成 ([新規作成] ボタン) するか、既存グループの詳細画面を表示します。
 - b 次のフィールドおよびリンクが適切な値であることを確認します。

フィールドまたはリンク	値
バーコード (BarCode)	CNTR<承認タイプ>で始まる名前。<承認タイプ>は、承認グループ選択のスクリプトで定義された値であり、この例ではFINAです。

フィールドまたはリンク	値
責任者 (Supervisor)	このリンクで指定された責任者は、契約承認依頼のワークフローのアクティビティが契約の承認ワークフローによって作成されたときにメッセージを受信します。また、責任者はこれらのワークフローのアクティビティを確認します。
[グループ構成] タブ	
メンバー (Members)	グループのメンバーは、契約の承認ワークフローによって作成された契約承認依頼のためのワークフローのアクティビティを確認してから、承認依頼を承認または却下することができます。
[契約] タブ	
契約 (Contracts)	グループによって財務の観点から承認された契約を追加します。

12 一般的なグループによって承認する契約に対して:

- a [バーコード] (BarCode) フィールドが「sysSam_CNTR_FINA」に設定されたグループの詳細画面を表示します。
- b 次のフィールドおよびリンクが適切な値であることを確認します。

フィールドまたはリンク	値
責任者 (Supervisor)	このリンクで指定された責任者は、契約承認依頼のワークフローのアクティビティが契約の承認ワークフローによって作成されたときにメッセージを受信します。また、責任者はこれらのワークフローのアクティビティを確認します。
[グループ構成] タブ	
メンバー (Members)	グループのメンバーは、契約の承認ワークフローによって作成された契約承認依頼のためのワークフローのアクティビティを確認します。

重要項目:

このグループを任意の契約に使用するには、[バーコード] (BarCode) フィールドが「CNTRFINA」で始まるグループにこの契約が含まれない必要があります。

現在の契約の承認を依頼する

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、ウィザードが現在の契約に関連付けられていることを確認してから、[ソフトウェア契約の作成/変更] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [契約の管理] ページで、[契約の承認を依頼] をクリックします。
- 5 これにより、契約の承認依頼 (sysSamReqContractApproval) ウィザードが開始します。

契約承認依頼を確定します ([OK])。

このウィザードによって、現在の契約の次に示すフィールドおよびリンクが変更されます。

フィールド名	フィールド値
ステータス (Status)	SAM_WORKFLOW
契約ステータス (seStatus)	承認待ち

これらの変更によって、現在の契約の承認 (sysSam_CNTR_APPR) ワークフローがトリガされます (▶ [概要 \[修繕2\]](#))。

現在の契約の承認状況を表示する

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、ウィザードが現在の契約に関連付けられていることを確認してから、[ソフトウェア契約の作成/変更] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 ソフトウェアの管理ウィザードページで、[契約承認の進行状況] オプションを選択します。
- 5 これにより、契約の承認 (sysSam_CNTR_APPR) ワークフローの進行状況を示す画面が表示されます (▶ [概要 \[修繕2\]](#))。

契約の承認依頼を受領または却下する

依頼された各承認に対して、契約の承認ワークフローチャートからワークフローのアクティビティが作成されます。

これらのワークフローのアクティビティは、様々な承認のグループの責任者に割り当てられます。

ワークフローチャートは、責任者とそのタスクが割り当てられたグループのメンバーに対して表示されます。

承認依頼を受領または却下するには、

- 1 責任者のログインまたはグループメンバーでAssetCenterデータベースに接続します。
- 2 ワークフロータスクを表示します（ [ツール / 進行中のタスク] ）。
- 3 承認依頼に該当するタスクを選択します。
- 4 ワークフロータスクを確認します。
- 5 [契約の検証] または [契約の却下] のいずれかをクリックします。

契約の承認サイクルを再開する

契約が却下された場合、ワークフローチャートによって契約責任者にメッセージが送信されます。

契約の処理方法を決定するには、

- 1 契約責任者のログインでAssetCenterデータベースに接続します。
- 2 メッセージを表示します（ [ツール / メッセージ] メニュー）。
- 3 却下通知メッセージの詳細画面で、契約の詳細を参照します（ [参照オブジェクト] ）。
- 4 契約を変更します。
- 5 ワークフロータスクを表示します（ [ツール / 進行中のタスク] ）。
- 6 承認の却下に該当するタスクを選択します。
- 7 ワークフロータスクを確認します。
- 8 承認サイクルを再開する場合は [はい] をクリックし、処理を終了する場合は [いいえ] をクリックします。

[はい] をクリックした場合、ワークフローのアクティビティによって、承認対象の契約内で次に示すフィールドおよびリンクが変更されます。

フィールド名	フィールド値
ステータス (Status)	SAM_WORKFLOW
契約ステータス (seStatus)	承認待ち

これらの変更によって、現在の契約の承認 (sysSam_CNTR_APPR) ワークフローがトリガされます（ ▶ [概要 \[修繕2 \]](#) ）。

ライセンス契約を変更する

ここでは、既存の契約を変更する方法について説明します。

方法1：ソフトウェアの管理ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

- 1 ソフトウェアの管理ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェア契約の作成/変更] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [契約の管理] ページで、[既存の契約を変更] をクリックします。
- 5 これにより、ソフトウェア契約を作成(原案) (sysSamCreateSoftContract) ウィザードが開始します。
ニーズに合わせてウィザードに入力します。
契約のすべてのパラメータを確定します ([終了])。
ウィザードによって契約が変更されます。

方法2：メニューを使用する

- 1 契約を表示します ([契約/契約] メニュー)。
- 2 変更対象の契約を選択します。
- 3 契約を変更します。
- 4 変更を確定します ([変更])。

契約ライセンスをメンテナンス契約に関連付ける

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェア契約の作成/変更] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [契約の管理] ページで、[新規メンテナンス契約を作成] をクリックします。
- 5 これにより、契約の作成ウィザード (BstCntrCreateContract) が開始します。
ウィザード内のページに入力します。
入力した内容を確定します ([終了])。
ソフトウェア契約を作成ウィザードによって、メンテナンス契約が作成され、現在の契約にリンクされます。

現在の契約に関連付けられているメンテナンス契約を変更する

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、ウィザードが現在の契約に関連付けられていることを確認してから、[ソフトウェア契約の作成/変更] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [契約の管理] ページで、[メンテナンス契約を変更] ボタンをクリックします。
- 5 これにより、現在の契約に関連付けられているメンテナンス契約の詳細画面が表示されます。
関連付けられている契約を変更します。
入力した内容を確定します ([変更])。

請求明細を現在の契約にリンクする

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、ウィザードが現在の契約に関連付けられていることを確認してから、[ソフトウェア契約の作成/変更] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェアの管理] ウィザードページで、[請求明細を契約にリンクします] ボタンをクリックします。
- 5 これにより、請求明細を契約にリンク (sysSamLinkInvoices2Ctr) ウィザードが開始します。
- 6 ウィザードのページを次のように入力します (ウィザードページの移動には [次へ]、[戻る] を使用)。
- 7 入力した内容を確定します ([終了])。
これにより、請求明細が現在の契約にリンクされます (請求明細の [関連付けられている契約] (CntrlInvLine) リンク)。
- 8 ウィザードを終了します ([OK] ボタン)。

現在の契約に資産を追加する

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、ウィザードが現在の契約に関連付けられていることを確認してから、 [ソフトウェア契約の作成/変更] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [契約の管理] ページで、 [資産を既存の契約に追加] ボタンをクリックします。
- 5 これにより、現在の契約にまだリンクされていない [資産] (amAsset) タブ内のレコードが一覧表示されます。
- 6 1つまたは複数の資産を選択します。
- 7 ウィザードのその他のページを次のように入力します (ウィザードページの移動には [次へ]、 [戻る] を使用)。
- 8 入力した内容を確定します ([終了])。
これにより、資産が現在の契約にリンクされます (契約の詳細画面の [資産] タブと資産の詳細画面の [契約] タブ)。
- 9 ウィザードを終了します ([OK] ボタン)。

ユーザを現在のASP契約に追加する

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、ウィザードが現在の契約としてASP契約に関連付けられていることを確認してから、 [ソフトウェアライセンスとインストールの作成/変更] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ライセンスとソフトウェアのインストール] ページで、 [ASPユーザの追加] ボタンをクリックします。
- 5 これにより、ASPユーザの追加ウィザード (sysSamAddAspUsers2Cntr) が開始します。
- 6 ウィザードのページを次のように入力します (ウィザードページの移動には [次へ]、 [戻る] を使用)。
- 7 入力した内容を確定します ([終了])。
これにより、選択したユーザが現在のASP契約にリンクされます (契約の詳細画面の [従業員] タブ)。
- 8 ウィザードを終了します ([OK] ボタン)。

現在のASP契約からユーザを削除する

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア / ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、ウィザードが現在の契約としてASP契約に関連付けられていることを確認してから、[ソフトウェアライセンスとインストールの作成/変更] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ライセンスとソフトウェアのインストール] ページで、[ASPユーザの削除] ボタンをクリックします。
- 5 これにより、ASPユーザの削除ウィザード (sysSamDelAspUsersFromCntr) が開始します。
- 6 ウィザードのページを次のように入力します (ウィザードページの移動には [次へ]、[戻る] を使用)。
- 7 入力した内容を確定します ([終了])。
これにより、選択したユーザが現在のASP契約から削除されます (契約の詳細画面の [従業員] タブ)。
- 8 ウィザードを終了します ([OK] ボタン)。

ソフトウェアライセンス

ソフトウェアライセンスまたは資格はポートフォリオ品目です (▶ [ポートフォリオ品目 \[修 7 \]](#))。他のポートフォリオ品目の管理と同様に、個別管理、一括管理、または非個別管理のいずれかを選択することができます。

ソフトウェアライセンス / 資格の属性を作成する

次に示すフィールドを入力する属性を作成します。

フィールド	値
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	なし

フィールド	値
ソフトウェアライセンス	はい
	▶ 属性 [修飾7]

ソフトウェアライセンス / 資格のモデルを作成する

方法1：ソフトウェアの管理ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

- ▶ ソフトウェアライセンス / 資格を作成する [修飾6]

方法2：メニューを使用する

- 1 モデルを表示します ([ポートフォリオ / モデル] メニュー)。
- 2 新しいレコードを追加します ([新規作成])。
- 3 特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値のコメント
[全般] タブ	
属性 (Nature)	[オーバーフローテーブル] (seOverflowTbl) フィールドが「なし」に設定され [ソフトウェアライセンス] オプションが選択されている属性
[ライセンス] タブ	

ソフトウェアライセンス / 資格を作成する

方法1：ソフトウェアの管理ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

- 1 ソフトウェアの管理ウィザードを起動します ([ソフトウェア / ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェアライセンスとインストールの作成/変更] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。

- 4 [ライセンスとソフトウェアのインストール] ページで、[ソフトウェアライセンスの作成] ボタンをクリックします。
- 5 これにより、新規ソフトウェアライセンスの作成 (sysSamCreateLicpfi) ウィザードが開始します。
ニーズに合わせてウィザードに入力します。
特に、ソフトウェアライセンス / 資格を作成するための適切なモデルがまだない場合は、ページ [新規ソフトウェアライセンスの作成] の [ライセンスとソフトウェアのインストールの準備] をクリックします。
これにより、ライセンスとソフトウェアのインストールの準備 (sysSamLicenseProcess) ウィザードが開始します。
次の2つのボタンのいずれかをクリックします。
 - [ソフトウェアライセンスタイプ (モデル) の作成]: これにより、ウィザードソフトウェアライセンスタイプ (モデル) の作成 (sysSamCreateLicModel) が開始します。
このウィザードは、既存のモデル ([amModel] テーブル) またはカタログ製品 ([amCatProduct] テーブル) からライセンス / ソフトウェアの資格を作成するために使用されます。
 - [棚卸したインストールからソフトウェアライセンスタイプ (モデル) を作成]: これにより、ウィザード棚卸したインストールからソフトウェアライセンスタイプ (モデル) を作成 (sysSamCreateLicModFromInst) が開始します。
このウィザードは、棚卸済インストールからライセンス / ソフトウェアの資格を作成するために使用されます。
- 6 すべてのパラメータを確定します ([終了])。
ウィザードによって、ライセンス / 資格が作成されます。

方法2 : メニューを使用する

- 1 ポートフォリオ品目を表示します ([ポートフォリオ / ポートフォリオ品目] メニュー)。
- 2 適切なモデルを基にしてポートフォリオ品目を作成します。
- 3 特に、[ライセンス] タブに入力します。

ソフトウェアライセンス / 資格を変更する

方法1：ソフトウェアの管理ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

- 1 ソフトウェアの管理ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェアライセンスとインストールの作成/変更] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ライセンスとソフトウェアのインストール] ページで、[ソフトウェアライセンスの変更] をクリックします。
- 5 これにより、ライセンス / 資格のリストが表示されます。
変更対象のライセンス / 資格を選択して変更します。
変更を確定します ([変更])。

方法2：メニューを使用する

- 1 ポートフォリオ品目を表示します ([ポートフォリオ/ポートフォリオ品目] メニュー)。
- 2 変更対象のライセンス / 資格を選択し変更します。
- 3 変更を確定します ([変更])。

ライセンス依頼を作成する

ここでは、固定ユーザが任意の依頼テンプレートから依頼を作成することを可能にする方法について説明します。

これは、さまざまな段階で実行されます。

- 1 依頼テンプレートを作成する [修飾8]
- 2 特定資格の作成 [修飾9]
- 3 依頼を作成する [修飾9]

依頼テンプレートを作成する

固定ユーザに使用が許可される依頼テンプレートを作成します。

- a 依頼テンプレートを表示します ([ポートフォリオ/依頼テンプレート] メニュー)。
- b 新規のレコードを作成します ([新規作成] ボタン)。
- c レコードの詳細画面に入力します。

依頼と調達に関する詳細情報: ▶ マニュアル『調達』の特に「依頼」の章、「手順/依頼テンプレートから新規依頼を作成する」の節

特定資格の作成

依頼テンプレートから依頼を作成する権限を任意のユーザに付与する特定資格を作成します。

- 1 特定資格を表示します（[ポートフォリオ/特定資格]メニュー）。
- 2 新しいレコードを追加します（[新規作成]）。
- 3 特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値のコメント
[従業員] タブ 従業員 (EntitledEmpl)	依頼テンプレートからの依頼作成が許可されるユーザを追加します。
[モデル] タブ 依頼 (Requests)	資格のあるユーザ用の承認された依頼テンプレートを追加します。

依頼を作成する

特定資格に指定されたユーザは、承認された依頼テンプレートから依頼を作成することができます。

- 1 特定資格に関連付けられたユーザのログインを使用して、データベースに接続します（[ファイル/データベースに接続]メニュー）。
- 2 ソフトウェアの管理ウィザードを起動します（[ソフトウェア/ソフトウェア資産管理]メニュー）。
- 3 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェアライセンスとインストールの作成/変更] オプションを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。

- 5 [ソフトウェアライセンスとインストール] ページで、[ソフトウェアライセンスの作成] ボタンをクリックします。

これにより、新規ソフトウェアライセンスの作成 (sysSamCreateLicpfi) ウィザードが開始します。

- 6 ページ [新規ソフトウェアライセンスの作成] の [ライセンスとソフトウェアのインストールの準備] をクリックします。

これにより、ライセンスとソフトウェアのインストールの準備 (sysSamLicenseProcess) ウィザードが開始します。

- 7 [承認済標準依頼から依頼を作成] ボタンをクリックします。

これにより、特定資格の依頼を作成 (sysSamCreateReqFromEntitledTempl) ウィザードが開始します。

- 8 ウィザードのページを次のように入力します（ウィザードページの移動には [次へ]、[戻る]を使用）。
- 9 すべてのパラメータを確定します（[終了]）。
ウィザードによって依頼が作成されます。
- 10 ウィザードを終了します（[OK]ボタン）。

ライセンスをユーザに割り当てるために特定資格を作成する

ここでは、特定資格を作成して指定ユーザにソフトウェア使用権限を割り当てる方法について説明します。

方法1：ソフトウェアの管理ウィザード（sysSamLauncher）を使用する

- 1 ソフトウェアの管理ウィザードを起動します（[ソフトウェア/ソフトウェア資産管理]メニュー）。
- 2 [ソフトウェアの管理]ページで、[ソフトウェアをユーザに割り当てる]オプションを選択します。
- 3 [次へ]をクリックします。
- 4 [ソフトウェアライセンスをユーザに割り当てる]ページで、[特定資格]をクリックします。
これにより、ソフトウェアの割り当て（sysSamEntitleUserOrItem）ウィザードが開始します。
- 5 ニーズに合わせてウィザードに入力します。
- 6 すべてのパラメータを確定します（[終了]）。
- 7 ウィザードを終了します（[OK]ボタン）。

方法2：メニューを使用する

- 1 特定資格を表示します（[ポートフォリオ/特定資格]メニュー）。
- 2 新しいレコードを追加します（[新規作成]）。

ライセンス / 資格を削除する

- 1 ソフトウェアの管理（sysSamLauncher）ウィザードを起動します（[ソフトウェア/ソフトウェア資産管理]メニュー）。

- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェアライセンスとインストールの作成/変更] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [Licenses and software installations] (ライセンスとソフトウェアのインストール) ページで、[ポートフォリオからライセンスまたはインストールを削除] をクリックします。
- 5 これにより、ポートフォリオ品目の除却 (AstRetire) ウィザードが開始します。
ニーズに合わせてウィザードに入力します。
すべてのパラメータを確定します ([終了])。
ウィザードによって、定義されたタスクが実行されます。

インストール済ソフトウェア

インストール済ソフトウェアはポートフォリオ品目です (▶ [ポートフォリオ品目 \[修 7\]](#))。他のポートフォリオ品目の管理と同様に、個別管理、一括管理、または非個別管理のいずれかを選択することができます。

インストール済ソフトウェアを手動で作成する

インストール済ソフトウェアを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [オーバーフローテーブル] フィールド (seOverflowTbl) で [インストール済ソフトウェア] を設定して、インストール済ソフトウェアの属性を作成します (▶ [属性 \[修 7\]](#))。
- 2 この属性を基にしてモデルを作成します。
[インストール済ソフトウェア] タブページの各フィールドに入力します。
タブの各フィールドの値は、このモデルを基にして作成されるすべてのインストール済ソフトウェアに継承されます。
- 3 上で作成したモデルを基にして、ポートフォリオ品目を作成してから、ポートフォリオ品目の詳細を入力します。

インストール済ソフトウェアのポイント数

特定の種類のライセンスでは、ソフトウェアのインストール/使用によって、一定のポイント数が消費されます。例えば「Microsoft Select」ライセンスでは、Microsoft Wordをインストールすると、3ポイント消費したことになります。

Microsoft Wordのインストール件数が100の場合、300ポイント消費したことになります。

各インストールで消費するポイント数は、[ポイント数]フィールド (IUseCount) で指定します。

ソフトウェアインストールカウンタを使用する場合に (▶[実用例1d: 実際のソフトウェア使用の考慮](#) [倭献43])、インストールカウンタで各インストール/使用に関連するポイント数をカウントするかどうかを指定できます。

実際のソフトウェア使用について考慮する

ソフトウェアインストール/使用詳細画面の [使用] タブに、ソフトウェアの使用状況に関する情報が表示されます。

このタブのフィールドのうち、[前回の使用] フィールド (dtLastUse) がソフトウェアカウンタによって使用されます (▶[実用例1b: ライセンスポイントを考慮して特定の部署に範囲を制限](#) [倭献37])。カウンタのレベルで、インストール/使用カウンタで前回の使用日付を考慮するかどうかを指定します。

[インストール済ソフトウェア] テーブル

インストール済ソフトウェアに対応するレコードが [ポートフォリオ品目] テーブルで作成されると、[インストール済ソフトウェア] テーブルでも対応レコードが作成されます。[インストール済ソフトウェア] テーブルはオーバーフローテーブルです (▶[オーバーフローテーブル](#) [倭献8])。

[インストール済ソフトウェア] テーブルを表示するには、[ポートフォリオ/インストール済ソフトウェア] メニューを選択します。

ポートフォリオ品目のリスト ([ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]) では、インストール済ソフトウェアに対応するレコードに対して [インストール済ソフトウェア] タブが使用できます。このタブには、この品目に対応する [インストール済ソフトウェア] テーブルのレコードの詳細情報が表示されます。

インストール済ソフトウェアのレコードの詳細情報は、同レコードのモデルの [インストール済ソフトウェア] タブで入力されている情報を再編成したものです。

インストール/使用の自動作成

インストール/使用を手動で作成するのは、手間がかかり、誤りのおそれもあります。

- 手間がかかるのは、対象となる数が多いからです。
- 誤りのおそれがあるのは、何をインストールしたかを管理している場合はほとんどないからです。

インストール / 使用のステータスを反映する最も効率的で信頼性の高い方法は、Network DiscoveryやDesktop Inventoryのような自動ネットワークスキャンツールを使用することです。

 **注意:**

もちろん、他のスキャンツールも使用できます。必要な変更をConnect-Itシナリオに加えて、AssetCenter Serverモジュールがそのスキャンソフトウェアと連動するようにします。

これらのツールを使用することにより、コンピュータごとのインストール数を把握し、その情報をAssetCenterデータベースに反映させることができます。

Desktop Inventoryデータベースから結果をインポートするために環境を設定する

- 1 Desktop Inventoryによりソフトウェアスキャンを実行します。AssetCenter 4.4 添付のConnect-It動作環境の表で指定されたバージョンを使用します。
- 2 AssetCenter 4.4で提供されるバージョンのConnect-Itをインストールします。
- 3 Connect-Itを開始します。
- 4 シナリオpdiac-swnorm.scn (Connect-Itインストール先フォルダの scenario \pdi \pdi<Desktop Inventoryバージョン番号>ac<AssetCenterバージョン番号>サブフォルダ内) を開きます ([File / Open] メニュー) 。
例 : C: \Program Files \Peregrine \ConnectIt \scenario \pdi \pdi8ac44
- 5 Peregrine Desktop Inventoryコネクタを設定します (シナリオ方式でコネクタを選択、ショートカットメニュー [Configure connector]) 。
[Select a connection protocol] (接続プロトコルの選択) ウィザードページで、接続プロトコルを選択してから、ウィザード内の関連ページを入力します。
- 6 資産管理コネクタを設定します (シナリオ方式でコネクタを選択、ショートカットメニュー [Configure connector]) 。
設定ウィザードの [Define the connection parameters] ページを入力します。
- 7 変更内容を保存して、Connect-Itを終了します。
- 8 AssetCenter Serverを起動します。
- 9 AssetCenterデータベースに接続します ([ファイル / データベースに接続]) 。
- 10 モジュールを表示します ([ツール / モジュールの設定]) 。
- 11 スキャナ(PDI)の結果を基にデータベースを更新 (PdiAc) モジュールを選択します。
- 12 [有効] オプションを選択します。
- 13 [ユーザデータ] フィールドを次のように変更します。

```
"$connectit_exedir$/conitsvc.exe" -once -wpplog '$connectit_exedir$/../scenario/pdi/
pdi8ac$version$/pdiac.scn' -d:'Asset Management.SERVER'=$cnx$ -dc:'Asset Mana
gement.LOGIN'=$login$ -dc:'Asset Management.TEXTPASSWORD'=$pwd$
```

- 数値8をインストール済ソフトウェアのバージョン番号に置き換えてください。
例：Desktop Inventoryバージョン7.3の場合は7です。
 - pdiac.scnをpdiac-swnorm.scnに置き換えます。
- 14 スキャナ(PDI)の結果を基にデータベースを更新モジュールのトリガ頻度を定義します（ [検証スケジュール] 枠）。
 - 15 変更を保存します（ [変更] ）。
 - 16 AssetCenter Serverを終了します。

Network Discoveryで取得されたデータベースの結果をインポートするように環境を設定する

- 1 Network Discoveryによるソフトウェアスキャンを実行します。AssetCenter 4.4 添付のConnect-It動作環境の表で指定されたバージョンを使用します。
- 2 AssetCenter 4.4で提供されるバージョンのConnect-Itをインストールします。
- 3 Connect-Itを開始します。
- 4 シナリオpndac.scn（Connect-Itインストール先フォルダのサブフォルダ scenario/pnd/pnd<Network Discoveryバージョン番号>ac<AssetCenterバージョン番号>scenario/pdi/pdi<Desktop Inventoryバージョン番号>ac<AssetCenterバージョン番号>内）を開きます（ [File / Open] メニュー）。
例: C:/Program Files/Peregrine/ConnectIt/scenario/pnd/pnd52ac44
- 5 PNDコネクタを設定します（シナリオ方式でコネクタを選択、ショートカットメニュー [Configure connector] ）。
[Configure the database server connection] ページに入力します。
- 6 資産管理コネクタを設定します（シナリオ方式でコネクタを選択、ショートカットメニュー [Configure connector] ）。
設定ウィザードの [Define the connection parameters] ページを入力します。
- 7 変更内容を保存して、Connect-Itを終了します。
- 8 AssetCenter Serverを起動します。
- 9 AssetCenterデータベースに接続します（ [ファイル / データベースに接続] ）。
- 10 モジュールを表示します（ [ツール / モジュールの設定] ）。
- 11 新しいモジュールを追加します（ [新規作成] ）。
- 12 次のフィールドを入力します。

フィールド	値
有効	はい

フィールド	値
名前	PndAc
説明	スキャナ(PND)の結果を基にデータベースを更新
ユーザデータ	<pre>"\$connectit_exedir\$/conitsvc.exe" -once -wpplog '\$connectit_exedir\$/../scenario/pnd/pnd<Network Discovery> version numberac\$version\$/pndac.scn '-d:'Asset Management.SERVER'=\$cnx\$ -dc:'Ass et Management.LOGIN'=\$login\$ -dc:'Ass et Management.TEXTPASSWORD'=\$pwd\$</pre> <p>重要項目:</p> <p>必ず<Network Discoveryバージョン番号>をバージョン番号の値に置き換えてください。 例: Network Discoveryバージョン5.2.xの場合、52</p>

- 13 スキャナ(PND)の結果を基にデータベースを更新モジュールのトリガ頻度を定義します ([検証スケジュール] 枠)。
- 14 作成を確定します ([作成])。
- 15 AssetCenter Serverを終了します。

モデルの正常化 (sysSam_ModelNorm) グループの設定

このグループは、モデルの正常化: 'amInventModel' が追加されました (sysInvExtModelNew) からワークフローチャートを割り当てるために使用されます (▶ [棚卸しされたモデル] (amInventModel) テーブルに新しいレコードが作成されたときにトリガされる自動処理 [倭献08])。

ワークフロータスクの処理が可能な人を指定するには、

- 1 グループを表示します ([ポートフォリオ / グループ] メニュー)。
- 2 モデルの正常化グループを表示します。
- 3 少なくとも次のリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	コメント
責任者 (Supervisor)	このリンクで指定した人は、モデルの正常化: 'amInventModel' が追加されましたワークフローチャートによって作成されたタスクを確認します。
[グループ構成] タブ :	

フィールドまたはリンク	コメント
メンバー (Members)	グループのメンバーは、モデルの正常化: 'amInventModel' が追加されましたワークフローによって作成されたワークフローチャートを確認します。

Desktop InventoryまたはNetwork Discovery棚卸データベースをインポートする

棚卸データベースをインポートする

AssetCenter Serverは、適切なモジュールが動作しているバックグラウンドで実行時に、Desktop InventoryまたはNetwork Discovery棚卸データベースから情報を自動的にインポートします。

棚卸データベースからインポートされる情報

棚卸データベースには、棚卸されるすべてのコンピュータが含まれています。棚卸される各コンピュータには、コンポーネント（画面、プリンタなど）と識別済みソフトウェアが添付されています。

AssetCenterデータベースでのインポート結果

すべてのコンピュータ、コンピュータ上で識別されるコンピュータコンポーネントおよびソフトウェアに対してポートフォリオ品目が作成されます。

これからソフトウェアの詳細を見て行きます。

棚卸されるすべてのソフトウェア：

- 1 Connect-Itでは、[キー] (InventoryKey) フィールドが以下に示す項目の連結である [棚卸されたモデル] (amInventModel) テーブルにレコードが既に存在するかどうかをAssetCenter内で検索します。

- 文字列PDI|
- インポート対象の棚卸データベースレコードの [applicationdata.application.versionid] フィールドの値

このようなレコードが見つからない場合、Connect-Itは以下を実行します。

- レコードを作成します。
- 一時モデル (ModelTmp) リンクに不明なインストール済ソフトウェアモデルを入力します。

 注意:

不明なインストール済ソフトウェアモデルは、[バーコード] (BarCode) フィールドが「sysUNKNOWN_SOFT」に設定され [名前] (Name) フィールドが「不明なインストール済ソフトウェア」と同等であるモデル (amModel) テーブルのレコードに該当します。

これが存在する場合、Connect-Itによってレコードが更新されます。

 注意:

ソフトウェアライセンスモジュールの専門分野データによって、AssetCenter 4.4添付のConnect-It動作環境の表に示されたDesktop Inventoryのバージョンに該当するモデルが [棚卸しされたモデル] (amInventModel) テーブルに入力されます。

これらの一時モデルは、[モデル] (amModel) テーブル内のレコードに関連付けられていないので、ポートフォリオ内で使用できるインストールモデルのみが作成されます。棚卸しされたモデルに該当するモデルの作成は、自動化されます (▶ [棚卸しされたモデル] テーブルの既存のレコードがソフトウェアインストールに最初にリンクされたときにトリガされる自動処理 [倭献09])。

- 2 Connect-Itでは、[ポートフォリオ品目] (amPortfolio) テーブルにレコードが既に存在するかどうかをAssetCenter内で検索します。
 - ソフトウェアが識別されたコンピュータにリンクされる
 - [インストール先フォルダ] (folder) フィールドがインポート対象レコードの [applicationdata.application.maindir] フィールドの値に設定されます。
 - [キー] (InventoryKey) フィールドがPDI文字列と [applicationdata.application.versionid] フィールド値の連結である [棚卸しされたモデル] (amInventModel) テーブルのレコードにリンクされます。

このようなレコードが見つからない場合、Connect-Itは以下を実行します。

- レコードを作成します。
- [モデル] (amModel) リンクに不明なインストール済ソフトウェアモデルを入力します。

 注意:

不明なインストール済ソフトウェアモデルは、[バーコード] (BarCode) フィールドが「sysUNKNOWN_SOFT」に設定され [名前] (Name) フィールドが「不明なインストール済ソフトウェア」と同等であるモデル (amModel) テーブルのレコードに該当します。

これが存在する場合、Connect-Itによってレコードが更新されます。

- 3 Connect-Itでは、ポートフォリオ品目に自動的に関連付けられる [インストール済ソフトウェア] (amSoftInstall) テーブルでレコードを作成および更新します

インポートによってトリガされる自動処理

[棚卸しされたモデル] (amInventModel) テーブルに新しいレコードが作成されたときにトリガされる自動処理

Connect-Itによって [棚卸しされたモデル] テーブルにレコードが追加されると、モデルの正常化: 'amInventModel' が追加されました (sysInvExtModelNew) ワークフローチャートが自動的に開始します。

このワークフローによって、モデルの正常化 (sysSam_ModelNorm) グループに割り当てられるタスクが作成されます。

このワークフローのタスクでは、 [棚卸しされたモデル] レコードを [モデル] (amModel) レコードに手動でマッピングすることが求められます。

ワークフロータスクを実行するには、

- 1 責任者のログインまたはモデルの正常化グループメンバーのログインで AssetCenterデータベースに接続します ([ファイル / データベースに接続])。
- 2 ワークフロータスクを表示します ([ツール / 進行中のタスク])。
- 3 タスクを選択します。
- 4 [ウィザード] をクリックします。
AssetCenterによって、不明なインストールと既知のインストール済みソフトウェアとの関連付 (sysSamNormalizeModels) ウィザードが開始します。
- 5 [最終モデル] リンクに入力します。
- 6 [OK] をクリックします。

AssetCenterによって、 [棚卸しされたモデル] テーブルのレコードが [モデル] テーブルのレコードに関連付けられます。

これにより、モデルの正常化: 'amInventModel' が解決されました (sysInvExtModelEnd) ワークフローチャートが自動的にトリガされます。

このワークフローチャートは、外部モデルの関連付けを伝達 (SYS_RES_MOD_ACT01) アクションをトリガします。

このアクションは、次のことを実行します。

- a 解決された [棚卸しされたモデル] テーブルのレコードにリンクされたすべてのポートフォリオ品目を検索する。
- b 見つかったすべてのポートフォリオ品目を [棚卸しされたモデル] テーブルのレコードに関連付けられている [モデル] テーブルのレコードにリンクする。

[棚卸しされたモデル] テーブルの既存のレコードがソフトウェアインストールに最初にリンクされたときにトリガされる自動処理

次の場合に、モデルの正常化: 'amPortfolio' が変更されました (sysInvExtModelSync) ワークフローが自動的に開始します。

- Connect-Itによって、[モデル] (amModel) テーブルのレコードにまだ関連付けられていない [棚卸しされたモデル] テーブルの既存レコードに関連付けられるソフトウェアインストールが作成される場合
- Connect-Itによって、[モデル] (amModel) テーブルのレコードにまだ関連付けられていない [棚卸しされたモデル] テーブルの既存レコードに既存のソフトウェアインストールが関連付けられる場合

このワークフローチャートは、外部モデルの関連付けを伝達 (SYS_RES_MOD_ACT01) アクションをトリガします。

このアクションは、次のことを実行します。

- 1 [棚卸しされたモデル] テーブルの次のフィールドを使用する [モデル] テーブルに新しいレコードを作成する。
 - [メーカー] (BrandName)
 - [モデル] (ModelName)
 - [親モデル] (ModelParent)

このモデルは、親モデルとしてモデルにリンクされる。
- 2 [棚卸しされたモデル] テーブルのレコードに関連付けられた [モデル] テーブルのレコードにソフトウェアインストールをリンクします。

前回のコンピュータのスキャンで見つからなかったソフトウェアにフラグを設定する

ここでは、AssetCenterで前回のコンピュータのスキャンで見つからなかったソフトウェアインストール / 使用にフラグを自動設定する方法について説明します。

このタスクは、前回のスキャンで見つからなかったソフトウェアの検出 (BST_SAM20) ワークフローによって実行されます。

このワークフローチャートは、ソフトウェアライセンスモジュールの専門分野データの一部です。

表 4.3. スキャンインポート - 前回のスキャンで見つからなかったソフトウェアの検出ワークフローチャート

ワークフローをトリガするイベント	[コンピュータ] テーブル、 [前回のソフトウェアスキャン] (dtSoftScan) フィールドの変更。
------------------	---

ワークフローチャートの実行条件	条件なし
AssetCenter Serverはワークフローチャートをトリガして実行する必要がありますか？	いいえ
ワークフローチャートの概要説明	<p>ワークフローチャートは、見つからないソフトウェア割り当て (BstSamMissingSoftware)アクションをトリガします。</p> <p>このアクションは、コンピュータに関連付けられた各ソフトウェアインストール/使用を調査します。</p> <p>インストール/使用の [棚卸日] (dtInvent) フィールドがコンピュータの [前回のソフトウェアスキャン] (dtSoftScan) よりも古い場合は、アクションによって、インストール/使用の [割当] (seAssignment) フィールドが「紛失」に更新されます。</p>

未承認インストールが発生した場合に自動メッセージを送信する

ここでは、ユーザが未承認インストール/使用を作成した場合に自動通知を送信する方法について説明します。

このタスクは、未承認のインストール (BST_SAM03) ワークフローチャートによって実行されます。

未承認のインストールワークフローチャートの主な機能

このワークフローチャートは、ソフトウェアライセンスモジュールの専門分野データの一部です。

表 4.4. ライセンスコントロール - 未承認のインストールワークフローチャート

ワークフローをトリガするイベント	新しいインストール/使用の作成
ワークフローチャートの実行条件	PortfolioItem.Model.seAuthorization = 2
AssetCenter Serverはワークフローチャートをトリガして実行する必要がありますか？	いいえ

ワークフローチャートの概要説明

未承認のインストール済ソフトウェアに関する管理者へのメール

(BstSamUnauthinstallation_found) アクションで指定された人にメッセージが送信されます。

これはデフォルトで、[名前] (Name) フィールドが「Admin」に設定されている [従業員と部署] (amEmplDept) テーブルのレコードに該当する人です。

[電子メール] (EMail) フィールドで指定されたアドレスにメッセージが送信されます。

承認しないインストール / 使用を指定する

- 1 モデルを表示します ([ポートフォリオ / モデル] メニュー)。
- 2 承認しないモデルを表示します。
- 3 次のフィールドおよびリンクを変更します。

フィールドまたはリンク	値
[インストール済ソフトウェア] タブ	
認証 (seAuthorization)	権限なし

別の受信者を選択する、警告メッセージの件名または本文を変更する

- 1 アクションを表示します ([ツール / アクション / 編集] メニュー)。
- 2 アクション未承認のインストール済ソフトウェアに関する管理者へのメール (BstSamUnauthinstallation_found) を表示します。
- 3 次のフィールドおよびリンクを変更します。

フィールドまたはリンク	値
[メッセージシステム] タブ	
受信者 (MsgTo)	
件名 (Subject)	
メッセージ (memMsgText)	

通知メッセージの受信アドレスを定義する

- 1 従業員を表示します ([ポートフォリオ / 従業員と部署] メニュー)。

- 2 アクション未承認のインストール済ソフトウェアに関する管理者へのメール（BstSamUnauthinstallation_found）の受信者を表示します。
- 3 [電子メール]（EMail）フィールドを変更します。

インストール / 使用を削除する

- 1 ソフトウェアの管理（sysSamLauncher）ウィザードを起動します（[ソフトウェア / ソフトウェア資産管理]メニュー）。
- 2 [ソフトウェアの管理]ページで、[ソフトウェアライセンスとインストールの作成/変更]オプションを選択します。
- 3 [次へ]をクリックします。
- 4 [ソフトウェアライセンスとインストール]ページで、[ポートフォリオからライセンスまたはインストールを削除]をクリックします。
- 5 これにより、ポートフォリオ品目の除却（AstRetire）ウィザードが開始します。
ウィザードのページを次のように入力します（ウィザードページの移動には[次へ]、[戻る]を使用）。
- 6 すべてのパラメータを確定します（[終了]）。
ウィザードによって依頼が作成されます。
- 7 ウィザードを終了します（[OK]ボタン）。

ライセンス依頼を作成する

- 1 ソフトウェアの管理（sysSamLauncher）ウィザードを起動します（[ソフトウェア / ソフトウェア資産管理]メニュー）。
- 2 [ソフトウェアの管理]ページで、[ソフトウェアライセンスとインストールの作成/変更]オプションを選択します。
- 3 [次へ]をクリックします。
- 4 [ライセンスとソフトウェアのインストール]ページで、[新規ソフトウェアライセンスの依頼]ボタンをクリックします。
- 5 これにより、ソフトウェアライセンスの依頼（sysSamCreateLicReq）ウィザードが開始します。
ニーズに合わせてウィザードに入力します。
- 6 すべてのパラメータを確定します（[終了]）。
ウィザードによって、定義されたタスクが実行されます。
- 7 ウィザードを終了します（[OK]ボタン）。

不明なインストールの関連付け

このタスクでは、棚卸モデルの定義モデルへの関連付けを行っていない場合、それを実行します。

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェアライセンスとインストールの作成/変更] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ライセンスとソフトウェアのインストール] ページで、[不明なインストールの関連付け] ボタンをクリックします。
- 5 これにより、不明なインストールと既知のインストール済みソフトウェアとの関連付け (sysSamNormalizeModels) ウィザードが開始します。
ニーズに合わせてウィザードに入力します。
- 6 すべてのパラメータを確定します ([終了])。

ウィザードによって、[棚卸されたモデル] テーブル内のレコードが [モデル] テーブル内のレコードに関連付けられます。

これにより、モデルの正常化: 'amInventModel' が解決されました (sysInvExtModelEnd) ワークフローチャートが自動的にトリガされます。

このワークフローチャートは、外部モデルの関連付けを伝達 (SYS_RES_MOD_ACT01) アクションをトリガします。

このアクションは、次のことを実行します。

- a 解決された [棚卸しされたモデル] テーブルのレコードにリンクされたすべてのポートフォリオ品目を検索する。
 - b 見つかったすべてのポートフォリオ品目を [棚卸しされたモデル] テーブルのレコードに関連付けられている [モデル] テーブルのレコードにリンクする。
- 7 ウィザードを終了します ([OK] ボタン)。

OEMインストールとしてインストールをフラグする

このアクションの目的は、特定ライセンスの取得を必要とせず使用できるインストールをフラグすることです。

ライセンスが購入したハードウェアベンダにソフトウェアプロバイダから直接付与されているので、このようなインストールを「OEM」インストールと呼びます。

これは、例えばコンピュータを購入する場合です。コンピュータには、たいてい特定ライセンスを個別に取得することなく法的に使用できるインストール済みソフトウェアが添付されています。

フラグするとは、OEMインストールに対して [インストールタイプ] (seType) フィールドを「OEMインストール」に設定することです。

これにより、OEMインストールをカウンタによって行われる計算から除外できます。

警告:

OEMインストールをインストールカウントから除外するためには、カウンタの [カウント制限(インストール)] (SoftInstQuery) リンクに関連付けられたクエリを適宜変更する必要があります。

例えば、OEMインストールを除外しないクエリは次のようになります。

```
Model.ModelRef = 'PC1 - PowerPoint - インストール'
```

これを以下のように変更します。

```
(Model.ModelRef = 'PC1 - PowerPoint - インストール') AND (SoftInstall.seType <> 2)
```

OEMインストールをフラグするには

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 現在の契約がソフトウェアインストールのリンク先にするOEM契約であることを確認します。
- 3 [ソフトウェアの管理] ページで、 [ソフトウェアライセンスとインストールの作成/変更] オプションを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 [ライセンスとソフトウェアのインストール] ページで、 [OEMインストールをフラグ] ボタンをクリックします。
- 6 これにより、OEMインストールをフラグ (sysSamFlagOEMInst) ウィザードが開始します。
ニーズに合わせてウィザードに入力します。
- 7 すべてのパラメータを確定します ([終了] ボタン)。
ウィザードにより、選択したインストールに対して [インストールタイプ] (seType) フィールドが「OEMインストール」に設定されます。
- 8 ウィザードを終了します ([OK] ボタン)。

ソフトウェア管理

概要

ソフトウェア管理の目的

ソフトウェア管理は、以下に対する適合性のチェックを目的とします。

- ソフトウェアプロバイダ
- 内部方針

ソフトウェアカウンタの使用

ソフトウェア管理は、ソフトウェアカウンタを使って実現されます。

ソフトウェアカウンタは、ライセンス/資格とインストール/使用の間の調整に用いられます。

これらのカウンタは、選択したテーブルのレコード（従業員やコストセンタなど）によってグループにまとめることができます。

カウンタ、ライセンス/資格、インストール/使用の間のリンク

カウンタの定義はきわめて柔軟性があります。

以下の条件に合わせることができます。

- ライセンス/資格およびインストール/使用を記述する方法（このためにはさまざまな方法があります）
- データを分析する方法（従業員、サイトなど）

ヒント:

カウンタは、ソフトウェア権限およびインストール/使用以外の目的にも使用できます。

ここに記すカウンタ使用の指針は、可能なあらゆる場合を想定しているわけではありません。

カウンタにリンクされたメインテーブル

図 4.2. ソフトウェア - カウンタにリンクされたテーブル

図 4.3. ソフトウェア - 特定資格に関連するテーブル

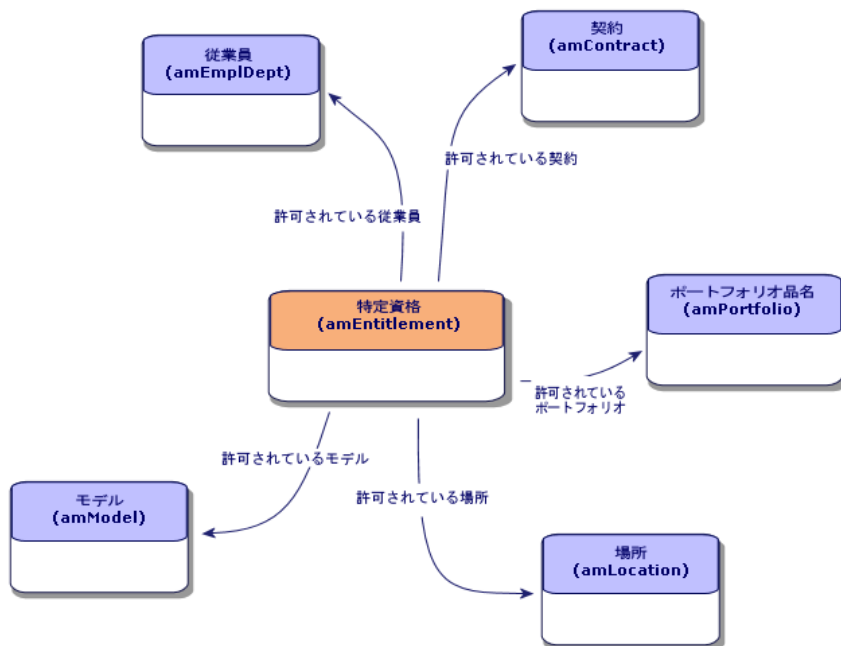
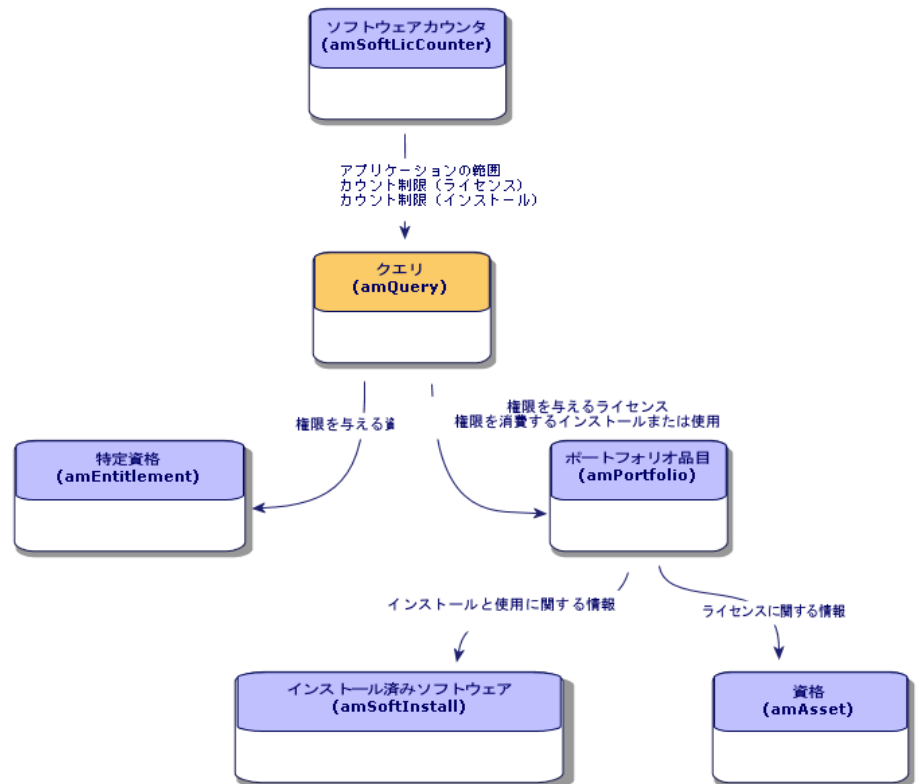


図 4.4. ソフトウェア - カウンタ、資格、ポートフォリオ品目の間のリンク



カウンタとカウントされるオブジェクトとの間には直接のリンクは存在しません。このリンクはクエリによって確立されます。

この方法によって、カウンタの柔軟性は大幅に高まります。ただし、このためには適切なクエリを設計する必要があります。

ソフトウェアカウンタの作成

方法1：単純カウンタの作成ウィザードを使用して単純カウンタを作成する

ここでは、特定のモデルにリンクされたライセンスとインストールを比較するカウンタを作成する方法について説明します。ライセンスとインストールは従業員によってグループ分けされます。

単純カウンタを作成するには

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェアライセンスの関連付け] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェアライセンスの関連付け] Manage contracts ページで、[ソフトウェア更新カウンタの作成] ボタンをクリックします。
- 5 これにより、単純カウンタの作成ウィザードが開始します。
ニーズに合わせてウィザードに入力します。
- 6 パラメータを確定します ([終了] ボタン)。
- 7 ウィザードを終了します ([OK] ボタン)。

重要項目:

ライセンスモデルとインストール済みモデルを選択するウィザード画面が表示されます。

ただし、ライセンスとインストール数の計算の参考として上記のモデルが使用されない場合は、モデル参照番号フィールド (ModelRef) の値が使用されます。

モデル参照番号フィールドの値が同じモデルはすべて使用されます。

したがって、このフィールドは選択したライセンスモデルおよびインストール済みモデルごとに必ず入力してください。

ウィザードで生成されたライセンス選択クエリの例：

```
Model.ModelRef = 'PC1 - PowerPoint - インストール'
```

ポートフォリオ品目テーブル(amPortfolio)をコンテキストとして使用する場合

方法：カウンタの作成 (sysSamLauncher) ウィザードを使用して複雑なカウンタを作成する

ここでは、ライセンスや資格に関するさまざまな種類のカウンタを作成する方法を説明します。モデルカウンタをリファレンスとして使用します。

必要条件

[カウンタの作成]ウィザードを使用するには、カウンタテンプレートが動作する必要があります。

ヒント:

ソフトウェアライセンスモジュール専用のデータキットの中にある専門分野データに、いくつかのカウンタテンプレートが用意されています。

(▶ [本番データベースでのソフトウェアの管理 \[参考文献\]](#).)

カウンタの作成ウィザードを使用するには

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理]メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェアライセンスの関連付け] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェアライセンスの関連付け] ページで、[複雑なカウンタの作成] をクリックします。
- 5 これにより、カウンタの作成ウィザードが開始します。
ニーズに合わせてウィザードに入力します。
カウンタのパラメータを確定します ([終了])。

方法3: カウンタを直接作成する

カウンタを直接作成するには、次の手順に従います。

- 1 カウンタを表示します ([ソフトウェア/カウンタ]メニュー)。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 詳細の上半分、特に以下のフィールドとリンクに記入します。
 - [グループ] (Context): 例えば、[結果] タブに従業員ごとのカウント行を表示したい場合は、[従業員] (amEmplDept) テーブルを選択します。
 - [アプリケーションの範囲] (Definition): [グループ] フィールドに示されたフィールドの一部のレコードだけを考慮したい場合は、クエリを作成して選択します。
- 4 [ライセンス] タブ、特に以下のフィールドとリンクに記入します。
 - [権限カウンタのコンテキスト] (LicContext): 例えば、ライセンス権限を考慮したい場合は、[資産] (amAsset) テーブルを選択します。
 - [カウント制限(ライセンス)] (LicQuery): 権限をカウントしたいレコードを識別するクエリを作成して選択します。

- [権限 -> グループリンク] (LicGroupBy) : [権限カウンタのコンテキスト] フィールドで指定されたテーブルから [グループ] フィールドで指定されたテーブルへのリンクを指定します。例えば、 [資産] (amAsset) テーブルから [従業員] (amEmplDept) テーブルへのリンクの場合、「PortfolioItem.User」のようになります。
 - タブの下部にも記入します。これらは権限カウントを得るために必要な計算を表しています。
- 5 [インストール] タブ、特に以下のフィールドとリンクに記入します。
- [インストール/使用カウンタのコンテキスト] (InstContext) : 例えば、インストール済ソフトウェアを考慮したい場合は、 [インストール済ソフトウェア] (amSoftInstall) テーブルを選択します。
 - [カウント制限(インストール)] (SoftInstQuery) : インストール/使用をカウントしたいレコードを識別するクエリを作成して選択します。
 - [インストール/使用 -> グループリンク] (InstGroupBy) : [インストール/使用カウンタのコンテキスト] フィールドに指定されたテーブルから、 [グループ] フィールドに指定されたテーブルへのリンクを指定します。例えば、 [インストール済ソフトウェア] (amSoftInstall) テーブルから [従業員] (amEmplDept) テーブルへのリンクは、PortfolioItem.Parent.Userのようになります。
 - [測定情報の使用] (bUseMetering) : このオプションを選択するのは、インストール/使用の前の使用日をカウンタ (インストール/使用の詳細画面の [前回の使用] フィールド (dtLastUse)) で考慮する場合です。

 **注意:**

未使用のインストール/使用が次に示す箇所のインストール/使用数から削除されます。

- カウンタの [全般] タブ、 [インストール/使用数] フィールド (dSoftInstallCount)
- カウンタの [結果] タブ、 [インストール/使用数] 列

また、次のフィールドで簡単に説明されます。

- カウンタの [全般] タブ、 [未使用のインストール] フィールド (dUnusedInstall)
 - カウンタの [結果] タブ、 [未使用インストールの数] フィールド
-
- [未使用の期間] (tsUnusedDuration) : インストール/使用が使用されていないと見なされてからの期間を指定します。
 - [未使用インストールの定義] (UnusedQuery) : 使用されなくなった可能性があると思なされるレコードのリストを制限したい場合は、クエリを作成および選択します。
 - タブの下部にも入力します。ここには、インストール/使用数を取得するために必要な計算を指定します。

- 6 [作成] をクリックします。

関連する参照フィールド

ライセンス / 資格およびインストール / 使用に関連する情報は、いくつかの場所にあります。

次の表は、カウントに使用できるフィールドの例です。

表 4.5. ソフトウェア - カウンタ: カウントに使用できるフィールド

テーブル	フィールド
ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	数量 (fQty)
インストール済ソフトウェア (amSoftInstall)	インストール数 (IUseCount)
資産 (amAsset)	権利 (ISoftLicUseRights)

次の表は、使用とインストールの識別に使用できるフィールドの例です。

表 4.6. ソフトウェア - カウンタ: 使用 / インストールの識別に使用できるフィールド

テーブル	フィールド
属性 (amNature)	オーバーフローテーブル (seOverflowTbl) 名前 (Name)
インストール済ソフトウェア (amSoftInstall)	認証 (seAuthorization) インストールタイプ (seType) ローカル/リモート (bLocal) [ソフトウェアスイートのコンポーネント] (bSuiteComponent)
[モデル] (amModel)	名前 (Name) OS (SoftOS) バージョン (VersionLevel) モデル参照番号 (ModelRef)

下の表は、ライセンスと資格の識別に使用できるフィールドの例です。

表 4.7. ソフトウェア - カウンタ: ライセンス / 資格の識別に使用できるフィールド

テーブル	フィールド
属性 (amNature)	ライセンス (bSoftLicense)

テーブル	フィールド
	名前 (Name)
資産 (amAsset)	設置日 (dInstall)
	ライセンスのタイプ (seSoftLicType)
	ユーザのタイプ (seSoftLicMulti)
モデル (amModel)	名前 (Name)
	OS (SoftOS)
	バージョン (VersionLevel)
	モデル参照番号 (ModelRef)

ソフトウェアカウンタの結果の更新

カウンタの結果を更新するには、次の手順に従います。

- 1 カウンタを表示します ([ソフトウェア / カウンタ] メニュー)。
- 2 更新するカウンタを選択します。
- 3 [計算] をクリックします。

注意:

[計算] ボタンが表示されていない場合、カウンタがテンプレートとして用いられているのが原因です ([テンプレートとして使用] フィールド (bType) が [はい] に設定されている)。

注意:

[計算] ボタンを押すと、アクションソフトウェアカウンタの再起動 (sysCoreSoftLicCountCalc) が開始します。これは、ユーザから見て連続しています。

- 4 [全般] タブを表示します。カウントはここに一覧表示されます。
- 5 [結果] タブを表示します。カウンタに対して定義した制限範囲 ([カウント制限] (定義) フィールド) に含まれる、グループテーブル ([グループ] (コンテキスト) フィールド) の各レコードに対し、1行が与えられます。

定期削除

[計算] をクリックするたびに、[結果] タブに表示される行のそれぞれに対して、[権利 / 使用カウント] テーブル (amRightsUsesCount) にレコードが作成されます。

[結果] タブに表示されるのは、[計算] ボタンをクリックして実行された最後の計算の結果だけです。

ただし、以前の結果は消去されてはいません。

これらの結果を使って、ライセンス/資格およびインストール/使用の進展をトラッキングし、レポートを作成したりすることができます。

[権利/使用カウント]テーブルが大きくなりすぎた場合は、このテーブルの不要なレコードを定期的に削除することをお勧めします。

ヒント:

同じ計算で生成されたレコード同士では、[結果識別子] (IResultId) フィールドと[カウント日] (dtCountRequest) フィールドの値が一致します。

ソフトウェアカウンタを再計算する

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理]メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェアライセンスの関連付け] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェアライセンスの関連付け] ページで、[不正を修復] をクリックします。
- 5 これにより、ソフトウェアの不正を処理 (sysSamIdentifyIllegalInstall) ウィザードが開始します。
再計算します ([カウンタの更新])。
これにより、権利数とインストール数を再計算 (sysSamReCalcCounters) ウィザードが開始します。
- 6 再計算を開始します ([OK])。
- 7 ウィザードを終了します ([キャンセル] ボタン)。

インストール/使用とライセンス/資格の間の不正を処理する

ここでは、ソフトウェアライセンスコンプライアンスを実現する方法について説明します。

- 不足したライセンス権限を発注する
 - 余分なインストール/使用をアンインストールする
- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理]メニュー)。
 - 2 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェアライセンスの関連付け] オプションを選択します。

- 3 [次へ]をクリックします。
- 4 [ソフトウェアライセンスの関連付け] ページで、[不正を修復]をクリックします。
- 5 これにより、ソフトウェアの不正を処理 (sysSamIdentifyIllegalInstall) ウィザードが開始します。
再計算します ([カウンタの更新])。
これにより、権利数とインストール数を再計算 (sysSamReCalcCounters) ウィザードが開始します。
再計算を開始します ([OK])。
調査するカウンタを選択します。
[次へ]をクリックしてから、ウィザードの指示に従います。
ライセンス権限が足りない場合、ウィザードによってライセンス依頼を作成するかソフトウェアをアンインストールすることができます。
- 6 パラメータを確定します ([終了] ボタン)。
- 7 ウィザードを終了します ([OK] ボタン)。

「旧モード」ソフトウェアカウンタ

AssetCenterのバージョン4.3.0では、カウンタの機能が全面的に改良されています。

ただし、AssetCenterの旧バージョンから移行したカウンタもそのまま使用できるように、「旧モード」のカウンタがサポートされています。

「旧モード」カウンタの使用

- 1 画面一覧を表示します ([管理 / 画面一覧] メニュー)。
- 2 リストのヘッダーで [画面] をクリックします。
- 3 [ソフトウェアカウンタ (従来の形式)] (sysOldamSoftLicCounter) を検索します。
- 4 この画面を開きます。

「旧モード」カウンタに関する情報

「旧モード」の詳細については、マニュアル『AssetCenter 4.2.0 - ポートフォリオ』の「ソフトウェア」の章の「ソフトウェアカウンタ」の節を参照してください。

「旧モード」カウンタの変換

4.4よりも前のバージョンのデータベースをマイグレーションした場合、カウンタはそのままインポートされます。

カウンタは従来と同様にそのまま使用できます。

カウンタをアップグレードしたい場合は、従来のカウントを参考にして新しいカウンタを作成することをお勧めします。

ライセンス数超過の場合に自動メッセージを送信する

ここでは、ソフトウェアライセンス権限が超過している場合に自動通知を送信する方法について説明します。

このタスクは、ライセンス数の不足 (BST_SAM01) ワークフローチャートによって自動的に実行されます。

このワークフローチャートは、ソフトウェアライセンスモジュールの専門分野データの一部です。

このワークフローチャートを次に説明します。

表 4.8. ライセンスコントロール - ライセンス数の不足ワークフローチャート

ワークフローをトリガするイベント	新しいカウンタの作成 または、次に示す [カウンタ] (amCounter) テーブルのいずれかのフィールドの変更 <ul style="list-style-type: none"> ■ ライセンス数 (ILicUseRights) ■ インストール数 (ISoftInstallCount) ■ 権限カウント (dLicUseRights) ■ インストール/使用数 (dSoftInstallCount)
ワークフローチャートの実行条件	(ISoftInstallCount > ILicUseRights) OR (dSoftInstallCount > dLicUseRights)
AssetCenter Serverはワークフローチャートをトリガして実行する必要がありますか？	いいえ

ワークフローチャートの概要説明

アクションライセンス数超過に関する管理者へのメール (BstSamLicenses_exceeded) で指定した人にメッセージが送信されます。

これはデフォルトで、 [名前] (Name) フィールドが「Admin」に設定されている [従業員と部署] (amEmpIDept) テーブルのレコードに該当する人です。

[電子メール] (EMail) フィールドで指定されたアドレスにメッセージが送信されます。

別の受信者を選択するには、警告メッセージの本体または件名を変更します。

- 1 アクションを表示します ([ツール / アクション / 編集] メニュー)。
- 2 アクションライセンス数超過に関する管理者へのメール (BstSamLicenses_exceeded) を表示します。
- 3 次のフィールドおよびリンクを変更します。

フィールドまたはリンク

[メッセージシステム] タブ

受信者 (MsgTo)

件名 (Subject)

メッセージ (memMsgText)

通知メッセージの受信アドレスを定義するには、

- 1 従業員を表示します ([ポートフォリオ / 従業員と部署] メニュー)。
- 2 アクションライセンス数超過に関する管理者へのメール (BstSamLicenses_exceeded) の受信者を表示します。
- 3 [電子メール] (EMail) フィールドを変更します。

ソフトウェアカウンタを定期的に検証する

ここでは、すべてのカウンタを定期的に自動で再計算する方法を説明します。

このタスクは、ライセンス数の定期検証 (BST_SAM02) ワークフローで実行されます。

ライセンス数の定期検証ワークフローチャートの主な機能

このワークフローチャートは、ソフトウェアライセンスモジュールの専門分野データの一部です。

表 4.9. ライセンスコントロール-ライセンス数の定期検証ワークフローチャート

ワークフローチャートをトリガする	ワークフローチャートの開始イベントのカレンダーで定義された頻度に従う
AssetCenter Serverはワークフローチャートをトリガして実行する必要がありますか？	はい
ワークフローチャートの概要説明	ワークフローチャートによって、アクション全インストール済ソフトウェア数の計算 (BstSamComputeAllLicAndInstall) が実行され、すべてのカウンタが再計算されます。

AssetCenter Serverを設定する

AssetCenter Serverは、ライセンス数の定期検証ワークフローチャートの開始イベントのカレンダーに指定された情報を使用してライセンス数の定期検証ワークフローをトリガする必要があるかどうかをテストします。

AssetCenter Serverが必ずこのタスクを実行するようにするには、

- 1 AssetCenter Serverを起動します。
- 2 AssetCenterデータベースに接続します ([ファイル / データベースに接続] メニュー)。
- 3 モジュールを表示します ([ツール / モジュールの設定])。
- 4 実行グループ 'SYS_SAM' にワークフロー規則を適用 (WkGroupSYS_SAM) モジュールを選択します。
- 5 モジュールのトリガ実行カレンダーを定義します ([検証スケジュール] 枠)。

AssetCenter Serverをバックグラウンドタスクとして実行する

AssetCenter Serverは、実行グループ 'SYS_SAM' にワークフロー規則を適用モジュールを定期的に行うためにバックグラウンドタスクとして実行する必要があります。

カウンタ再計算の結果

カウンタを再計算すると、特に次のフィールドが更新されます。

フィールド

ライセンス数 (ILicUseRights)

インストール数 (ISoftInstallCount)

フィールド

権限カウント (dLicUseRights)

インストール/使用数 (dSoftInstallCount)

これらのフィールドのいずれかが変更されると、ライセンス数の不足 (BST_SAM01) がトリガされます (▶ライセンス数超過の場合に自動メッセージを送信する [修献27])。

ソフトウェアレポート

ソフトウェアのコントロールパネル

コントロールパネルを表示する

方法1：ソフトウェアの管理ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

- a ソフトウェアの管理ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- b [ソフトウェアの管理] ページで、[レポートとグラフの作成] オプションを選択します。
- c [次へ] をクリックします。
- d [レポートとグラフの作成] ページで、[標準コントロールパネル] ボタンをクリックします。

方法2：メニューを使用する

[ソフトウェア/コントロールパネル] を選択する

コントロールパネルをカスタマイズする

コントロールパネルを構成するレポートの一覧を変更するには、

- 1 アクションを表示します ([ツール/アクション/編集] メニュー)。
- 2 アクションソフトウェアのコントロールパネル (BstSamDashBoard) を選択します。
- 3 [インジケータ] タブを選択します。
- 4 コントロールパネルで統計とレポートの一覧を変更します。
- 5 変更を保存します ([変更])。

ソフトウェアに関するレポートを表示する

方法1：ソフトウェアの管理ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

- 1 ソフトウェアの管理ウィザードを起動します（ [ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー）。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、 [レポートとグラフの作成] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [レポートとグラフの作成] ページで、選択したレポートに対応するボタンをクリックします。

方法2：メニューを使用する

- 1 レポートを表示します（ [ツール/レポート機能/レポート] メニュー）。
- 2 [ドメイン] 列がリストに表示されない場合：
 - a リスト内で右クリックします。
 - b ショートカットメニューから [ユーティリティ/リストの設定] を選択します。
 - c [ドメイン] (Domain) リンクをリスト内の列に追加します。
 - d [OK] をクリックします。
- 3 [ドメイン] 列でリストを並び替えます。
- 4 ソフトウェアライセンスモジュールに属するレポートは、それらのパス/ポートフォリオ管理/IT/ライセンス/および/ポートフォリオ管理/IT/レポート/によって識別可能です。

実用例

一般情報と必要条件

一般情報

実用例は、AssetCenterを使ってソフトウェアを管理する方法を示します。
実用例はそれぞれ、ソフトウェア管理の特定の側面を扱っています。

実用例を正しく動作させるには、各ステップを最後まで実行し、示された手順に従う必要があります。基本的なフィールドとリンクだけが示されています。他のフィールドやリンクを自分で調べてみてもかまいません。

必要条件

実用例を実行するには、以下のことを実行しておく必要があります。

- 1 Adminログイン（対応パスワードは空）を使用してAssetCenterのデモデータベースに接続する。
- 2 [ファイル/モジュールの起動]メニューを使って、少なくとも[ポートフォリオ]、[ソフトウェアライセンス]、[調達]、[ファイナンス]、[契約]、[管理]の各モジュールを起動しておく。

実用例1a: ライセンスとインストールに対する単純なカウンタの作成

はじめに

この単純な実用例は、カウンタの基本的な使用法を説明するためのものです。

実用例のシナリオ

- 目的は、PowerPointアプリケーションがどのように導入されているかを調べることです。
- PowerPointのユーザ権限は、ポートフォリオ品目テーブルの「PC1 - PowerPoint」というライセンスで記録されます。
ライセンスはユーザと直接にリンクしています。
- PowerPointのインストールは、ポートフォリオ品目テーブルの「PC1 - PowerPoint - インストール」というインストールで記録されます。
インストールはユーザと直接にリンクしています。
1つのインストールは1つのライセンスを消費します。

実用例の主要段階

- 1 部署とユーザの作成
- 2 ライセンス、インストール、コンピュータ属性の作成
- 3 ライセンス、インストール、コンピュータモデルの作成
- 4 コンピュータ、ライセンス、インストールのポートフォリオ品目の作成
- 5 カウンタの作成

実行する手順

部署を作成します。

- 1 部署と従業員を表示します（[ポートフォリオ/部署と従業員]メニュー）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します（[+部署]）。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - マーケティング

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - 研修

従業員を作成します

- 1 部署と従業員を表示します（[ポートフォリオ/部署と従業員]メニュー）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します（[新規作成]）。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - Doe
部署 (Parent)	PC1 - マーケティング

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - Smith
部署 (Parent)	PC1 - 研修

属性を作成します。

- 1 属性を表示します（[ポートフォリオ/属性]メニュー）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - コンピュータ
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	コンピュータ (amComputer)
管理条件 (seMgtConstraint)	固有資産タグ

フィールドまたはリンク	値
ソフトウェアをインストール (bHasSoftInstall)	はい

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - ライセンス
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	(テーブルなし)
管理条件 (seMgtConstraint)	固有資産タグ
ライセンス (bSoftLicense)	はい

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - インストール
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	インストール済ソフトウェア (amSoftInstall)
管理条件 (seMgtConstraint)	個別管理しない

モデルを作成します

- 1 モデルを表示します ([ポートフォリオ / モデル] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - コンピュータ
属性 (Nature)	PC1 - コンピュータ

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - PowerPoint - ライセンス
属性 (Nature)	PC1 - ライセンス
モデル参照番号 (ModelRef)	PC1 - PowerPoint - ライセンス

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - PowerPoint - インストール
属性 (Nature)	PC1 - インストール

フィールドまたはリンク	値
モデル参照番号(ModelRef)	PC1 - PowerPoint - インストール

ポートフォリオ品目を作成します。

- 1 ポートフォリオ品目を表示します ([ポートフォリオ / ポートフォリオ品目] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC1 - コンピュータ
ユーザ (User)	PC1 - Doe

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC1 - PowerPoint - ライセンス
ユーザ (User)	PC1 - Doe

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC1 - PowerPoint - インストール
数量 (fQty)	1
ユーザ (User)	PC1 - Doe

カウンタを作成します。

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア / ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、 [ソフトウェアライセンスの関連付け] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [ソフトウェアライセンスの関連付け] ページで、 [ソフトウェア更新カウンタの作成] をクリックします。
- 5 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

フィールドまたはリンク	レコード
[カウンタの要素を定義] ページ	
ライセンスのモデル	PC1 - PowerPoint - ライセンス
インストールのモデル	PC1 - PowerPoint - インストール
カウンタを作成し権限と使用を計算	オプションを選択します

フィールドまたはリンク レコード

Show counter results (カウンタ結果を表示) はい

- 6 [終了]をクリックします。
- 7 すべてのウィンドウを閉じます。

ウィザードが作成したカウンタを確認します

- 1 カウンタを表示します ([ソフトウェア/カウンタ]メニュー)。
- 2 カウンタ [PC1 - PowerPointのライセンスとインストールの単純なカウント]を選択します。
- 3 画面上部を確認します。
[グループ] (Context): このフィールドは、[従業員と部署] (amEmplDept) (デフォルト値) に設定されます。 [実用例1b: ライセンスポイント](#)を考慮して特定の部署に範囲を制限 [\[参考文献37\]](#)で、このフィールドの使用目的と、[アプリケーションの範囲] (Definition) フィールドとの関連付けについて説明しています。
- 4 [全般]タブを表示します。カウントはここに一覧表示されます。
- 5 [結果]タブを表示します。PC1 - Doeに対応する1行が見られます。
このユーザは適合しています。インストール済ソフトウェアには1個の対応するライセンスがあります。
- 6 [ライセンス]タブを表示します。
ウィザードによって [PC1ライセンス - PowerPoint - ライセンス] クエリが作成されています。これは、モデルが [PC1 - PowerPoint - ライセンス] であるポートフォリオ品目を識別するために用いられます。
[権限計算モード] (seLicCountMode) は、[単純カウント] に設定されません。カウンタは権限ポイントを考慮しません。
- 7 [インストール]タブを表示します。
ウィザードによって [インストールPC1 - PowerPoint - ライセンス] クエリが作成されます。これは、モデルが [PC1 - PowerPoint - インストール] であるポートフォリオ品目を識別するために用いられます。
[インストール/使用計算モード] (seInstallCountMode) は、[単純カウント] に設定されます。カウンタは権限ポイントの消費を考慮しません。

実用例1b: ライセンスポイントを考慮して特定の部署に範囲を制限

はじめに

この単純な実用例は、以下の場合のカウンタの原則を説明するためのものです。

- 1つのソフトウェアインストールカウントは複数の使用/インストールポイントに当たります。
- [グループ] (Context) リンクで選択されたテーブルのレコードをフィルタする範囲を定義します。

この実用例のシナリオは、以下の点を除いて実用例1aと同一です。

- 1つのPowerPointインストールは2つのライセンスポイントを消費します。
- インストールはユーザのコンピュータにリンクしています。
- カウンタは、部署「PC1 - マーケティング」の各ユーザについて、PowerPointに対して取得されたライセンス数を宣言された確認済インストール数と比較します。

実用例の主要段階

- 1 最初の手順は実用例1aと一致します。
- 2 リンクとインストールポイント数の変更。
- 3 カウンタの作成

必要条件

この実用例は、必ず実用例1aを最後まで実行してから実行する必要があります。

実行する手順

リンクとライセンスポイント数を変更します

- 1 ポートフォリオ品目を表示します ([ポートフォリオ/ポートフォリオ品目] メニュー)。
- 2 [PC1 - PowerPoint - インストール] を選択します。
- 3 下の表に示すフィールドとリンクに記入して、レコードを変更します。

[全般] タブ

親レコード (Parent)	1 PC1 - コンピュータ
----------------	----------------

[Install. log.] タブ

[全般] タブ

インストール (IUseCount) (インストー
ル済ソフトウェアリンク)

ライセンス数の変更

- 1 ポートフォリオ品目を表示します ([ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]
メニュー)。
- 2 [PC1 - PowerPoint - ライセンス] を選択します。
- 3 以下の表に示すフィールドとリンクを入力して、レコードを変更します。

[ライセンス] タブ

権利数 (ISoftLicUseRights) 1

カウンタに必要なクエリを作成します。

- 1 クエリを表示します ([ツール/クエリ] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
	マーケティング部署の従業員だけを含めるために用いられます。
名前 (Name)	PC1 - マーケティング部署の従業員
テーブル (TableName)	従業員 (amEmplDept)
クエリ (memQueryText)	Parent.FullName LIKE '/PC1 - マーケティング'

フィールドまたはリンク	値
	ライセンスの識別に使用します。
名前 (Name)	PC1 - PowerPoint - ライセンス
テーブル (TableName)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
クエリ (memQueryText)	Model.Name = 'PC1 - PowerPoint - ライセンス'

フィールドまたはリンク	値
	インストールの識別に使用します。
名前 (Name)	PC1 - PowerPoint - インストール
テーブル (TableName)	インストール済ソフトウェア (amSoftInstall)

フィールドまたはリンク	値
クエリ (memQueryText)	インストールの識別に使用します。 PortfolioItem.Model.Name = 'PC1 - PowerPoint - インストール'

カウンタの作成

- 1 カウンタを表示します ([ソフトウェア / カウンタ] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	レコード
名前 (Name)	PC1b- マーケティング部署のPowerPointイン ストール
モデルとして使用 (bType)	いいえ
グループ (Context)	部署と従業員 (amEmpDept)
アプリケーションの範囲 (Definition)	PC1 - マーケティング部署の従業員
[ライセンス]	
権限カウンタのコンテキスト (LicContext)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
カウント制限(ライセンス) (LicQuery)	PC1 - PowerPoint - ライセンス
権限 -> グループリンク (LicGroupBy)	ユーザ
権限計算モード (selLicCountMode)	ポイントカウント
[インストール] タブ	
インストール/使用カウンタのコンテキスト (InstContext)	インストール済ソフトウェア (amSoftInstall)
カウント制限(インストール) (SoftInstQuery)	PC1 - PowerPoint - インストール
インストール/使用 -> グループリンク (InstGroupBy)	PortfolioItem.Parent.User
測定情報の使用 (bUseMetering)	いいえ
インストール/使用計算モード (selInstallCountMode)	ポイントカウント



注意:

[インストール / 使用の計算式] (InstCountSQL) フィールドには新しい値が与えられます。

$SUM((PortfolioItem.fQty * IUseCount))$

[権限の計算式] (LicCountSQL) フィールドには新しい値が与えられます。

$SUM((fQty * Asset.ISoftLicUseRights))$

カウンタの結果の更新

- 1 カウンタを表示します（ [ソフトウェア / カウンタ] メニュー ）。
- 2 カウンタ [PC1b - マーケティング部署のPowerPointインストール] を選択します。
- 3 [計算] ボタンをクリックします。
- 4 [全般] タブを表示します。カウンタはここに一覧表示されます。

注意:

[使用/インストールカウント] (dSoftInstallCount) フィールドの値は、実用例1aの1でなく2になります。

- 5 [結果] タブを表示します。PC1 - Doeに対応する1行が見られます。これは範囲内にいるただ1人のユーザです。
ソフトウェア会社と適合していません。ユーザは1つの権利しか持たないのに、2つを使用しています。

実用例1c: 権利の内部割り当て

はじめに

この単純な実用例は、特定資格を使用するカウンタの原則を説明するためのものです。

実用例のシナリオ

- 目的は、会社の内部資格方針に照らしてPowerPointがどのように導入されているかを調べることです。
- PowerPointに対する内部ユーザ権限が [特定資格] テーブルに指定されています。
- PowerPointのインストールは、ポートフォリオ品目テーブルにPC1 - PowerPoint - インストールというインストールで記録されます。
インストールはユーザのコンピュータにリンクしています。
1つのインストールは1つのライセンスを消費します。
- カウンタは、特定資格 [PC1c - PowerPointの特定ユーザ権限] に記載された各ユーザについて、PowerPointに対して宣言されたユーザ権限を記録済のインストールと比較します。

実用例の主要段階

- 1 最初の手順は実用例1aおよび1bと一致します。
- 2 特定資格を作成します。
- 3 カウンタの作成

必要条件

この実用例は、必ず実用例1aおよび1bを最後まで実行してから実行する必要があります。

実行する手順

特定資格の作成

- 1 特定資格を表示します（ [ポートフォリオ / 特定資格] メニュー ）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力することによって、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1c - PowerPointに対する特定ユーザ権限
[従業員] タブ	PC1 - Doe
	PC1 - Smith

カウンタに必要なクエリを作成します。

- 1 クエリを表示します（ [ツール / クエリ] メニュー ）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
	特定資格に関連する従業員を選択するために用いられます。
名前 (Name)	PC1c - PowerPointに対する特定ユーザ権限
テーブル (TableName)	従業員と部署 (amEmpDept)
クエリ (memQueryText)	IEmplDeptId IN (SELECT r.IEmplDeptId FROM amRelEmplEntitl r, amEntitlement e WHERE (r.IEntitlId = e.IEntitlId) AND (e.Name = 'PC1c - PowerPointに対する特定ユーザ権限'))

クエリの説明

- [テーブル] (TableName) フィールドは、 [部署と従業員] (amEmpDept) に設定されます。クエリは [部署と従業員] (amEmpDept) テーブルからレコードを返します。
- [IEmplDeptId IN (...)] は、 [IEmplDeptId] フィールドが [IN (...)] 条件で返されるテーブルに含まれるレコードを選択するために用いられます。

- SELECT r.IEmplDeptId FROM amRelEmplEntitl r, amEntitlement e WHERE (...): この句は、関係テーブル [従業員の資格] (amRelEmplEntitl) のレコードのうち、WHERE (...)句に一致するものを選択するために用いられます。
- r.IEntitlId = e.IEntitlId: WHERE (...)句の最初の条件です。この条件は、 [従業員の資格] (amRelEmplEntitl) のレコードのうち同じ特定資格 ([IEntitlId] フィールドで識別される資格) に属するものをグループ分けするために用いられます。
- e.Name = 'PC1c - PowerPointの特定ユーザ権限': WHERE (...)句の2番目の条件です。この条件は、 [特定資格] (amEntitlement) テーブルのレコードのうち、 [名前] フィールドが [PC1c - PowerPointの特定ユーザ権限] に設定されているものを選択するために用いられます。
- すなわち、このクエリは、 [従業員] テーブルのレコードのうち、特定資格 [PC1c - PowerPointの特定ユーザ権限] にリンクされているものを返します。

ニーズに合わせたクエリの変更

特定資格を使用するカウンタは、すべてこのタイプのクエリを使用します。実用例で定義されているクエリを、他のカウンタのための基礎として使用できます。

変更の例:

- [権限カウンタのコンテキスト] (LicContext) フィールドが [部署と従業員] (amEmplDept) に設定されていない場合: [IEmplDeptId] が現れるところをすべて、 [権限カウンタのコンテキスト] フィールドで選択されたテーブルの識別子に置き換えます。
さらに、 [amRelEmplEntitl] を、適切な関係テーブルのSQL名 ([amRelEntitlLoc]、 [amRelEntitlPortf]、 [amRelEntitlContract] または [amRelModelEntitl]) で置き換えます。
- [PC1c - PowerPointの特定ユーザ権限] を、権限をカバーしている資格の名前に置き換えます。

カウンタの作成

- 1 カウンタを表示します ([ソフトウェア / カウンタ] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクを入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	レコード
名前 (Name)	PC1c - PowerPointの特定インストール
モデルとして使用 (bType)	いいえ
グループ (Context)	従業員と部署 (amEmplDept)
[ライセンス] タブ	

フィールドまたはリンク	レコード
権限カウンタのコンテキスト (LicContext)	従業員と部署 (amEmplDept)
カウント制限(ライセンス) (LicQuery)	PC1c - PowerPointに対する特定ユーザ権限
権限 -> グループリンク (LicGroupBy)	Entitlement.EntitledEmpl
権限計算モード (seLicCountMode)	単純カウント
[インストール] タブ	
インストール/使用カウンタのコンテキスト (InstContext)	インストール済ソフトウェア (amSoftInstall)
カウント制限(インストール) (SoftInstQuery)	PC1 - PowerPoint - インストール
インストール/使用 -> グループリンク (InstGroupBy)	PortfolioItem.Parent.User
測定情報の使用	いいえ
インストール/使用計算モード (seInstallCountMode)	単純カウント

カウンタの結果の更新

- 1 カウンタを表示します ([ソフトウェア / カウンタ] メニュー)。
- 2 カウンタ [PC1c - PowerPointの特定インストール] を選択します。
- 3 [計算] ボタンをクリックします。
- 4 [全般] タブを表示します。カウンタはここに一覧表示されます。
- 5 [結果] タブを表示します。PC1 - Doeに1行、PC1 - Smithに1行が与えられています。
どちらのユーザも、内部方針に適合しています。
[PC1 - Doe] だけが対応する権利を使い尽くしています。

実用例1d: 実際のソフトウェア使用の考慮

はじめに

この単純な実用例では、インストール / 使用の実際の使用を考慮する場合のカウンタの機能を説明します。

シナリオは、カウンタがソフトウェアの実際の使用を考慮することを除いて実用例1bと同じです。

実用例の主要段階

- 1 最初の手順は実用例1aおよび1bと一致します。
- 2 インストールの使用に関する情報を追加する
- 3 カウンタの作成

必要条件

この実用例は、必ず実用例1aおよび1bを最後まで実行してから実行する必要があります。

実行する手順

インストールの使用情報を入力する

- 1 ソフトウェアインストールを表示します（[ポートフォリオ/インストール済ソフトウェア]メニュー）。
- 2 [PC1 - PowerPoint - インストール]を選択します。
- 3 以下の表に示すフィールドとリンクを入力して、レコードを変更します。

フィールド	値
[使用]タブ	
前回の使用 (dtLastUse)	現在の日時の2ヶ月前

カウンタを作成する

- 1 カウンタを表示します（[ソフトウェア/カウンタ]メニュー）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクを入力することによって、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	レコード
名前 (Name)	PC1d-使用を考慮するマーケティング部署のPowerPointインストール
モデルとして使用 (bType)	いいえ
グループ (Context)	従業員と部署 (amEmplDept)
アプリケーションの範囲 (Definition)	PC1 - マーケティング部署の従業員
[ライセンス]タブ	
権限カウンタのコンテキスト (LicContext)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
カウント制限(ライセンス) (LicQuery)	PC1 - PowerPoint - ライセンス
権限 -> グループリンク (LicGroupBy)	ユーザ
権限計算モード (seLicCountMode)	ポイントカウント
[インストール]タブ	
インストール/使用カウンタのコンテキスト (InstContext)	インストール済ソフトウェア (amSoftInstall)
カウント制限(インストール) (SoftInstQuery)	PC1 - PowerPoint - インストール
インストール/使用 -> グループリンク (InstGroupBy)	PortfolioItem.Parent.User
測定情報の使用 (bUseMetering)	はい

フィールドまたはリンク	レコード
未使用の期間 (tsUnusedDuration)	30d
インストール/使用計算モード (selInstallCountMode)	ポイントカウント

カウンタの結果の更新

- 1 カウンタを表示します ([ソフトウェア / カウンタ] メニュー)。
- 2 カウンタPC1d- 使用を考慮するマーケティング部署のPowerPointインストールを選択します。
- 3 [計算] ボタンをクリックします。
- 4 [全般] タブを表示します。カウントはここに一覧表示されます。

注意:

[インストール/使用数] フィールド (dSoftInstallCount) が実用例1bのように2に設定されますが、[未使用インストールの数] フィールド (dUnusedInstall) が2に設定されます。

- 5 [結果] タブの表示：実用例1bの場合は、「PC1 - Doe」の行があります。インストールポイントを確認して、これらの結果からライセンス権限を超過していたことがわかりました。しかし、「PC1 -Doe」氏はインストールを活用していません。この理由から、ソフトウェアが実際に使用されているかどうかをチェックして、使用されていない場合はアンインストールするつもりです。

実用例2: Microsoft Select契約

はじめに

この詳細な実用例は、Microsoft Select契約を管理する方法を示します。

Microsoft Select 6.0契約について

- これらは中規模から大規模の会社を対象としています。
- 3年間のターゲット購入数量に基づいています。
このターゲット数量は、以下の製品グループで会社が購入しようとしているライセンスの合計数を対象とします。
 - アプリケーション製品
 - システム製品
 - サーバ製品

- これらのグループのそれぞれにおいて、最善の料率が得られるように会社は購入を調整することができます。
ソフトウェアの価値はそれぞれ異なるため、Selectプログラムではライセンスをカウントする代わりに、ライセンスポイントという方式を採用しています。また、ライセンスポイントが使用可能な場合、顧客は自動的にソフトウェアをコピーしてこれらのコピーを使用することができます。
- 価格レベルは4つあり、3つの製品グループのそれぞれにおける3年間のターゲット購入数量に基づいて決まります。
- 以下の購入方法を選択できます。
 - ライセンスのみ (L)。
ライセンス (L) は、ソフトウェア製品のフルバージョンのインストールを可能にします。
 - ソフトウェアアシュアランス (SA)
SAライセンスは、Select契約の期間中に、すべてのアップデート (メジャー、マイナー、サービスパック、パッチなど) の権利を保障します。
 - ライセンス+ソフトウェアアシュアランス (L+SA)

実用例でのMicrosoft Select契約に関する基本的情報

- 開始日: 2003年1月1日
- 終了日: 2006年12月31日
- 主契約は、会社とMicrosoftとの間のマスター契約です。
マスターリースは、アプリケーションプールへの新ライセンスの取得を対象とする一括発注契約にリンクしています。この契約は特に、3年間のターゲットポイント数 (1500ポイント) を定義しています。この契約はまた、新ライセンス (1回だけ取得される) の取得に対するリファレンスとしても用いられます。
一括発注契約は、アプリケーションプールのライセンスのアシュアランスを対象としたメンテナンス契約にリンクしています。
- 会社は契約の範囲内で、ExcelとProjectの2つのアプリケーションを導入します。
- この契約が発効するまでは、会社は100個のExcelライセンスと10個のProjectライセンスを所有していました。
100個のExcelライセンスは、Selectソフトウェアアシュアランスの対象となります。
10個のProjectライセンスのアップデートは、Select契約の対象ではありません。
- 会社はSelectソフトウェアアシュアランスを含む300個のExcelライセンスを新たに購入します。
また、ソフトウェアアシュアランスを含まない120個のProjectライセンスを新たに購入します。

実用例で管理する側面

- 取得ポイント数を確認し、契約ターゲットと比較する（契約の経済的側面）。特殊フィールドを使って、ターゲットポイント数と実際に取得されたポイント数が比較されます。
- インストール数がライセンス数に適合することを確認する。カウンタを使って、インストール数と購入ライセンス数が比較されます。

実用例の主要段階

- 1 属性とモデルの作成。
- 2 契約の作成。
- 3 ポートフォリオ品目の作成。
- 4 カタログリファレンスの作成。
- 5 依頼と発注の作成。
- 6 特殊フィールドの作成。
- 7 カウンタの作成

実行する手順

属性を作成します

- 1 属性を表示します（ [ポートフォリオ / 属性] メニュー ）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - コンピュータ
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	コンピュータ (amComputer)
管理条件 (seMgtConstraint)	固有資産タグ
ソフトウェアをインストール (bHasSoftInstall)	はい

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - ライセンス
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
管理条件 (seMgtConstraint)	資産タグ

フィールドまたはリンク	値
ライセンス (bSoftLicense)	はい

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - インストール
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	インストール済ソフトウェア (amSoftInstall)
管理条件 (seMgtConstraint)	個別管理しない

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - 一括発注契約
作成 (seBasis)	契約
契約タイプ (seCntrType)	一括発注

メーカーを作成します

- 1 メーカーを表示します ([ポートフォリオ/メーカー])。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	Microsoft

任意管理項目の単位を作成します

- 1 単位を表示します ([管理/単位])。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	ポイント
次元 (Dimension)	カウント
記号 (Symbol)	pt.
変換係数 (fConv)	0

モデルと契約の任意管理項目を作成します

- 1 任意管理項目を表示します ([管理/任意管理項目]メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
	ライセンスモデルと関連付けるこの任意管理項目は、1つのライセンスを購入したときに取得されるポイント数を定義します。
ラベル (TextLabel)	PC2SelectPointsL
[入力] タブ	
入力タイプ (seDataType)	数値
単位 (Unit)	ポイント

フィールドまたはリンク	値
	ライセンスモデルと関連付けるこの任意管理項目は、契約の3年目 (ソフトウェアアシュアランスの残り期間が1年未満) に1つのライセンスを購入したときに取得されるソフトウェアアシュアランスポイント数を定義します。
ラベル (TextLabel)	PC2SelectPointsSA1
入力タイプ (seDataType)	数値
単位 (Unit)	ポイント

フィールドまたはリンク	値
	ライセンスモデルと関連付けるこの任意管理項目は、契約の2年目 (ソフトウェアアシュアランスの残り期間が1~2年) に1つのライセンスを購入したときに取得されるソフトウェアアシュアランスポイント数を定義します。
ラベル (TextLabel)	PC2SelectPointsSA2
[入力] タブ	
入力タイプ (seDataType)	数値
単位 (Unit)	ポイント

フィールドまたはリンク	値
	ライセンスモデルと関連付けるこの任意管理項目は、契約の1年目 (ソフトウェアアシュアランスの残り期間が2~3年) に1つのライセンスを購入したときに取得されるソフトウェアアシュアランスポイント数を定義します。
ラベル (TextLabel)	PC2SelectPointsSA3
[入力] タブ	
入力タイプ (seDataType)	数値

フィールドまたはリンク	値
	ライセンスモデルと関連付けるこの任意管理項目は、契約の1年目（ソフトウェアアシュアランスの残り期間が2～3年）に1つのライセンスを購入したときに取得されるソフトウェアアシュアランスポイント数を定義します。
単位 (Unit)	ポイント

フィールドまたはリンク	値
	特定のプールに対する一括発注契約と関連付けるこの任意管理項目は、ポイントターゲットを定義します。
ラベル (TextLabel)	PC2SelectPointsTarget
[入力] タブ	
入力タイプ (seDataType)	数値
単位 (Unit)	ポイント

任意管理項目にパラメータを追加します

- 1 任意管理項目を表示します（[管理/任意管理項目]メニュー）。
- 2 任意管理項目 [PC2PointsSelectL] を選択します。
- 3 [パラメータ] タブを表示します。
- 4 パラメータを追加します（[+] ボタン）。
- 5 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

フィールドまたはリンク	値
テーブル (TableName)	amModel

- 6 [PC2SelectPointsSA1]、[PC2SelectPointsSA2]、および [PC2SelectPointsSA3] の各任意管理項目に対して、同じ手順を実行します。
- 7 任意管理項目 [CP2SelectPointsTarget] を選択します。
- 8 [パラメータ] タブを表示します。
- 9 パラメータを追加します（[+] ボタン）。
- 10 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

フィールドまたはリンク	値
テーブル (TableName)	amContract

モデルを作成します

- 1 モデルを表示します ([ポートフォリオ/モデル]メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - コンピュータ
属性 (Nature)	PC2 - コンピュータ

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - Excel - ライセンス
メーカー (Brand)	Microsoft
属性 (Nature)	PC2 - ライセンス
[任意管理項目] タブ	
PC2SelectPointsL	1
PC2SelectPointsSA1	1
PC2SelectPointsSA2	1
PC2SelectPointsSA3	2

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - Project - ライセンス
メーカー (Brand)	Microsoft
属性 (Nature)	PC2 - ライセンス
[任意管理項目] タブ	
PC2SelectPointsL	4
PC2SelectPointsSA1	2
PC2SelectPointsSA2	4
PC2SelectPointsSA3	6

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - Microsoft Select - プール
メーカー (Brand)	Microsoft
属性 (Nature)	PC2 - 一括発注契約

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC2 - Excel - インストール

フィールドまたはリンク	値
メーカー (Brand)	Microsoft
属性 (Nature)	PC2 - インストール

契約を作成します

- 1 契約を表示します ([契約 / 契約] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
	主契約。
リファレンス (Ref)	PC2MSML
目的 (Purpose)	PC2 - Microsoft Select - マスターリース
タイプ (seType)	マスターリース
契約ステータス (seStatus)	アクティブ
[全般] タブ	
支払属性 (sePayType)	なし
開始日 (dStart)	2003/01/01
終了日 (dEnd)	2006/12/31

フィールドまたはリンク	値
	[アプリケーション] プールの新規ライセンスの取得を対象とする一括発注契約。
リファレンス (Ref)	PC2MSA1
目的 (Purpose)	PC2 - Microsoft Select - アプリケーション - 取得
タイプ (seType)	一括発注
モデル (Model)	PC2 - Microsoft Select - プール
[全般] タブ	
親契約 (Parent)	PC2MSML (PC2 - Microsoft Select - マスターリース)
支払属性 (sePayType)	なし
開始日 (dStart)	2003/01/01
終了日 (dEnd)	2006/12/31
[任意管理項目] タブ	

フィールドまたはリンク	値
	[アプリケーション] プールの新規ライセンスの取得を対象とする一括発注契約。
PC2SelectPointsTarget	1500

フィールドまたはリンク	値
	[アプリケーション] プールのライセンスのソフトウェアアシュアランスを対象とするメンテナンス契約。
リファレンス (Ref)	PC2MSA2
目的 (Purpose)	PC2 - Microsoft Select - アプリケーション - アシュアランス
タイプ (seType)	メンテナンス
契約ステータス (seStatus)	アクティブ
[全般] タブ	
親契約 (Parent)	CP2MSA1 (CP2 - Microsoft Select - アプリケーション - 取得)
支払属性 (sePayType)	賃貸料
開始日 (dStart)	2003/01/01
終了日 (dEnd)	2006/12/31

コストセンタを作成します

- 1 コストセンタを表示します ([ファイナンス/コストセンタ]メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
ラベル (Title)	PC2 - 国内マーケティング

ポートフォリオ品目を作成します。

- 1 ポートフォリオ品目を表示します ([ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
	Select契約の開始以前に取得されたExcelライセンス。
モデル (Model)	PC2 - Excel - ライセンス
[全般] タブ	

フィールドまたはリンク	値
	Select契約の開始以前に取得されたExcelライセンス。
数量 (fQty)	100
コストセンタ (CostCenter)	PC2 - 国内マーケティング
[ライセンス] タブ	
権利 (ISoftLicUseRights)	1

フィールドまたはリンク	値
	Select契約の開始以前に取得されたProjectライセンス。
モデル (Model)	PC2 - Project - ライセンス
[全般] タブ	
数量 (fQty)	10
コストセンタ (CostCenter)	PC2 - 国内マーケティング
[ライセンス] タブ	
権利 (ISoftLicUseRights)	1

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC2 - コンピュータ
コストセンタ (CostCenter)	PC2 - 国内マーケティング

フィールドまたはリンク	値
	Select契約の開始以前に行われたExcelインストールで、Selectソフトウェアアシユアランスの対象となるもの。
モデル (Model)	PC2 - Excel - インストール
[全般] タブ	
数量 (fQty)	1
親レコード (Parent)	PC2 - コンピュータ
[インストール済ソフトウェア] タブ	
ポイント数 (IUseCount)	1

サプライヤを作成します

- 1 サプライヤを表示します ([ポートフォリオ/会社]メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	Microsoft

製品を作成します

- 1 製品を表示します ([調達 / 製品] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
説明 (Description)	PC2 - Excel - ライセンス
メーカー (Brand)	Microsoft
[全般] タブ	
モデル (Model)	PC2 - Excel - ライセンス

フィールドまたはリンク	値
説明 (Description)	PC2 - Project - ライセンス
メーカー (Brand)	Microsoft
[全般] タブ	
モデル (Model)	PC2 - Project - ライセンス

カタログを作成します

- 1 カタログを表示します ([調達 / カタログ] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	Microsoft
[サプライヤ]	[Microsoft] にリンクを追加します

リファレンスを作成します

- 1 リファレンスを表示します ([調達 / カタログ] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
カタログ (Catalog)	Microsoft
製品 (CatProduct)	PC2 - Excel - ライセンス

フィールドまたはリンク	値
価格 (sysCoreCatRefPrice)	200

フィールドまたはリンク	値
カタログ (Catalog)	Microsoft
製品 (CatProduct)	PC2 - Project - ライセンス
価格 (sysCoreCatRefPrice)	800

マスタリースからライセンスおよびアシュアランス依頼を作成します

- 1 依頼を表示します ([調達 / 購入依頼] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

ヒント:

新規依頼ウィザードが表示されたら、[カスタム依頼を新規作成する] を選択してから、[OK] をクリックします。

フィールドまたはリンク	値
目的 (Purpose)	PC2 - License + Excelソフトウェアアシュアランス
番号 (PONumber)	PC2-01

フィールドまたはリンク	値
目的 (Purpose)	PC2 - Projectライセンス
番号 (PONumber)	PC2-02

フィールドまたはリンク	値
目的 (Purpose)	PC2 - Excelアシュアランス
番号 (PONumber)	PC2-03

[PC2-01] 依頼の依頼明細を作成します

- 1 依頼を表示します ([調達 / 購入依頼] メニュー)。
- 2 依頼 [PC2-01] を選択します。
- 3 [明細] タブを表示します。
- 4 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
契約の使用 (bCntrUtilization)	いいえ
数量 (fQty)	300
リファレンス (CatalogRef)	PC2 - Excel - ライセンス (Microsoft) - PC2 - Excel - ライセンス

ヒント:

次の行を正しく作成するには、あらかじめ [変更] ボタンを使って依頼のレベルで最初の行を含めて保存しておく必要があります。

フィールドまたはリンク	値
契約の使用 (bCntrUtilization)	はい
数量 (fQty)	1
[依頼する契約] (UsedReqLineCntr) フィールドの右側のアイコン	クリック
[数量] (fQty) フィールドの下のドロップダウンリスト	使用契約
[使用契約] の値を持つドロップダウンリストの右側のフィールド	PC4MSA2 (実用例4 - Microsoft Select - アプリケーション - アシュアランス)
依頼する品目 (UsedReqLineAsset)	300 PC2 - Excel - ライセンス

[PC2-02] 依頼の依頼明細を作成します

- 1 依頼を表示します ([調達 / 購入依頼] メニュー)。
- 2 依頼 [PC2-02] を選択します。
- 3 [明細] タブを表示します。
- 4 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
数量 (fQty)	20
リファレンス (CatalogRef)	PC2 - Project - ライセンス (Microsoft) - PC2 - Project - ライセンス

[PC2-03] 依頼の依頼明細を作成します

- 1 依頼を表示します ([調達 / 購入依頼] メニュー)。
- 2 依頼 [PC2-03] を選択します。
- 3 [明細] タブを表示します。

- 4 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
契約の使用 (bCntrUtilization)	はい
数量 (fQty)	1
[依頼する契約] (UsedReqLineCntr) フィールドの右側のアイコン	クリック
[数量] (fQty) フィールドの下のドロップダウンリスト	使用契約
[使用契約] の値を持つドロップダウンリストの右側のフィールド	PC4MSA2 (実用例4 - Microsoft Select - アプリケーション - アシュアランス)
[依頼する品目] (UsedReqLineAsset) フィールドの右側のアイコン	クリック
[使用契約] の値を持つドロップダウンリストの下でのドロップダウンリスト	使用資産
[使用資産] の値を持つドロップダウンリストの右側のフィールド	Microsoft PC2 - Excel - ライセンス

発注 [PC2-01] および [PC2-02] の作成、発行、および受領

- 1 依頼を表示します ([調達 / 購入依頼] メニュー)。
- 2 依頼 [PC2-01] を選択します。
- 3 [見積] をクリックし、[終了] をクリックします。提示された値をそのまま使用します。
- 4 依頼から生成された発注の詳細で以下の手順を実行します。
 - a 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

フィールドまたはリンク	値
番号 (PONumber)	PC2-01
[全般] タブ	
発行日 (dtSent)	2003/03/31

- b [明細] タブを表示します。
- c 発注明細の詳細を表示します。
- d 発注明細の詳細で、[配賦] タブを表示します。
- e 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

フィールドまたはリンク	値
コストセンタ (CostCenter)	PC2 - 国内マーケティング

- f 発注明細の詳細で、[ファイナンス]タブを表示します。
- g 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

フィールドまたはリンク	値
一括発注 (bUsesBlanketPO)	はい
一括発注契約 (BlanketPOCtr)	PC2MSA1 (CP2 - Microsoft Select - アプリケーション)

- h [変更]をクリックします。
- 5 [発注]をクリックし、[終了]をクリックします。提示された値をそのまま使用します。
- 6 [受領]をクリックし、[終了]をクリックします。提示された値をそのまま使用します。[OK]をクリックします。
- 7 発注の受領時に作成されたこのポートフォリオ品目の詳細を確認します。
- 8 すべてのウィンドウを閉じます。
- 9 依頼を表示します ([調達/購入依頼]メニュー)。
- 10 依頼 [PC0-02] を選択します。
- 11 [見積]をクリックし、[終了]をクリックします。提示された値をそのまま使用します。[OK]をクリックします。
- 12 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

フィールドまたはリンク	値
番号 (PONumber)	PC2-02
[全般]タブ	
発行日 (dtSent)	2003/03/31

- 13 依頼から生成された発注の詳細で、以下の手順を実行します。
 - a [明細]タブを表示します。
 - b 発注明細の詳細を表示します。
 - c 発注明細の詳細で、[配賦]タブを表示します。
 - d 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

フィールドまたはリンク	値
コストセンタ (CostCenter)	PC2 - 国内マーケティング

- e 発注明細の詳細で、[ファイナンス]タブを表示します。

f 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

フィールドまたはリンク	値
一括発注 (bUsesBlanketPO)	はい
一括発注契約 (BlanketPOCtr)	PC4MSA1 (PC2 - Microsoft Select - アプリケーション)

g [変更] をクリックしてから、[閉じる] をクリックします。

- 14 購入依頼から作成された見積のレベルで、[発注] をクリックしてから、[終了] をクリックします。提示された値をそのまま使用します。[OK] をクリックします。
- 15 購入依頼から作成された発注の詳細で、[受領] をクリックしてから、[終了] をクリックします。提示された値をそのまま使用します。[OK] をクリックします。
- 16 発注の受領時に作成されたこのポートフォリオ品目の詳細を確認します。
- 17 すべてのウィンドウを閉じます。

依頼 [PC2-03] を実行します

- 1 依頼を表示します ([調達 / 購入依頼] メニュー)。
- 2 依頼 [PC4-03] を選択します。
- 3 [ステータス] フィールド (seStatus) を [承認済] に設定します。
- 4 [変更] をクリックします。
- 5 [実行] をクリックし、[終了] をクリックします。提示された値をそのまま使用します。[OK] をクリックします。
- 6 [明細] タブを表示します。
- 7 依頼明細 [契約の使用] の詳細を表示します。
- 8 [CP2-Excel-ライセンス] に設定されたフィールドの右側の拡大鏡をクリックします。
- 9 [契約] タブを表示します。
資産が契約 [PC2MSA2 (PC2 - Microsoft Select - アプリケーション - アシユアランス)] にリンクされているはずですが。
- 10 すべてのウィンドウを閉じます。

ポイントトラッキングのための特殊フィールドを作成します

- 1 特殊フィールドを表示します ([管理 / 特殊フィールド] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

 ヒント:

マニュアルの「chm」からAssetCenterにスクリプトをコピーすることをお勧めします。

フィールドまたはリンク	値
TextLabel (ラベル)	PC2 - Select - ライセンスポイント
SQLName (SQL名)	PC2L
TableName (テーブル)	契約 (amContract)
seType (フィールドタイプ)	BASICスクリプト
seDataType (結果タイプ)	数値
Script (特殊フィールドスクリプト)	RetVal = AmDbGetDouble("SELECT SUM(fQty * CatalogRef.CatProduct.Model.fv_PC2SelectPointsL) FROM amPOrdLine WHERE BlanketPOCntr = " & [ICntrld] & " AND POrder.dtSent >= #" & [dStart] & "# AND POrder.dtSent <= #" & [dEnd] & "#")

スクリプトの説明:

- RetVal =: スクリプトが値を返します。
- AmDbGetDouble(...): 返される値は倍精度の値 (8バイト) です。
- FROM amPOrdLine: このクエリは、[発注明細] テーブルを検索します。
- WHERE BlanketPOCntr = " & [ICntrld] & " AND POrder.dtSent >= #" & [dStart] & "# AND POrder.dtSent <= #" & [dEnd] & "#": [発注明細] テーブルのレコードは、[一括発注契約] (BlanketPOCntr) によって契約とリンクされる必要があります。発注明細が属する発注は、契約の開始 ([dStart] フィールド) のあと、契約の終了 ([dEnd] フィールド) の前に発行されている ([POrder.dtSent] フィールドへのリンク) 必要があります。
- SUM(fQty * CatalogRef.CatProduct.Model.fv_CP2PointsSelectL): このクエリは、発注明細のカタロググリファレンスの製品モデルに関連する任意管理項目値 [fv_CP2PointsSelectL] ([CatalogRef.CatProduct.Model.fv_CP2PointsSelectL] リンク) を、WHERE(...)句で選択された発注明細のそれぞれに対して合計します (SUM(...))。

フィールドまたはリンク	値
TextLabel (ラベル)	PC2 - Select - アシュアランスポイント
SQLName (SQL名)	PC2SA
TableName (テーブル)	契約 (amContract)

フィールドまたはリンク	値
seType (フィールドタイプ)	BASICスクリプト
seDataType (結果タイプ)	数値
Script (特殊フィールドスクリプト)	<pre>RetVal = AmDbGetDouble("SELECT SUM(Asset.fTotalQty * Asset.Model.fv_PC2SelectPointsSA1) FROM amAstCntrDesc WHERE ICntrlId = " & [ICntrlId] & " AND dCntrlIncluded >= #" & (Year([dStart]) + 2) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "# AND dCntrlIncluded < #" & (Year([dStart]) + 3) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "#") RetVal = RetVal + AmDbGetDouble("SELECT SUM(Asset.fTotalQty * Asset.Model.fv_PC2SelectPointsSA2) FROM amAstCntrDesc WHERE ICntrlId = " & [ICntrlId] & " AND dCntrlIncluded >= #" & (Year([dStart]) + 1) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "# AND dCntrlIncluded < #" & (Year([dStart]) + 2) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "#") RetVal = RetVal + AmDbGetDouble("SELECT SUM(Asset.fTotalQty * Asset.Model.fv_PC2SelectPointsSA3) FROM amAstCntrDesc WHERE ICntrlId = " & [ICntrlId] & " AND dCntrlIncluded >= #" & (Year([dStart]) + 0) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "# AND dCntrlIncluded < #" & (Year([dStart]) + 1) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "#")</pre>

スクリプトの最初のRetVal =の説明:

- RetVal =: スクリプトが値を返します。
わかりやすくするため、計算は3つの部分に分かれて行われます。RetVal = RetVal + ...
- AmDbGetDouble(...): 返される値は倍精度の値 (8バイト) です。
- FROM amAstCntrDesc: このクエリは、[契約上の資産] テーブルを検索します。
- ICntrlId = " & [ICntrlId] & ": WHERE句の最初の条件。
契約の対象となる資産は、[ICntrlId] フィールドで示される現在の契約とリンクされている必要があります。
- dCntrlIncluded >= #" & (Year([dStart]) + 2) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "#: WHERE句の2番目の条件。

契約の対象となる資産は、契約の開始後最低2年間含まれている（ [dCntrlIncluded] フィールド ） 必要があります。

基準日の区切りには「 # 」文字が用いられます。

基準日は、契約開始の年、月、日（ [dStart] フィールド ） を連結することにより構成されます。

これにより、「 #YYYY-MM-DD# 」という形式の日付が得られます。

- dCntrlIncluded < # " & (Year([dStart]) + 3) & "-" & Month([dStart]) & "-" & Day([dStart]) & "#: WHERE句の3番目の条件。

契約の対象となる資産は、契約の開始後最低3年間含まれている（ [dCntrlIncluded] フィールド ） 必要があります。

- SUM(Asset.fTotalQty * Asset.Model.fv_CP2PointsSelectSA3): このクエリは、WHERE句で選択された契約の対象となる資産の総数（ fTotalQty ） フィールドと任意管理項目 [CP2PointsSelectSA3] の積を合計します。この任意管理項目によって、ライセンスが契約の最初の年、すなわちソフトウェアアシュアランスの残り期間が2～3年のときに取得されたライセンスに対してカウントされるソフトウェアアシュアランスポイントの数が決まります。

特殊フィールドと契約の任意管理項目を表示します

- 1 契約を表示します（ [契約 / 契約] メニュー）。
- 2 リストのヘッダーを右クリックします。
- 3 ショートカットメニューから [ユーティリティ / リストの設定] を選択します。
- 4 特殊フィールド [PC2 - Select - アシュアランスポイント（ PC2SA ）] および [PC2 - Select - ライセンスポイント（ CP2L ）] を追加します。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 [PC2MSA1] および [PC2MSA2] 契約に対して追加した値を確認します。

Excelカウンタに必要なクエリを作成します

- 1 クエリを表示します（ [ツール / クエリ] メニュー）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクを入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前（ Name ）	ライセンスとインストールを考慮するコストセンタの識別情報。
テーブル（ TableName ）	PC2 - コストセンタ1
[クエリ] タブ	コストセンタ（ amCostCenter ）

フィールドまたはリンク	値
	ライセンスとインストールを考慮するコストセンタの識別情報。
クエリ (memQueryText)	Title = 'PC2 - 国内マーケティング'

フィールドまたはリンク	値
	Excelライセンスの識別情報
名前 (Name)	PC2 - Excel - ライセンス
テーブル (TableName)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
[クエリ] タブ	
クエリ (memQueryText)	Model.Name = 'PC2 - Excel - ライセンス'

フィールドまたはリンク	値
	Excelライセンスの識別情報
名前 (Name)	PC2 - Excel - インストール
テーブル (TableName)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
[クエリ] タブ	
クエリ (memQueryText)	Model.Name = 'PC2 - Excel - インストール'

Excelカウンタを作成します

- 1 カウンタを表示します ([ソフトウェア / カウンタ] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクを入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	レコード
名前 (Name)	PC2 - Excel - ライセンス管理
モデルとして使用 (bType)	いいえ
グループ (Context)	コストセンタ (amCostCenter)
アプリケーションの範囲 (Definition)	PC2 - コストセンタ1
ライセンス契約 (Contract)	PC2MSA1 (PC2 - Microsoft Select - アプリケーション - 取得)
[ライセンス]	
権限カウンタのコンテキスト (LicContext)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
カウント制限(ライセンス) (LicQuery)	PC2 - Excel - ライセンス
権限 -> グループリンク (LicGroupBy)	CostCenter
権限計算モード (seLicCountMode)	計算式によるカウント
権限カウントのフィールド (LicCountFormula)	SUM((fQty * Asset.ISoftLicUseRights))
[インストール] タブ	

フィールドまたはリンク	レコード
インストール/使用カウンタのコンテキスト (InstContext)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
カウント制限(インストール) (SoftInstQuery)	PC2 - Excel - インストール
インストール/使用 -> グループリンク (InstGroupBy)	Parent.CostCenter
インストール/使用計算モード (selInstallCountMode)	計算式によるカウント
インストール / 使用の計算式 (InstCountSQL)	Countdistinct(IParentId)

- 3 [計算] ボタンをクリックします。
- 4 [全般] タブを表示します。カウントはここに一覧表示されます。
- 5 [結果] タブを表示します。カウントの詳細はここに示されます。

注意:

Projectに対するカウンタも同様の方法で作成できます。

実用例3：契約ライセンスを承認する

はじめに

この実用例では、完全ライセンス契約の承認手順を紹介します。

シナリオ

経営情報管理部門の「PC3 - 高田」氏は、サプライヤとの間で契約を締結しようとしています。

この種類の契約は、「PC3 - 予算の承認」というグループによって予算の観点から承認する必要があります。このグループは、リーダーが最高財務責任者「PC3 - 安藤」氏で、メンバーに会計士「PC3 - 手塚」氏がいます。

契約を予算の観点から承認する場合、「PC3-法律の承認」というグループによって法律的な点から承認することも必要です。このグループは、リーダーが法律顧問の「PC3 - 寺井」氏で、メンバーに弁護士「PC3 - 福山」氏がいます。

承認は、いずれのグループリーダーが行うことも、メンバーの一員が行うこともできます。

実用例の主要段階

- 1 承認者を作成する [倭献66]

- 2 契約（「PC3 - 高田」氏）を作成する [修献68]
- 3 承認グループを作成する [修献69]
- 4 契約の承認（sysSam_CNTR_APPR）ワークフローチャートのカスタマイズ [修献70]
- 5 承認（「PC3 - 高田」氏）を依頼する [修献71]
- 6 契約（「PC3 - 安藤」）の予算の承認を却下する [修献71]
- 7 契約を変更して承認用に再提出する（「PC3 - 高田」氏） [修献72]
- 8 予算の観点から契約を承認する（「PC3 - 手塚」氏） [修献73]
- 9 法律の観点から契約を承認する（「PC3 - 寺井」氏） [修献73]
- 10 承認ステータスについて常に通知を受ける（「PC3 - 高田」氏） [修献74]

実行する手順

承認者を作成する

- 1 従業員と部署を表示します（ [ポートフォリオ / 従業員と部署] メニュー）。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します（ [新規作成] ）。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC3 - 安藤
役職 (Title)	最高財務責任者
[全般] タブ	
電子メール (EMail)	AM:andou
[プロフィール] タブ	
ログインのタイプ (seLoginClass)	不特定
ユーザアカウントのステータス (seLoginStatus)	アクティブ
ログイン (UserLogin)	andou
パスワード (LoginPassword)	空白のまま残します。
管理者権限 (bAdminRight)	はい

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC3 - 手塚
役職 (Title)	会計士
[全般] タブ	
電子メール (EMail)	AM:tezuka
[プロフィール] タブ	
ログインのタイプ (seLoginClass)	不特定

フィールドまたはリンク	値
ユーザアカウントのステータス (seLoginStatus)	アクティブ
ログイン (UserLogin)	tezuka
パスワード (LoginPassword)	空白のまま残します。
管理者権限 (bAdminRight)	はい

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC3 - 福山
役職 (Title)	法律顧問
[全般] タブ	
電子メール (EMail)	AM:fukuyama
[プロフィール] タブ	
ログインのタイプ (seLoginClass)	不特定
ユーザアカウントのステータス (seLoginStatus)	アクティブ
ログイン (UserLogin)	fukuyama
パスワード (LoginPassword)	空白のまま残します。
管理者権限 (bAdminRight)	はい

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC3 - 寺井
役職 (Title)	弁護士
[全般] タブ	
電子メール (EMail)	AM:terai
[プロフィール] タブ	
ログインのタイプ (seLoginClass)	不特定
ユーザアカウントのステータス (seLoginStatus)	アクティブ
ログイン (UserLogin)	terai
パスワード (LoginPassword)	空白のまま残します。
管理者権限 (bAdminRight)	はい

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC3 - 高田
役職 (Title)	CIO
[全般] タブ	
電子メール (EMail)	AM:takada
[プロフィール] タブ	
ログインのタイプ (seLoginClass)	不特定

フィールドまたはリンク	値
ユーザアカウントのステータス (seLoginStatus)	アクティブ
ログイン (UserLogin)	takada
パスワード (LoginPassword)	空白のまま残します。
管理者権限 (bAdminRight)	はい

- 3 従業員のリストを閉じます ([閉じる] ボタン)。

契約 (「 PC3 - 高田 」 氏) を作成する

- 1 最高情報責任者「PC3-高田」としてデータベースに接続します ([ファイル / データベースに接続] メニュー)。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	takada
パスワード	空白のまま残します。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- 2 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア / ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 3 [ソフトウェアの管理] ページで、 [ソフトウェア契約の作成/変更] オプションを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 [契約の管理] ページで、 [新しいソフトウェア契約の作成(原案)] ボタンをクリックします。
これにより、ソフトウェア契約を作成(原案) (sysSamCreateSoftContract) ウィザードがトリガされます。
- 6 ウィザードのページを次のように入力します (ウィザードページの移動には [次へ]、 [戻る] を使用)。

フィールドまたはリンク	レコード
[ソフトウェア契約を作成] ページ	
新規作成	はい
[契約タイプ] ページ	
その他	はい
[追加契約の定義] ページ	何も入力しないでください。
[このソフトウェア契約のベンダはどのベンダですか?] ページ	何も入力しないでください。
[ベンダの詳細を定義] ページ	何も入力しないでください。
[ベンダの場所を定義] ページ	何も入力しないでください。

フィールドまたはリンク	レコード
[一般契約情報] ページ	
契約の内部参照番号 (Ref)	PC3-001
[財務情報] ページ	
支払属性 (Nature of payments)	10000
[内部契約の定義] ページ	
責任者	PC3 - 高田
[その他の契約条件] ページ	何も入力しないでください。
[契約文書とメモ] ページ	何も入力しないでください。
[概要] ページ	
なし	はい

- 7 ウィザードで定義されたすべてのパラメータを確定します ([終了] ボタン)。
- 8 ウィザードを終了します ([OK] ボタン)。
- 9 ウィザードを終了します ([終了] ボタン)。

承認グループを作成する

- 1 グループを表示します ([ポートフォリオ / グループ] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します ([新規作成])。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC3 - 予算の承認
責任者 (Supervisor)	PC3 - 安藤
バーコード (BarCode)	CNTRBUDGET-PC3
[グループ構成] タブ	
メンバー (Members)	「 PC3 - 手塚 」を追加します。
[契約] タブ	
契約 (Contracts)	「 PC3 - 001 」を追加します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC3 - 法律の承認
責任者 (Supervisor)	PC3 - 寺井
バーコード (BarCode)	CNTRLEGA-PC3
[グループ構成] タブ	
メンバー (Members)	「 PC3 - Bertini 」を追加します。
[契約] タブ	
契約 (Contracts)	「 PC3 - 001 」を追加します。

- 3 グループのリストを閉じます ([閉じる] ボタン)。

契約の承認 (sysSam_CNTR_APPR) ワークフローチャートのカスタマイズ

- 1 ワークフローチャートを表示します ([ツール / ワークフロー / ワークフローチャート] メニュー)。
- 2 [契約の承認] (sysSam_CNTR_APPR) ワークフローチャートを選択します。
- 3 [アクティビティ] タブを表示します。
- 4 契約の承認: 責任者 (SAM_APPR_CNTR_OPER) アクティビティを削除します ([契約の承認: 責任者] ボックスのショートカットメニュー [削除])。
- 5 契約の承認: 財務 (SAM_APPR_CNTR_FINA) アクティビティを削除します ([契約の承認: 財務] ボックスのショートカットメニュー [削除])。
- 6 契約の承認: 請求書 (SAM_APPR_CNTR_BILL) アクティビティを削除します ([契約の承認: 請求書] ボックスのショートカットメニュー [削除])。
- 7 契約の承認: 法律 (SAM_APPR_CNTR_JURI) アクティビティの詳細画面を表示します ([契約の承認: 法律] ボックスのショートカットメニュー [アクティビティの詳細])。
- 8 [パラメータ] タブを表示します。
- 9 [担当者] リンクの詳細画面を表示します (拡大鏡をクリックします)。
- 10 次のフィールドおよびリンクを変更します。

フィールドまたはリンク	値
コンテキスト (ContextTable)	契約 (amContract)
タイプ (seType)	計算されたグループ
スクリプト (memScript)	<pre>Const STRJURI="CNTRJURI" RetVal=amDbGetLong("SELECT g.IGroupId FROM amRelEmplGrpCntr r, amEmplGroup g WHERE r.IGroupId=g.IGroupId AND r.ICntrlId=" & [ICntrlId] & " AND g.BarCode LIKE " & STRJURI & "%") if RetVal=0 Then RetVal=amDbGetLong("SELECT IGroupId FROM amEmplGroup WHERE Bar Code ='sysSam_CNTR_JURI'")</pre>

- 11 変更を保存して ([変更] ボタン)、ワークフローの役割の詳細画面を閉じます ([閉じる] ボタン)。
- 12 アクティビティの詳細画面を閉じます ([閉じる] ボタン)。
- 13 変更を保存して ([変更] ボタン)、ワークフローチャートの詳細画面を閉じます ([閉じる] ボタン)。

承認（「PC3 - 高田」氏）を依頼する

- 1 経営情報管理部門「PC3 - 高田」としてデータベースに接続していない場合は、接続します（[ファイル/データベースに接続]メニュー）。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	takada
パスワード	空白のまま残します。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- 2 ソフトウェアの管理（sysSamLauncher）ウィザードを起動します（[ソフトウェア/ソフトウェア資産管理]メニュー）。
- 3 現在の契約が「PC3 - 001」であることを確認します。
そうでない場合は選択します（[作業対象の契約を選択]ボタン）。
- 4 [ソフトウェアの管理]ページで、[ソフトウェア契約の作成/変更]オプションを選択します。
- 5 [次へ]をクリックします。
- 6 [契約の承認依頼]ボタンをクリックします。
これにより、契約の承認を依頼（sysSamReqContractApproval）ウィザードがトリガされます。
- 7 ウィザードのページを次のように入力します（ウィザードページの移動には[次へ]、[戻る]を使用）。

フィールドまたはリンク	レコード
[契約の承認依頼]ページ	
契約の承認を依頼	はい

- 8 ウィザードで定義されたすべてのパラメータを確定します（[終了]ボタン）。
- 9 ウィザードを終了します（[OK]ボタン）。
- 10 ウィザードを終了します（[終了]ボタン）。

契約（「PC3 - 安藤」）の予算の承認を却下する

- 1 最高財務責任者「PC3 - 安藤」としてデータベースに接続します（[ファイル/データベースに接続]メニュー）。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	andou

フィールド	値
パスワード	空白のまま残します。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- 2 AssetCenterによって、「未読のメッセージがあります。今すぐ開封しますか?」というメッセージが表示されます。
- 3 未読のメッセージを表示します ([はい] ボタン)。
これにより、メッセージを読む (sysCoreReadMsg) ウィザードがトリガされます。
- 4 [次へ] をクリックします。
ウィザードには、契約の承認が保留中であることを通知するメッセージが表示されます。
- 5 ウィザードを終了します ([終了] ボタン)。
- 6 進行中のタスクを表示します ([ツール / 進行中のタスク] メニュー)。
- 7 契約の承認: 予算タスクを選択します。
- 8 契約を却下します ([契約の却下] に続いて [変更])。
- 9 タスクのリストを閉じます ([閉じる] ボタン)。
- 10 最高情報責任者「PC3-高田」としてデータベースに接続します ([ファイル / データベースに接続] メニュー)。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	takada
パスワード	空白のまま残します。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- 11 AssetCenterによって、「未読のメッセージがあります。今すぐ開封しますか?」というメッセージが表示されます。
- 12 未読のメッセージを表示します ([はい] ボタン)。
これにより、メッセージを読む (sysCoreReadMsg) ウィザードがトリガされます。
- 13 [次へ] をクリックします。
契約が却下され承認サイクルがもう一度開始することを「PC3-高田」氏に通知するメッセージの詳細がウィザードに表示されます。
- 14 ウィザードを終了します ([終了] ボタン)。

契約を変更して承認用に再提出する (「PC3-高田」氏)

- 1 「PC3-高田」としてデータベースに接続していることを確認します。
- 2 進行中のタスクを表示します ([ツール / 進行中のタスク] メニュー)。

- 3 タスク却下により再処理が必要な契約を選択します。
- 4 却下されたばかりの契約の詳細画面を表示します（[詳細]ボタン）。
- 5 次の表に示すフィールドとリンクを変更します。

フィールドまたはリンク	値
[全般]タブ	
初回金 (mlntPay)	3000

- 6 変更を保存します（[変更]）。
- 7 契約の詳細画面を閉じます（[閉じる]ボタン）。
- 8 契約の承認サイクルを再開します（[はい]に続いて[変更]）。
- 9 タスクのリストを閉じます（[閉じる]ボタン）。

予算の観点から契約を承認する（「PC3 - 手塚」氏）

- 1 会計士「PC3-手塚」としてデータベースに接続します（[ファイル/データベースに接続]メニュー）。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	tezuka
パスワード	空白のまま残します。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- 2 契約の承認ワークフローチャートではメッセージが承認グループの責任者にしか送信されないの、メッセージがあることはAssetCenterによって通知されません。
- 3 進行中のタスクを表示します（[ツール/進行中のタスク]メニュー）。

注意:

「PC3 - 手塚」は、予算承認タスクに「PC3 - 予算の承認」グループのメンバーとしてアクセスできます。

- 4 契約の承認：予算タスクを選択します。
- 5 契約を承認します（[契約の検証]に続いて[変更]ボタン）。
- 6 タスクのリストを閉じます（[閉じる]ボタン）。

法律の観点から契約を承認する（「PC3 - 寺井」氏）

- 1 法律顧問「PC3-寺井」としてデータベースに接続します（[ファイル/データベースに接続]メニュー）。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	terai
パスワード	空白のまま残します。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- 2 AssetCenterによって、「未読のメッセージがあります。今すぐ開封しますか?」というメッセージが表示されます。
- 3 未読のメッセージを表示します（[はい]ボタン）。
これにより、メッセージを読む（sysCoreReadMsg）ウィザードがトリガされます。
- 4 [次へ]をクリックします。
ウィザードには、契約の承認が保留中であることを通知するメッセージが表示されます。
- 5 ウィザードを終了します（[終了]ボタン）。
- 6 進行中のタスクを表示します（[ツール/進行中のタスク]メニュー）。
- 7 契約の承認: 法律タスクを選択します。
- 8 契約を承認します（[契約の検証]に続いて[変更]ボタン）。
- 9 タスクのリストを閉じます（[閉じる]ボタン）。

承認ステータスについて常に通知を受ける（「PC3 - 高田」氏）

- 1 最高情報責任者「PC3-高田」としてデータベースに接続します（[ファイル/データベースに接続]メニュー）。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	takada
パスワード	空白のまま残します。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- 2 AssetCenterによって、「未読のメッセージがあります。今すぐ開封しますか?」というメッセージが表示されます。
- 3 未読のメッセージを表示します（[はい]ボタン）。
これにより、メッセージを読む（sysCoreReadMsg）ウィザードがトリガされます。
- 4 [次へ]をクリックします。
契約が承認されたことを通知するメッセージの詳細画面がウィザードによって表示されます。

- 5 ウィザードを終了します（ [終了] ボタン）。
- 6 ソフトウェアの管理（ sysSamLauncher ）ウィザードを起動します（ [ソフトウェア / ソフトウェア資産管理] メニュー）。
- 7 [ソフトウェアの管理] ページで、 [ソフトウェア契約の作成 / 変更] オプションを選択します。
- 8 [次へ] をクリックします。
- 9 [契約承認の進行状況] ボタンをクリックします。
これにより、進行状況が表示されます。
使用可能な情報を参照します。
- 10 進行状況を閉じます（ [閉じる] ボタン）。
- 11 ウィザードを終了します（ [終了] ボタン）。

実用例4: 契約ライセンスを作成する

はじめに

この実用例は、ライセンス契約を作成および変更する方法について説明します。

シナリオ

「PC4 - 鴨山」氏は、本社の経営情報管理部門にいます。

「PC4 - 鴨山」氏は、グローバルライセンス契約と別にライセンス「PC4 - PowerPoint」を取得します。このライセンスをAssetCenterデータベースに記録します。

後の段階で、「PC4 - 鴨山」氏はグローバルライセンス契約「PC4 - Microsoftライセンス契約」を会社「PC4 - Microsoft」と結びます。

契約「PC4 - Microsoftライセンス契約」は、データベース内に作成してから、更新します。また、通知期間内に契約を終了するために期間満了日のアラームを設定します。

「PC4 - 鴨山」氏は、ライセンス「PC4 - PowerPoint」を契約「PC4 - Microsoftライセンス契約」に再度組み込むことによって、一括契約にしようと思っています。

契約「PC4-001」はメンテナンス契約にリンクされているので、「PC4 - 鴨山」氏はメンテナンス契約をAssetCenterデータベースに作成し、それを契約「PC4 - Microsoftライセンス契約」にリンクします。

実用例の主要段階

- 1 契約の責任者を作成する [倭献76]
- 2 会社の場所を作成する [倭献77]

- 3 「PC4 - PowerPoint」ライセンスのリセラーを作成する [修献77]
- 4 「PC4 - PowerPoint」ライセンスの属性を作成する [修献77]
- 5 「PC4 - PowerPoint」ライセンスのモデルを作成する [修献78]
- 6 「PC4 - PowerPoint」ライセンスに対応する資産を作成する [修献78]
- 7 「PC4 - PowerPoint」ライセンスに関連付けられた請求書を作成する [修献78]
- 8 ライセンス「PC4-PowerPoint」に対応する請求書に明細を追加します。 [修献79]
- 9 サプライヤが署名した紙の書類をスキャンしたファイルを作成する [修献79]
- 10 「PC4 - 鴨山」としてデータベースに接続する [修献79]
- 11 契約を作成する [修献79]
- 12 契約「PC4-001」を変更する [修献81]
- 13 ウィザードによって作成および変更された契約を調べる [修献82]
- 14 契約終了日に対するアラームに関連付けられたアクションを作成する [修献83]
- 15 アラームを終了日に関連付ける [修献83]
- 16 AssetCenter Server内でアラームの検証 (Alarms) モジュールをトリガする [修献84]
- 17 「PC4 - 鴨山」としてデータベースに再接続する [修献84]
- 18 ライセンス「PC4 - PowerPoint - ライセンス」を契約「PC4-001」に追加する [修献85]
- 19 ライセンス「PC4 - PowerPoint - ライセンス」の請求明細を契約「PC4-001」にリンクする [修献86]
- 20 メンテナンス契約を契約「PC4-001」に関連付ける [修献87]
- 21 メンテナンス契約を変更する [修献88]

実行する手順

契約の責任者を作成する

- 1 従業員と部署を表示します ([ポートフォリオ/従業員と部署] メニュー)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクを入力することによって、次のレコードを作成します ([新規作成] ボタン)。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC4 - 鴨山
[全般] タブ	
電子メール (EMail)	AM:kamoyama
[プロファイル] タブ	
ログインのタイプ (seLoginClass)	不特定

フィールドまたはリンク	値
ユーザアカウントのステータス (seLoginStatus)	アクティブ
ログイン (UserLogin)	kamoyama
パスワード (LoginPassword)	空白のまま残します。
管理者権限 (bAdminRight)	はい

- 3 すべてのウィンドウを閉じます。

会社の場所を作成する

- 1 場所を表示します ([ポートフォリオ/場所] メニュー)。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクを入力することによって、次のレコードを作成します ([新規作成] ボタン)。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC4 - 本社
市町村 (City)	PC4 - パリ

- 3 すべてのウィンドウを閉じます。

「PC4 - PowerPoint」ライセンスのリセラーを作成する

- 1 属性を表示します ([ポートフォリオ/会社] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC4 - Microsoft

- 3 すべてのウィンドウを閉じます。

「PC4 - PowerPoint」ライセンスの属性を作成する

- 1 属性を表示します ([ポートフォリオ/属性] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC4 - ライセンス
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	(テーブルなし)
管理条件 (seMgtConstraint)	固有資産タグ

フィールドまたはリンク	値
ライセンス (bSoftLicense)	はい

- 3 すべてのウィンドウを閉じます。

「PC4 - PowerPoint」ライセンスのモデルを作成する

- 1 モデルを表示します ([ポートフォリオ / モデル] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC4 - PowerPoint - ライセンス
属性 (Nature)	PC4 - ライセンス

- 3 すべてのウィンドウを閉じます。

「PC4 - PowerPoint」ライセンスに対応する資産を作成する

- 1 資産を表示します ([ポートフォリオ / 資産とロット] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC4 - PowerPoint - ライセンス
資産タグ (AssetTag)	PC4-001

- 3 すべてのウィンドウを閉じます。

「PC4 - PowerPoint」ライセンスに関連付けられた請求書を作成する

- 1 請求書を表示します ([調達 / サプライヤの請求書] メニュー)。
- 2 下の表に示すフィールドとリンクに入力して、以下のレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
番号 (InvoiceNumber)	PC4-001
サプライヤ (Supplier)	PC4 - Microsoft
目的 (Purpose)	PC4 - PowerPoint - ライセンス
請求ステータス (seStatus)	支払済

- 3 請求書の詳細画面を表示したままにします。

ライセンス「PC4 - PowerPoint」に対応する請求書に明細を追加します。

- 1 「PC4-001」請求書の詳細画面が表示されていることを確認します。
- 2 [明細] タブを選択します。
- 3 次の表に示すようにフィールドとリンクを入力することによって、次のレコードを追加します（[+] ボタン）。

フィールドまたはリンク	値
数量 (fQty)	1
説明 (Description)	PC4 - PowerPoint - ライセンス

- 4 明細を追加します（[追加] ボタン）。
- 5 請求書を変更します（[変更] ボタン）。
- 6 すべてのウィンドウを閉じます。

サプライヤが署名した紙の書類をスキャンしたファイルを作成する

- 1 テキストエディタを起動します。
- 2 テキストを入力します。

この文書は、サプライヤが署名した紙の書類をスキャンしたものです。

- 3 このファイルをC:\Temp\Contract.txtとして保存します。
- 4 テキストエディタを終了します。

「PC4 - 鴨山」としてデータベースに接続する

- 1 「PC4 - 鴨山」としてデータベースに接続します（[ファイル/データベースに接続] メニュー）。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	kamoyama
パスワード	空白のまま残します。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

契約を作成する

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します（[ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー）。

- 2 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェア契約の作成/変更] オプションを選択します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [契約の管理] ページで、[承認された契約を作成] ボタンをクリックします。
これにより、ソフトウェア契約を作成(原案) (sysSamCreateSoftContract) ウィザードがトリガされます。
- 5 ウィザードのページを次のように入力します (ウィザードページの移動には [次へ]、[戻る] を使用)。

フィールドまたはリンク	レコード
[ソフトウェア契約を作成] ページ	
新規作成	はい
[契約タイプ] ページ	
作成する契約のタイプを選択	Microsoft
[マイクロソフト契約] ページ	
契約番号	PC4-MSNUM001
[追加契約の定義] ページ	何も入力しないでください。
[このソフトウェア契約のベンダはどのベンダですか?] ページ	
新規ベンダ	いいえ
名前	PC4 - Microsoft
[ベンダの詳細を定義] ページ	
新規連絡先	はい
ベンダの役職	PC4 - セールスエンジニア
姓	PC4 - Kramer
[ベンダの場所を定義] ページ	
新しい場所	はい
場所名	PC4 - フランスの子会社
市町村	PC4 - パリ
[一般契約情報] ページ	
契約の内部参照番号 (Ref)	PC4-001
オブジェクト	PC4 - Microsoftライセンス契約
サプライヤRef番号	PC4-MSREF001
開始	01/01/2004
終了	12/31/2004
通知	60日
[財務情報] ページ	
支払属性	なし
[内部契約の定義] ページ	
責任者	PC4 - 鴨山
通知先住所	PC4 - 本社

フィールドまたはリンク	レコード
[その他の契約条件] ページ	何も入力しないでください。
[契約文書とメモ] ページ	何も入力しないでください。
[概要] ページ	
契約の概要を表示します。	はい
契約の作成後に実行するステップを選択	なし

- 6 ウィザードで定義されたすべてのパラメータを確定します ([終了] ボタン)。
ウィザードによって契約、サプライヤの場所、およびサプライヤの連絡先が作成されます。
- 7 レポートを確認した後は閉じてもかまいません。
- 8 ウィザードを終了します ([OK] ボタン)。
- 9 ウィザードを終了します ([終了] ボタン)。

契約「PC4-001」を変更する

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア / ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 現在の契約は「PC4-001」であることを確認します。
そうでない場合は選択します ([作業対象の契約を選択] ボタン)。
- 3 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェア契約の作成/変更] オプションを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 [契約の管理] ページで、[既存の契約を変更] をクリックします。
これにより、ソフトウェア契約を作成(原案) (sysSamCreateSoftContract) ウィザードがトリガされます。
- 6 ウィザードのページを次のように入力します (ウィザードページの移動には [次へ]、[戻る] を使用)。

フィールドまたはリンク	レコード
[ソフトウェア契約の変更] ページ	
どの方法で新規契約を作成しますか?	現在の契約PC4-001を変更する
[変更したい契約部分を選択] ページ	
変更したい契約部分を選択	契約に文書を追加
[文書は既に契約にリンクされています。] ページ	何も入力しないでください。
[契約文書とメモ] ページ	
文書の固有名	PC4 - ISPとの契約
契約を保存するための文書へのパス	C:\Temp\Contract.txt
上記文書のカテゴリ	PC4 - スキャンされた契約

フィールドまたはリンク	レコード
上記文書のステータス	検証済
[文書の追加] をクリックします。	
[概要] ページ	
契約の概要を表示します。	いいえ
契約の作成後に実行するステップを選択	なし

- 7 ウィザードで定義されたすべてのパラメータを確定します（ [終了] ボタン）。
ウィザードによって文書が追加されます。
- 8 ウィザードを終了します（ [OK] ボタン）。
- 9 ウィザードを終了します（ [終了] ボタン）。

ウィザードによって作成および変更された契約を調べる

- 1 契約を表示します（ [契約 / 契約] メニュー）。
- 2 「PC4-001」契約の詳細画面を表示します。
- 3 特に、次のフィールドとリンクには気を付けて下さい。

フィールドまたはリンク	値
リファレンス (Ref)	PC4-001
タイプ (seType)	選択することなく、値「ライセンス」がウィザードによって自動的に割り当てられます。
目的 (Purpose)	PC4 - Microsoftライセンス契約
[全般] タブ	
責任者 (Supervisor)	PC4 - 鴨山
属性 (Nature)	Microsoft
番号 (ContractNo)	PC4-MSREF001
会社 (Company)	PC4 - Microsoft
開始日 (dStart)	01/01/2004
終了日 (dEnd)	12/31/2004
通知 (tsNotice)	2ヶ月
[契約] タブ	
通知先住所 (NotiffAddress)	/PC4 - 本社/
連絡先 (Contact)	PC4 - Kramer
[書類] タブ	
	ウィザードにリンクした文書が表示されます。

- 4 すべてのウィンドウを閉じます。

契約終了日に対するアラームに関連付けられたアクションを作成する

- 1 アラームを表示します（ [ツール / アクション / 編集] メニュー ）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクを入力することによって、次のレコードを作成します（ [新規作成] ボタン ）。

フィールドまたはリンク	値
名前	PC4 - 期間満了アラーム
コンテキスト	契約 (amContract)
タイプ	メッセージシステム
[メッセージシステム] タブ	
宛先	AM:kamoyama
件名	満了日が近づく
メッセージ	The contract [Ref] expires on [dEnd]. Notice period: [tsNotice] (契約[Ref]の満了日は [dEnd] です。 通知期限: [tsNotice])

- 3 すべてのウィンドウを閉じます。

アラームを終了日に関連付ける

- 1 契約を表示します（ [契約 / 契約] メニュー ）。
- 2 「PC4-001」契約の詳細画面を表示します。
- 3 [全般] タブをクリックします。
- 4 [終了] (dEnd) フィールドの右にある [アラーム] アイコンをクリックします。
- 5 下の表に示すフィールドとリンクに記入します。

フィールドまたはリンク	値
アラーム	はい
トリガ	90
アクション	PC4 - 期間満了アラーム

- 6 アラームを保存します（ [OK] ボタン ）。
- 7 契約を変更します（ [変更] ボタン ）。
- 8 すべてのウィンドウを閉じます。

AssetCenter Server内でアラームの検証（Alarms）モジュールをトリガする

- 1 AssetCenter Serverを起動します（Windowsの [スタート / プログラム / AssetCenter / AssetCenter Server] メニュー）。
- 2 「Admin」としてデータベースに接続します（ [ファイル / データベースに接続] メニュー）。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	Admin
パスワード	空白のまま残します。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- 3 トリガするアクションを表示します（ [アクション / トリガ] メニュー）。
- 4 アクションアラームの検証を選択します。
- 5 選択したアクションを実行します（ [OK] ボタン）。
- 6 AssetCenter Serverを終了します（ [ファイル / 終了] メニュー）。

「PC4 - 鴨山」としてデータベースに再接続する

- 1 AssetCenterクライアントを有効にします。
- 2 「PC4 - 鴨山」としてデータベースに再接続します（ [ファイル / データベースに接続] メニュー）。

フィールド	値
接続	実用例を実行するデータベースへの接続
ログイン	kamoyama
パスワード	空白のまま残します。
統合NTセキュリティ使用	いいえ

- AssetCenterによって、「未読のメッセージがあります。今すぐ開封しますか?」というメッセージが表示されます。
- 3 未読のメッセージを表示します（ [はい] ボタン）。
これにより、メッセージを読む（sysCoreReadMsg）ウィザードがトリガされます。
 - 4 [次へ] をクリックします。
契約の終了日が近づいていることを通知するメッセージの詳細画面がウィザードによって表示されます。
 - 5 契約の詳細画面を表示します（ [参照オブジェクト] ボタン）。
 - 6 契約の詳細画面を閉じます

7 ウィザードを終了します（[終了]ボタン）。

ライセンス「PC4 - PowerPoint - ライセンス」を契約 「PC4-001」に追加する

- 1 ソフトウェアの管理（sysSamLauncher）ウィザードを起動します（[ソフトウェア/ソフトウェア資産管理]メニュー）。
- 2 現在の契約は「PC4-001」であることを確認します。
そうでない場合は選択します（[作業対象の契約を選択]ボタン）。
- 3 [ソフトウェアの管理]ページで、[ソフトウェア契約の作成/変更]オプションを選択します。
- 4 [次へ]をクリックします。
- 5 [契約の管理]ページで、[資産を既存の契約に追加]ボタンをクリックします。
これにより、資産を既存の契約に追加（Ast2Cntr）ウィザードが開始します。
- 6 ウィザードのページを次のように入力します（ウィザードページの移動には[次へ]、[戻る]を使用）。

フィールドまたはリンク	レコード
ページ「PC4-001」	
資産のリスト	「PC4 - PowerPoint - ライセンス」を選択します。
ページ「PC4-001」	
登録日	02/10/2004
削除する予定日	12/31/2004

- 7 ウィザードで定義されたすべてのパラメータを確定します（[終了]ボタン）。
ウィザードによって、ライセンス[PC4 - PowerPoint - ライセンス]が契約「PC4-001」に追加されます。
- 8 ウィザードを終了します（[OK]ボタン）。
- 9 ウィザードを終了します（[終了]ボタン）。
- 10 契約を表示します（[契約/契約]メニュー）。
- 11 「PC1-004」を選択します。
- 12 特に、次のフィールドとリンクには気を付けて下さい。

フィールドまたはリンク	値
[資産] タブ	「PC4 - PowerPoint - ライセンス」が表示されます。

13 すべてのウィンドウを閉じます。

ライセンス「PC4 - PowerPoint - ライセンス」の請求明細を契約「PC4-001」にリンクする

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア/ソフトウェア資産管理] メニュー)。
- 2 現在の契約は「PC4-001」であることを確認します。
そうでない場合は選択します ([作業対象の契約を選択] ボタン)。
- 3 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェア契約の作成/変更] オプションを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 [ソフトウェアの管理] ウィザードページで、[請求明細を契約にリンクします] ボタンをクリックします。
これにより、請求明細を契約にリンク (sysSamLinkInvoices2Ctr) ウィザードが開始します。
- 6 ウィザードのページを次のように入力します (ウィザードページの移動には [次へ]、[戻る] を使用)。

フィールドまたはリンク	レコード
[請求明細を契約にリンク.. PC4-001] ページ	
サプライヤの請求書	請求「PC4-001 PC4 - Microsoft」を選択します。
請求明細	明細「PC4-001 1 PC4 - PowerPointライセンス 10,00」を選択します。

- 7 入力した内容を確定します ([終了])。
これにより、請求明細が契約にリンクされます。
- 8 ウィザードを終了します ([OK] ボタン)。
- 9 ウィザードを終了します ([終了] ボタン)。
- 10 契約を表示します ([契約/契約] メニュー)。
- 11 「PC1-004」を選択します。
- 12 特に、次のフィールドとリンクには気を付けて下さい。

フィールドまたはリンク	値
[請求明細] タブ	請求明細「1 PC4 - PowerPointライセンス 0,00 /PC4-001/」が表示されます。

13 すべてのウィンドウを閉じます。

メンテナンス契約を契約「PC4-001」に関連付ける

- 1 「PC3 - 鴨山」としてデータベースに接続していることを確認します。
- 2 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します ([ソフトウェア / ソフトウェア資産管理] メニュー) 。
- 3 現在の契約は「PC4-001」であることを確認します。
そうでない場合は選択します ([作業対象の契約を選択] ボタン) 。
- 4 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェア契約の作成/変更] オプションを選択します。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 [契約の管理] ページで、[新規メンテナンス契約を作成] をクリックします。
これにより、契約の作成ウィザード (BstCntrCreateContract) が開始します。
- 7 ウィザードのページを次のように入力します (ウィザードページの移動には [次へ]、[戻る] を使用) 。

フィールドまたはリンク	レコード
[ソフトウェア契約 PC4-001 にリンクされたメンテナンス契約を定義します。] ページ	
番号	PC4-MAINT001
オブジェクト	サポートとアップグレード
開始	01/01/2004
終了	12/31/2004
資産をメンテナンス契約にリンクする	はい
[資産を契約にリンク] ページ	
登録日	02/10/2004
削除する予定日	12/31/2004
資産のリスト	「PC4 - PowerPoint - ライセンス」を選択します。
[契約の作成ウィザード] ページ	
責任者	PC4 - 鴨山
通知アドレス	PC4 - 本社
[契約の作成ウィザード] ページ	何も入力しないでください。
[契約文書とメモ] ページ	何も入力しないでください。
[概要] ページ	

フィールドまたはリンク	レコード
契約の詳細を表示	はい

- 8 ウィザードで定義されたすべてのパラメータを確定します（[終了]ボタン）。
ウィザードによって、メンテナンス契約が作成および表示されます。
- 9 特に、次のフィールドとリンクには気を付けて下さい。

フィールドまたはリンク	値
タイプ (seType)	選択することなく、値「メンテナンス」がウィザードによって自動的に割り当てられます。
目的 (Purpose)	サポートとアップグレード
[全般] タブ	
親契約 (Parent)	契約が現在の契約「PC4-001 (PC4 - Microsoft ライセンス契約)」に自動的にリンクされま
責任者 (Supervisor)	PC4 - 鴨山
番号 (ContractNo)	PC4-MAINT001
会社 (Company)	PC4 - Microsoft
開始日 (dStart)	01/01/2004
終了日 (dEnd)	12/31/2004
通知 (tsNotice)	2ヶ月
[契約] タブ	
通知先住所 (NotiffAddress)	/PC4 - 本社/
連絡先 (Contact)	PC4 - Kramer
[資産] タブ	「PC4 - PowerPoint - ライセンス」が表示され
	れます。

- 10 すべてのウィンドウを閉じます。

メンテナンス契約を変更する

- 1 ソフトウェアの管理 (sysSamLauncher) ウィザードを起動します（[ソフトウェア/ソフトウェア資産管理]メニュー）。
- 2 現在の契約は「PC4-001」であることを確認します。
そうでない場合は選択します（[作業対象の契約を選択]ボタン）。
- 3 [ソフトウェアの管理] ページで、[ソフトウェア契約の作成/変更] オプションを選択します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 [契約の管理] ページで、[Modify a maintenance contract] (メンテナンス契約を変更) ボタンをクリックします。

これにより、現在の契約に関連付けられているメンテナンス契約の詳細画面が表示されます。

- 6 契約「PC4-MAINT001」を選択します。
- 7 下の表に示すフィールドとリンクに記入して、レコードを変更します。

フィールドまたはリンク	値
[全般] タブ	
終了日 (dEnd)	12/31/2005

- 8 これらの変更を確定します([変更] ボタン)。
- 9 すべてのウィンドウを閉じます。

5 | 電話機

AssetCenterでは、電話機は「ポートフォリオ品目」として処理されます。電話機を資産として管理する場合は、[電話機]テーブルにレコードを作成することもできます。

電話機と機能

電話機の説明にはすべての管理タイプを使用できます（▶個別管理（資産別）[参考文献6]）。

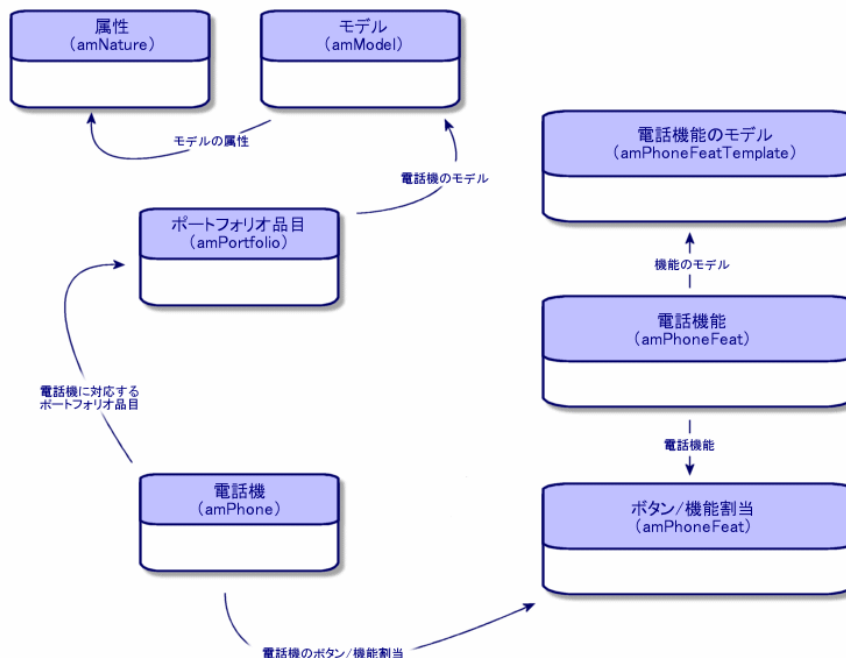
電話機管理で使用されるAssetCenterのテーブルは以下のとおりです。

- [属性] テーブル
このテーブルでは、ポートフォリオ品目のモデルは、[資産]テーブルと[電話]テーブルにレコードを作成することを指定します。
- [モデル] テーブル
このテーブルでは、[資産]テーブルと[電話機]テーブルにレコードを作成するポートフォリオ品目のモデルを作成します。
- [電話機] テーブル
このテーブルには、電話機に対応するレコードが含まれます。
- [ボタン/機能割当] テーブル
このテーブルでは、電話機のボタンに機能を割り当てます。
- [電話機能のモデル] テーブル

このテーブルでは、電話機能のモデルを作成します。

- [電話機能] テーブル

このテーブルでは、会社の電話機で使用する電話機能のリストを表示できます。



電話機の管理

AssetCenterで電話機を管理するには、以下の作業を実行します。

- [電話機] テーブルに電話機を登録する。
- 機能をボタンに関連付ける。

以下の方法で、[電話機] テーブルのレコードの詳細画面を表示できます。

- [ポートフォリオ/電話機] メニューを選択して、電話機のリストを表示します。
- [資産] テーブルで電話機に対応するレコードを選択して、[電話機] タブページをクリックします。

 **警告:**

電話機のモデルの属性で、[オーバーフローテーブル]フィールドで[電話機]を選択されていない限り、[電話機]タブページは表示されません。

電話機を作成する

電話機を作成するには、次の手順に従います。

- 1 電話機の属性を作成します。[作成]フィールドで[ポートフォリオ品目]を選択し、[オーバーフローテーブル]フィールドで[電話機]を選択します。
 - ▶ [ポートフォリオ品目の属性を作成する \[倭敵8\]](#)
- 2 電話機のモデルを作成します。
- 3 電話機に対応するレコードを[資産]テーブルで作成します。
このレコードは、[電話機]テーブルにもレコードを作成します。
- 4 [電話機]タブをクリックします。
- 5 電話機の内線番号を入力します。
- 6 必要に応じて、[ボイスメール]オプションと[スピーカ]オプションを選択します。
- 7 転送先の電話機を[転送先]リンクに入力します。このリンクは、[電話機]テーブルの他のレコードに向けられています。
- 8 [コールラインID]フィールドに電話機のCLI(コマンドラインインタフェース)番号を入力します。
- 9 [作成]をクリックして、作成を確定します。

機能をボタンに関連付ける

ある機能をボタンに関連付ける前に、まず機能のモデルおよび機能自体を作成する必要があります。

機能のモデルを作成する

機能のモデルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [管理/画面一覧]メニューを使って、電話機能のモデルのリストを表示します。
- 2 [説明]フィールドに入力して、機能のモデルを作成します。


機能を作成する

機能を作成するには、次の手順に従います。

- 1 [管理/画面一覧]メニューを選択して、電話機能のリストを表示します。
- 2 [新規作成]をクリックします。
- 3 [説明]フィールドに入力します。
- 4 上記で作成した電話機能のモデルを[モデル]リンクで選択します。
- 5 特定のコードを使って機能をオン/オフにできる場合は、[トグル動作]オプションを選択します。また、このコードを選択すると表示されるフィールドに適切なコードを入力します。
- 6 機能を使用するためにIDコードが必要な場合は、[IDコード要]オプションを選択します。

機能をボタンに関連付ける

以下の方法で、機能をボタンに関連付けます。

- 1 ポートフォリオ品目のリストを表示します（[ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]メニュー）。
- 2 電話機のレコードを選択します。
- 3 [電話機]タブをクリックします。
- 4 [機能]タブページを選択します。
- 5  をクリックします。
- 6 機能が割り当てられている最初のボタンの番号を[最初のボタン]フィールドに入力します。最初のボタンは通常「1」または「0」です。最初のボタンが「0」の場合、機能が割り当てられているボタンの合計数は、「n+ボタン0」です。
最初のボタンが「0」の場合、ボタン「5」は6番目のボタンに相当します。
- 7 [ボタン数]フィールドに、機能を割り当てることのできるボタンの数を入力します。[最初のボタン]フィールドの値が「0」の場合、ボタン「5」は6番目のボタンに相当します。
- 8 [用途]リンクでボタンに関連付ける機能を選択します。

6 作業指示とプロジェクト

ポートフォリオ品目は、作業指示の対象となり得ます（例：メンテナンス）。また、プロジェクトでポートフォリオ品目を使用することもあります（例：長期研修プログラムでコンピュータを使用する）。

作業指示

作業指示は、問題を解決するためにポートフォリオ品目に対して実行される処置です。修理、ユーザの援助、インストール、移動などがあります。

[ポートフォリオ / 作業指示]メニューを選択して、作業指示のリストを表示します。

作業指示に追加業務を関連付けるなど、階層構造（ツリー構造）を設定して管理することができます。作業指示には複数の追加業務を割り当てることができます。作業指示は、テンプレートに基づいて作成できます。このテンプレートでは、一般的な作業指示または標準的な作業指示手順を定義します。テンプレートで定義された情報は、作業指示の詳細情報に使用されます。

追加業務も作業指示とみなされます。追加業務として定義することで1つの作業指示をさらに基本的な作業指示に細分化することができます。1つの作業指示を完了するには、その作業指示を構成するすべての追加業務を実行する必要があります。

作業指示の追加業務は、1つずつ、または複数と同時に実行できます。[作業順序] (SQL名: ISequenceNumber) フィールドで、追加業務の順序を指定できます。このフィールドから次のことがわかります。

- 2つの作業指示に同じ順番が設定されている場合は、2つの作業指示を同時に実行できることを示しています。
- 数値が小さいほど、作業指示および追加業務の優先順位が高いことを示します。

 **注意:**

[作業順序] (SQL名: ISequenceNumber) フィールドは、AssetCenterの自動処理機能にはリンクしていません。このフィールドは、作業指示の実行順をユーザに示すために使います。

作業指示のタイプ

作業指示の詳細画面の [全般] タブページにある [タイプ] (SQL名: seType) フィールドは、作業指示のタイプを示します。このフィールドは、システムのリストデータに関連付けられています。

このフィールドで選択した作業指示のタイプによって、作業指示の詳細画面の [トラッキング] タブページの内容が次のように異なります。

内部メンテナンス

[トラッキング] タブページ / [技術者] サブタブページの [内部技術者] (SQL名: Technician) フィールドと [グループ] (SQL名: EmplGroup) フィールドで、技術者とグループを指定できます。

契約メンテナンス

一般に、契約内で実行されるすべての作業指示用に、請求書は発行されません。

- [トラッキング] タブページ / [技術者] サブタブページ / [契約] (SQL名: Contract) フィールドで、作業指示に関連する契約を選択できます。このフィールドのドロップダウンリストには、作業指示の対象となるポートフォリオ品目に関連する契約のみが表示されます。
- [トラッキング] タブページ / [技術者] サブタブページの [技術者] (SQL名: Contact) フィールドと [会社] (SQL名: Supplier) フィールドで、技術者と会社を選択できます。[会社] (SQL名: Supplier) フィールドに先に入力すると、[技術者] (SQL名: Contact) フィールドのドロップダウンリストには、その会社の技術者名 (連絡先) のみが表示されます。

契約外メンテナンス

このタイプの作業指示は、既存のメンテナンス契約の範囲を超える作業指示か、または契約していない会社によって実行される作業指示です。一般に、このような場合は請求書が発行されます。

- 既存のメンテナンス契約の範囲を超える作業指示の場合は、[トラッキング] タブページ / [技術者] サブタブページ / [契約] (SQL名: Contract) フィールドで契約を指定できます。このフィールドのドロップダウンリストには、作業指示の対象となるポートフォリオ品目に関連する契約のみが表示されます。
- 作業指示の詳細画面にある[トラッキング] タブページ / [技術者] サブタブページ / [技術者] (SQL名: Contact) フィールドで、すべての業者の連絡先リストから技術者を選択できます。[サプライヤ] (SQL名: Supplier) フィールドに先に入力した場合は、その会社だけの連絡先リストから選択できます。

作業指示のプロセス

作業指示のライフサイクル

作業指示のライフサイクルは、次の通りです。

図 6.1. 作業指示のライフサイクル



このサイクルの各過程は、特定の日付に発生するか、または予定された日に実行されます。特定の段階に進むと、[ステータス] (SQL名: seStatus) フィールドが変更します。

表 6.1. 作業指示時のステータス

段階	ステータス
問題発生への報告 (作業指示依頼の通知)	[報告済]
作業指示の開始	[進行中]

段階

作業指示の終了


ステータス

[クローズド]

作業指示の詳細画面の [トラッキング] タブページ / [カレンダ] サブタブページでは、作業指示を依頼した日付、開始予定日、実際の作業開始日など、様々な段階の日付を指定できます。

作業指示のステータスと自動処理機能

作業指示の詳細画面上部にある [ステータス] (SQL名: seStatus) フィールドには、その作業指示のステータスが表示されます。このフィールドは、作業指示伝票の [トラッキング] タブページ / [カレンダ] サブタブページで指定された日付や、ユーザがコマンドボタンをクリックして実行したアクションによって、自動的に計算されます。

- デフォルトでは、作業指示のステータスは [報告済] になります。
- [開始予定日] (SQL名: dtSchedFixStart) フィールドに入力すると、ステータスは [作業日確定済] に変わります。
- 次の場合は、ステータスが [進行中] に変わります。
 - [作業開始日] (SQL名: dtActualFixStart) フィールドに入力した場合。
 - ユーザが  ボタンをクリックした場合。
 - 作業指示のいずれかの追加業務のステータスが [進行中] になった場合。
- 次の場合は、作業指示のステータスが [クローズド] に変わります。
 - [合計実働時間] (SQL名: tsCumulLaborHours) フィールドに入力した場合。
 - ユーザが [クローズ] ボタンをクリックした場合。
 - 作業指示のすべての追加業務のステータスが [クローズド] になった場合。

作業指示のトラッキング

作業指示の詳細画面の [トラッキング] タブページを使うと、作業指示のスケジュールと実行を正確に管理できます。

このタブページは、さらに次のタブページに分かれています。

- [技術者] タブページ: 作業指示のタイプ、作業指示の担当者に関する情報を入力できます。
- [追加業務] タブページ: 作業指示を複数の追加業務に分割して、階層構造にすることができます。これらの追加業務は、各追加業務の [作業順序] (SQL名: lSequenceNumbe) フィールドの値に従って、同時または順番に実行することもできます。
- [カレンダ] タブページ: 作業指示の実行スケジュールを入力します。解決予定日、実際の作業日、業者に連絡した日付 ([契約メンテナンス] または

[契約外メンテナンス] タイプの契約の場合)などを指定できます。作業指示の各作業の実行日と制限時間を計算するのに使用する業務用カレンダーも選択できます。

- [クローズ] タブページ：作業指示の終了に関連する情報を入力します。


作業指示の管理

使いやすさのために、[作業指示] テーブルの [資産] フィールドに関連するリンクをカスタマイズし、仮想的な階層を作成することをお勧めします。

資産に関連するリンクの表示をカスタマイズするには、以下の手順に従います。

- 1 [資産] フィールドを右クリックします。
- 2 [リンクエディタのプロパティ / グループ / グループ分けを選択] を選択します。
- 3 表示されるウィンドウで、資産に関連するモデルを選択します ([モデル] リンク)。

資産のリストが、関連するモデルに応じて階層的に表示されます。

- 1 問題が報告されたら、次の2つの方法のいずれかを使って作業指示レポートを作成します。
 - [ポートフォリオ / 作業指示] メニューを使って作業指示のリストを表示し、[新規作成] ボタンをクリックします。
 - 資産の詳細画面で [メンテ (メンテナンス)] タブページを選択してから  をクリックし、作業指示レポートを追加します。
- 2 作業指示を作成します。
- 3 技術者は、適切なフィルタ ([技術者] (SQL名: Contact)、[会社] (SQL名: Supplier)、[メンテナンス業者No.] (SQL名: MaintNumber)、[ステータス] (SQL名: seStatus)、[優先度] (SQL名: Priority) などのフィールドを組み合わせたフィルタ) を使ってビューまたは作業指示リストを表示し、自分に関係のある作業指示を見つけることができます。
- 4 管理者は、次のようなビューやフィルタを使うと、進行中の作業を定期的に分析できます。
 - まだ予定が組まれていない作業指示：ステータス = [報告済]
 - 遅れている作業指示：ステータス = [作業日確定済] と [開始予定日] (SQL名: dtSchedFixStart) < 今日の日付
 - 進行中の作業指示：ステータス = [進行中]
 - ステータスが [進行中] の、技術者、サプライヤ、または契約別作業指示リスト
- 5 管理者は、ビューまたはフィルタを使って、完了した作業を定期的に分析できます。
 - 見込作業時間と実作業時間の差
 - 依頼内容の解決に要した時間の分析

- メンテナンス業者に連絡した日付と最初に作業指示を依頼した日付の差（契約に指定されている日付との比較）

プロジェクト

プロジェクトでは、プロジェクトに関わる資産や従業員のグループに関する情報を入力できます。

プロジェクトを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [ポートフォリオ/プロジェクト]メニューを選択して、プロジェクトのリストを表示します。
- 2 [新規作成]ボタンをクリックして、新しいプロジェクトを作成します。
- 3 [全般]タブページのフィールド、特に、プロジェクトの終了日を入力し、必要に応じてアラーム🔔を設定します。
- 4 [資産]タブページで、プロジェクトで使う資産を追加します。
- 5 [従業員]タブページで、プロジェクトに関連する従業員を指定します。
- 6 後日、プロジェクトに他の資産を追加する必要がある場合は、追加する資産の詳細画面の[プロジェクト]タブページ、またはプロジェクトの詳細画面の[資産]タブページで追加します。
- 7 現在のプロジェクトのステータスを定期的にチェックします。フィルタとビューを使うと、この作業を簡単に行うことができます。[開始]（SQL名：dStart）、[終了]（SQL名：dEnd）、および[ステータス]（SQL名：Status）フィールドを組み合わせると、現在進行中のプロジェクトや遅れているプロジェクトなどを表示できます。

7 | 調整項目

調整項目とは、特定のレコードの1つまたは複数のフィールドを調整するためのレコードを指します。

調整項目とターゲット項目

調整項目は、1つまたは複数のターゲット項目のフィールドを調整します。以下のタイプの調整項目があります。

- ポートフォリオ品目
- 作業指示
- 契約
- 研修
- ケーブル

ターゲット項目は、調整項目に関連付けられています。

例：レコード「モニタ」（調整項目）は、これにリンクされているコンピュータ（ターゲット項目）のモニタ数を更新します。

調整項目のモデルで調整タイプを指定します。以下の3つの調整タイプが使用可能です。

- 追加

例：ポートフォリオで256 MBのRAMを作成すると、このRAMがインストールされているコンピュータの [メモリ] フィールドの値に256が加算されます。

- 削減

例：ある資産に対して10時間の作業指示が作成されると、同資産の最初の作業指示の [期間] フィールドの値から「10」が引かれます。

- 交換

例：資産に関連する契約を新たに作成すると、古い契約が交換されます。

調整プロセスで主に使用されるテーブルは、以下のとおりです。

- [属性] テーブル (amNature)

このテーブルでは、調整項目のモデルの属性を定義します。

- [モデル] テーブル (amModel)

このテーブルでは、調整項目のモデルを定義します。調整タイプはこれらの各モデルを定義しています。

- [調整タイプ] テーブル (amFieldAdjustTempl)

調整タイプには、以下の情報が含まれます。

- 調整項目のテーブル (ポートフォリオ品目、作業指示、契約、研修、ケーブル)

- 調整項目からターゲット項目へのリンク (このリンクが調整をトリガします)

例：調整項目をその親項目にリンクする (プリンタをコンピュータにリンクする)

- ターゲット項目で変更するフィールド

ターゲット項目のレコードに含まれているフィールド、またはターゲット項目のレコードに直接 / 間接的にリンクされているフィールドを選択できます。

- フィールドを調整する値を指定するスクリプト

- [被調整フィールド] テーブル (amFieldAdjustment)

被調整フィールドのレコードには、以下の情報が含まれています。

- 調整日

- 調整前の値

- 調整後の値

- ターゲットレコードのテーブルからアクセス可能な一連のリンク

- [調整項目] テーブル (amAdjustment)

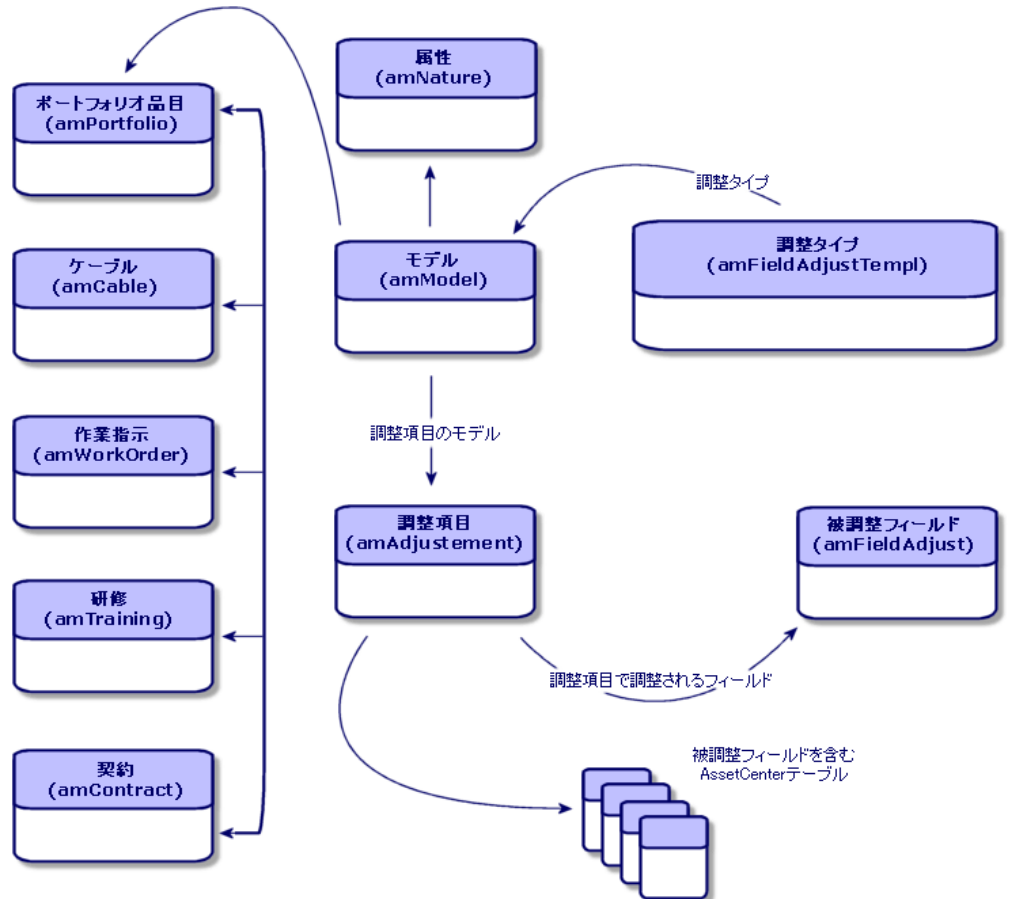
このテーブルには、データベースに作成された調整項目が含まれます。

- '[ポートフォリオ]、[ケーブル]、[作業指示]、[研修]、[契約] テーブル

これらのテーブルには、調整項目になり得る項目のレコードが含まれます。

- AssetCenterのテーブルすべて

AssetCenterのテーブルすべてに調整のターゲット項目が含まれます。直接リンクまたは間接リンクを使って、調整項目のレコードは、AssetCenterの全テーブルの全フィールドを調整できます。



調整項目を使用する

調整項目を使ってフィールドを調整するには、以下の手順を踏む必要があります。

- 1 調整項目のモデルを作成する。
- 2 このモデルで調整タイプを定義する。

- 3 調整項目を作成する。
- 4 調整をトリガするリンクを作成する。

調整項目のモデルを作成する

▶ ポートフォリオ品目のモデルを作成する [倭融0]




注意:

属性で何も作成しないと定義されているモデル（属性の詳細画面の [作成] フィールドで [なし] が選択されている）以外のすべてのモデルが調整項目のモデルになり得ます。

調整タイプを定義する

調整項目があるフィールドを調整するよう設定するためには、調整項目のモデルで、同フィールドの調整タイプを定義する必要があります。調整タイプを定義するには、次の手順に従います。

- 1 モデルのリストを表示します（ [ポートフォリオ/モデル] メニュー）。
- 2 調整項目のモデルを選択します。
- 3 [調整タイプ] タブをクリックします。
- 4  をクリックします。
- 5 [被調整フィールド] フィールドに以下の値を入力します。
 - ターゲット項目へのリンク（フィールドの調整をトリガするリンク）
 - 被調整フィールドを指定する完全パス（リンクまたは一連のリンク）

```
Parent.Computer.LMemorySizeMb
```

例：ポートフォリオの調整項目に対しては、[被調整フィールド] フィールドに以下のように入力します。

「Parent」は調整をトリガするリンクです。具体的には、調整項目を [ポートフォリオ品目] テーブルの親レコード（ターゲット項目）にリンクします。

「Computer.LMemorySizeMb」は、被調整フィールド [LMemorySizeMb] へのパスを指定します。

- 6 [処理] フィールドで調整タイプ（交換、追加、または削減）を選択します。
- 7 [ソース] フィールドに調整値を返すスクリプトを入力します。

```
RetVal = [Model.fv_memoire_barrette]
```

例：追加の場合、このスクリプトは、調整項目のモデルの

「fv_memory_module」フィールドの値が被調整フィールドの値に追加されるよう指定します。

- 8 [追加] ボタンをクリックして、調整タイプの作成を確定します。

調整項目を作成する

▶ 資産を作成する [修繕3]

ここでは、資産に対応するポートフォリオ品目の作成方法を説明します。

ポートフォリオ品目以外の調整項目を作成する方法については、その他のマニュアルを参照してください（例えば、契約が調整項目となる場合は、マニュアル『契約』を参照します）。

調整をトリガするリンクを作成する

フィールドを調整するには、調整タイプでリンクを作成する必要があります。

調整項目がポートフォリオ品目であり、調整をトリガするリンクが [親レコード] (SQL名: Parent) リンクである場合、以下の操作を実行します。

- 1 [ポートフォリオ品目] テーブルから調整項目を選択します。
- 2 [全般] タブをクリックします。
- 3 [親レコード] リンクを入力または作成します。
- 4 ターゲット項目のフィールドが適切に調節されたことを確認します。

フィールドを調整する - 例

ここでは、調整項目 (256 MBのRAM) を使って、コンピュータレコードの [メモリ] フィールドを調整する方法を説明します。

[ポートフォリオ品目] テーブルの [親レコード] (SQL名: Parent) リンクを使って、コンピュータとRAM間のリンクを作成すると、コンピュータの [メモリ] フィールド (SQL名: IMemorySizeMb) の値に256 MBのメモリが追加されません。

例の詳細

調整項目	[ポートフォリオ品目] テーブルの「256 MBのRAM」レコード
ターゲット項目	[ポートフォリオ品目] テーブルの「ターゲットコンピュータ」レコード


例の詳細

被調整フィールド	「ターゲットコンピュータ」レコードの [メモリ] (SQL名: IMemorySizeMb) フィールド
調整タイプ	RAMの値をコンピュータのメモリに追加
調整をトリガするリンク	RAMとコンピュータ間の [親レコード] (SQL名: Parent) リンク


1 - ターゲット項目を作成する

- 1 属性のリストを表示します ([ポートフォリオ / 属性] メニュー)。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [名前] (SQL名: Name) フィールドに「コンピュータ」と入力します。
- 4 [オーバーフローテーブル] (SQL名: seOverflowTbl) フィールドで [コンピュータ] を選択します。
属性の作成方法: ▶ [コンピュータの属性を作成する](#) [修験7]
- 5 [作成] をクリックします。
- 6 モデルのリストを表示します ([ポートフォリオ / モデル] メニュー)。
- 7 [新規作成] をクリックします。
- 8 [名前] (SQL名: Name) フィールドに「ターゲットコンピュータ」と入力します。
- 9 [属性] (SQL名: Nature) リンクで「コンピュータ」を選択します。
モデルの作成方法: ▶ [コンピュータのモデルを作成する](#) [修験8]
- 10 [作成] をクリックします。
- 11 ポートフォリオ品目のリストを表示します ([ポートフォリオ / ポートフォリオ品目] メニュー)。
- 12 [新規作成] をクリックします。
- 13 [モデル] (SQL名: Model) リンクで「ターゲットコンピュータ」を選択します。
- 14 [作成] をクリックします。
オーバーフローテーブル: ▶ [オーバーフローテーブル](#) [修験8]
コンピュータの作成方法: ▶ [コンピュータを作成する](#) [修験9]
モデルがコンピュータであるポートフォリオ品目を作成すると、[コンピュータ] テーブルにもレコードが同時に作成されます。
- 15 [コンピュータ] タブにある [ハードウェア] サブタブを選択します。
- 16 [メモリ] (SQL名: IMemorySizeMb) フィールドに「256」と入力します。
- 17 [変更] をクリックします。

2 - 任意管理項目「RAM」を [モデル] テーブルに追加する



- 1 任意管理項目のリストを表示します（ [管理 / 任意管理項目] メニュー）。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [タイトル]（SQL名：TextLabel）フィールドに「RAM」と入力します。
- 4 [入力] タブをクリックします。
- 5 [入力タイプ]（SQL名：seDataType）フィールドで [数値] を選択します。
- 6 [作成] をクリックします。
- 7 [パラメータ] タブをクリックします。
- 8  をクリックします。
- 9 [テーブル]（SQL名：TableName）フィールドで「モデル（amModel）」を選択します。
- 10 [制限] タブを選択します。
- 11 [使用可能]（SQL名：seAvailable）フィールドで [はい] を選択します。
- 12 [追加] をクリックします。
- 13 任意管理項目のリストが再度表示されます。
- 14 [変更] をクリックします。

3 - 調整項目を作成する

- 1 属性のリストを表示します（ [ポートフォリオ / 属性] メニュー）。
- 2 [新規作成] をクリックします。
- 3 [名前]（SQL名：Name）フィールドに「調整」と入力します。
- 4 [作成]（SQL名：seBasis）フィールドで「ポートフォリオ品目」が選択されていることを確認します。
属性の作成: [ポートフォリオ品目の属性を作成する \[倭敵8\]](#)。
- 5 [作成] をクリックします。
- 6 モデルのリストを表示します（ [ポートフォリオ / モデル] メニュー）。
- 7 [新規作成] をクリックします。
- 8 [名前]（SQL名：Name）フィールドに「256 MBのRAM」と入力します。
- 9 [属性]（SQL名：Nature）リンクで「調整」を選択します。
- 10 [任意管理項目] タブをクリックします。
- 11  をクリックします。
- 12 任意管理項目「RAM」を選択します。

- 13 [OK] をクリックします。
- 14 この任意管理項目の値を「256」に指定します。
- 15 [作成] をクリックします。
- 16 ポートフォリオ品目のリストを表示します（[ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]メニュー）。
- 17 [新規作成] をクリックします。
- 18 [モデル]（SQL名：Model）リンクで「256 MBのRAM」を選択します。
- 19 [作成] をクリックします。

4 - 調整項目のモデル用の調整タイプを作成する

- 1 モデルのリストを表示します（[ポートフォリオ/モデル]メニュー）。
- 2 モデル「256 MBのRAM」を選択します。
- 3 [調整タイプ] タブをクリックします。
- 4  をクリックします。
- 5 [被調整フィールド]（SQL名：TargetField）フィールドに「Parent.Computer.IMemorySizeMb」と入力します。
 を使って、[コンピュータ] テーブルの [メモリ]（SQL名：IMemorySizeMb）フィールドへの同リンクを見つけることも可能です。
- 6 スクリプトの [ソース] フィールドに「RetVal=[Model.fv_memoire_barrette]」と入力します。
- 7 [処理]（SQL名：seOperation）フィールドで [追加] を選択します。
- 8 [追加] をクリックします。
- 9 [変更] をクリックします。


5 - 調整をトリガする

- 1 ポートフォリオ品目のリストを表示します（[ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]メニュー）。
- 2 「256 MBのRAM」レコードを選択します。
- 3 [全般] タブをクリックします。
- 4 [親レコード] リンクで、調整の対象となる「ターゲットコンピュータ」レコードを選択します。
- 5 [変更] をクリックします。

6 - 調整を確認する

- 1 コンピュータのリストを表示します（ [ポートフォリオ/コンピュータ] メニュー）。
- 2 「ターゲットコンピュータ」レコードを選択します。
- 3 [ハードウェア] タブをクリックします。
- 4 [メモリ]（SQL名：IMemorySizeMb）フィールドの値が「512（256+256）」であることを確認します。

7 - 被調整フィールドに関する詳細情報

- 1 コンピュータのリストを表示します（ [ポートフォリオ/コンピュータ] メニュー）。
- 2 「ターゲットコンピュータ」レコードを選択します。
- 3 [被調整フィールド] タブをクリックします。
- 4 [メモリ]（SQL名：IMemorySizeMb）フィールドに対応するレコードを選択します。
- 5  をクリックして、被調整フィールドに関する以下のような詳細情報を確認します。
 - 調整日
 - 調整前のフィールド値
 - その他

8 | 用語解説

本章では、ポートフォリオ管理で使用される用語を解説します。

 注意:

下記の用語は、あいうえお順では記載されていません。

ポートフォリオ品目

属性

[属性] テーブルのレコードは、モデルを基にして作成されるレコードのタイプを特定します。モデルを作成する際には、これの基になる属性を指定しなくてはなりません。

以下のタイプのレコードのモデルに対応する属性が存在します。

- ポートフォリオ品目
- 作業指示
- 契約
- 研修
- ケーブル

[属性]テーブルで属性を作成するときに特定のパラメータを設定すると、この属性を基にするモデルに影響が及びます。例えば、[管理条件]（SQL名：seMgtConstraint）フィールドで[個別管理しない]を選択すると、[資産]テーブルに記録されないポートフォリオ品目のモデルを作成できます。

モデル

[モデル]テーブルのレコードを使うと、以下のテーブルにレコードを作成できます。

- [ポートフォリオ品目]テーブル
ポートフォリオ品目が作成されると、以下のオーバーフローテーブルにもレコードが同時作成される場合があります。
 - [資産]テーブル
 - [コンピュータ]テーブル
 - [電話機]テーブル
 - [インストール済ソフトウェア]テーブル
- [作業指示]テーブル
- [契約]テーブル
- [研修]テーブル
- [ケーブル]テーブル

ポートフォリオ品目を作成する時、この品目の基になるモデルを必ず指定する必要があります。モデル用に入力したデータは、ポートフォリオ品目のレコードに自動的にコピーされます。例えば、コンピュータのプロセッサのタイプ、適用される税率、契約の期間などの情報がコピーされます。

[モデル]テーブルの階層構造に基づいて、ポートフォリオは構成されます。一般的なモデルをまず作成し、これにより詳細な従属モデルを含めるようお勧めします（例：プリンタ/レーザプリンタ/Laserjet 8000DN）

ポートフォリオ品目

ポートフォリオ品目はその基になるモデルの特質を継承します。各ポートフォリオ品目の価値に応じて、モデルの属性で管理条件を指定します。管理条件を指定すると、資産、トラッキングするロット、またはトラッキングしないロットとしてポートフォリオ品目が作成されます。ポートフォリオ品目の基になるモデルの属性でオーバーフローテーブルを指定すると、このポートフォリオ品目を作成する時に、オーバーフローテーブルにもレコードが同時作成されます。以下のオーバーフローテーブルが存在します。

- [資産]テーブル
- [コンピュータ]テーブル

- [電話機] テーブル
- [インストール済ソフトウェア] テーブル

資産

[資産] テーブルのレコードは、高価値のポートフォリオ品目のことを指し、個別にトラッキングされます。各資産には2つのレコードがリンクされます（[ポートフォリオ品目] テーブルのレコードと [資産] オーバーフローテーブルのレコード）。ポートフォリオ品目の基になるモデルの属性の画面にある [管理条件]（SQL名：seMgtConstraint）フィールドで [固有資産タグ] を選択すると、ポートフォリオ品目が作成されるのと同時に、[資産] テーブルにもレコードが作成されます。

資産は必ずポートフォリオ品目ではありますが、ポートフォリオ品目は必ずしも資産であるとは限りません。

オーバーフローテーブル

あるテーブルにレコードが作成されると、別のテーブルにもレコードが同時に作成される場合があります。後者のテーブルを、「オーバーフローテーブル」と呼びます。

AssetCenterでは、ポートフォリオ品目の基になるモデルの属性を作成する際に、オーバーフローテーブルを指定できます。[ポートフォリオ品目] テーブルにレコードを作成すると、オーバーフローテーブルにもレコードが同時作成されます。以下のオーバーフローテーブルが存在します。

- [資産] テーブル
- [コンピュータ] テーブル
- [電話機] テーブル
- [インストール済ソフトウェア] テーブル

ロット

ロットは複数の同一な品物から構成されています。ロットの数量は、品数（椅子100脚のロット）で表記される場合と、単位（砂1トンのロット）で表現される場合があります。1ロットを作成すると、リンクされるレコードが2つ作成されます。つまり、[ポートフォリオ品目] テーブルと [資産] テーブルの各々にレコードが作成されます。ポートフォリオでは1つのロットを複数のロットに分割することができます。例えば、分割されたロットを異なる場所に割り当てることが可能です。分割が行われると、2番目のロットのレコードが作成されます。元のロットのレコードの数量は、2番目のロットに含まれる数量分減少します。例えば、椅子100脚のロットから椅子10脚が別の部署に移動されたと仮定します。

元のロットの数量は90脚に減少し、作成された2番目のレコードには椅子10脚が含まれます。

トラッキングしないロット

トラッキングしないロットは、[資産]テーブルで対応するレコードを持ちません。トラッキングしないロットを作成するには、ロットの属性で管理条件「個別管理しない」を選択する必要があります。低価値のポートフォリオ品目（消耗品やサプライ品）をトラッキングしないロットとして指定します。トラッキングしないロットに関するトラッキング情報は記録されません。トラッキングしないロットをトラッキングするロットに変換するには、[資産]テーブルに対応するリンクレコードを作成します（[ポートフォリオ品目]テーブルで[タグ]ボタンを使用する）。

消耗品

消耗品はポートフォリオ品目です。消耗品を作成するためには、基になるモデルの属性で[消耗品]オプションを選択します。

管理条件

ポートフォリオ品目の管理条件は、その属性のレコードで指定されます。どの管理条件を選択するかにより、ポートフォリオ品目に資産タグが割り当てられるかが決まります。資産タグの付いたポートフォリオ品目は、[ポートフォリオ品目]テーブルと[資産]テーブルに自動的に登録されます。

ソフトウェアの管理（sysSamLauncher）ウィザードを起動します（[ソフトウェア/ソフトウェア資産管理]メニュー）。

- 固有資産タグ
この制限条件は、ポートフォリオの資産に適用されます。資産には固有資産タグが割り当てられます。
- 資産タグ
この制限条件は、トラッキングするロットに適用されます。トラッキングするロットが作成されると、これに資産タグが割り当てられます。あるロットとその従属ロットは同一の資産タグを共有します（親ロットと従属ロットは、[資産]テーブルで同じレコードを参照します）。
- 個別管理しない
この制限条件は、トラッキングしないロットに適用されます。トラッキングしないロットには作成時に資産コードが割り当てられません。トラッキングしないロットは、[資産]テーブルでレコードを参照しません。トラッキン

グしないロットに資産コードを割り当てて、トラッキングするロットに変換することは常時可能です。

管理タイプ

AssetCenterでは、ポートフォリオ品目の管理タイプが3つ存在します。

- 個別管理
資産用に使用されます。各資産は個別にトラッキングされます。
- 一括管理
ロットに使用されます。ロットに含まれる品物は、[資産]テーブルで個別ではなく、ロット単位でトラッキングされます。例えば、ロットの取得価格は、ロットに含まれる各品物の1つ1つの価格ではなく、ロット全体の価格です。
- 非個別管理
トラッキングしないロットに使用されます。トラッキングしないロットは、[ポートフォリオ品目]テーブルのみに記録されます。しかし、トラッキングしないロットに資産タグを割り当てると、トラッキングするロットとして集合的に管理できます。また、ロットが1品しか含まない場合は、資産として個別に管理することも可能です。

トラッキング

[資産]テーブルのレコードは以下の3つの分野でトラッキングされます。

- 技術情報のトラッキング
例：コンピュータのハードウェア情報
- 財務情報のトラッキング
例：資産の減価償却方法
- 契約情報
例：サーバのメンテナンス契約

在庫

在庫は、割当待ちのポートフォリオ品目が含まれます。AssetCenterに在庫規則を関連付けると、再補充が必要な場合に購入依頼が自動的にトリガされます。

割当

ポートフォリオ品目の割当は、ポートフォリオにおけるポートフォリオ品目のステータスを指定します。AssetCenterでは次の割当ステータスが使用可能です：
[使用中]、[在庫中]、[除却済]、[納品待ち]、[メンテナンスのため返却]、[サプライヤに返却]、[紛失]

数量

数量はロット単位で管理するポートフォリオ品目の特徴の1つです。ロットの数量は、品数（椅子100個のロット）で表記される場合と、単位（砂1トンのロット）で表現される場合があります。ロットのモデルを使用すると、数量を指定しつつ異なる複数のロットを作成できます。

ソフトウェア

インストール済ソフトウェア

インストール済ソフトウェアは、データベースではポートフォリオ品目で表されません。

ソフトウェアがコンピュータに物理的にインストールされている場合、コンピュータのコンポーネントとして宣言することができます。

ソフトウェアが物理的なインストールを必要としない場合、ユーザと関連付けることができます。

ソフトウェアライセンス

ソフトウェアライセンスは、ユーザの権利（可能なインストール数、データベースアクセス数など）を記述する資産です。

例: AssetCenterデータベースへの1000個のアクセス権を与えるライセンス。

ライセンスの契約に関する側面は、契約レベルで記述されます。

ライセンス / 資格権限

ソフトウェアカウンタは、ライセンス / 資格をカウントし、インストール / 使用のカウント結果と比較します。

ソフトウェアカウンタ

ソフトウェアカウンタは、権限カウントとインストール / 使用カウントの間の調整に用いられます。

これらのカウントは、（ユーザ、コストセンタなどによって）グループにまとめることができます。

カウンタを使えば以下のことが可能です。

- ソフトウェアプロバイダとの適合性の検証
- 内部方針との適合性の検証

カウンタを使えば、ソフトウェア以外のものも容易にカウントできます。

特定資格

ソフトウェアカウンタは、権限とインストール / 使用をカウントします。

権限については、カウントの元になるレコードを単純なクエリで識別することが多くの場合に可能です（例えば、会計部署の全従業員）。

ただし、単純なクエリを定義することが常に可能だとは限りません（例えば、使用するレコードに共通する要素がない場合）。

この場合、選択するレコードを1つ1つ記載した特定資格を定義する必要があります。

棚卸しされたモデルの正常化

棚卸しされたモデルの正常化とは、棚卸データベースのソフトウェアインストールモデルをAssetCenterの限られた数のソフトウェアインストールモデルにマッピングすることです。

これにより、簡単で効果的な方法でソフトウェアインストールを整理し構成することができます。

ITIL

ITIL（ITインフラストラクチャライブラリ）はITサービス管理手法です。

単純カウンタの作成

多数の機関がITILのトレーニングおよび認定と共にコンサルタントサービスを提供しています。

プロジェクト

プロジェクト

プロジェクトは、ポートフォリオ品目や従業員に関連付けられています（例：ある部署を複数の部署に分割する）。AssetCenterでは、企業のあらゆるプロジェクトを正確にトラッキングできます。プロジェクトは、契約や作業指示を必要とすることもあります。

9 | 参考情報

メニューとタブページ

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールでは、多数のメニューを使用します。

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールに直接関連するメニューは以下のとおりです。

表 9.1. ポートフォリオモジュールのメニューとタブページ - 一覧

サブメニュー	アクセスする テーブル(テー ブル名とSQL 名)	専用のタブ、 フィールドまた はリンク	コメント	関連するマニ ュアルの章
[ファイル]メニュー				

サブメニュー	アクセスする テーブル（テー ブル名とSQL 名）	専用のタブ、 フィールドまた はリンク	コメント	関連するマニ ュアルの章
モジュールの起 動	N/A	N/A	ライセンスファ イルで承認され ている場合は、 ポートフォリオ モジュールを有 効または無効に することができ ます。	マニュアル『は じめに』の 「ユーザのコン ピュータで AssetCenterをカ スタマイズす る」の章、「モ ジュールを起動 する」の節を参 照してくださ い。
[ポートフォリオ]メニュー				
ポートフォリオ 品目	ポートフォリオ 品目 (amPortfolio)	■ すべて		ポートフォリオ 品目 [修 87]
資産とロット	資産 (amAsset)	■ すべて		資産 [修 82] ロット [修 86] トラッキングし ないロット [修 80]
コンピュータ	コンピュータ (amComputer)	■ すべて		ITポートフォリ オ [修 87]
電話機	電話機 (amPhone)	■ すべて		電話機 [修 91]
社内依頼	依頼 (amRequest)	■ [交換] タ ブ		ポートフォリオ 品目の移動 [修 87]
属性	属性 (amNature)	■ すべて		属性 [修 87]
モデル	モデル (amModel)	■ すべて		モデル [修 80]
依頼テンプレ ート	依頼 (amRequest)	■ [交換] タ ブ		ポートフォリオ 品目の移動 [修 87]
メーカー	メーカー (amBrand)	■ すべて		ポートフォリオ 品目のモデルを 作成する [修 80]

サブメニュー	アクセスする テーブル(テー ブル名とSQL 名)	専用のタブ、 フィールドまた はリンク	コメント	関連するマニ ュアルの章
場所	場所 (amLocation)	<ul style="list-style-type: none"> [ポート フォリオ] タブ 		ポートフォリオ 品目の説明とト ラッキング情報 [修献1]
部署と従業員	従業員 (amEmplDept)	<ul style="list-style-type: none"> [ポート フォリオ] タブ 		ポートフォリオ 管理の主要テー ブル [修献7]
特定資格	特定資格 (amEntitlement)	<ul style="list-style-type: none"> すべて 		方法2：メ ニューを使用す る [修献00]
プロジェクト	プロジェクト (amProject)	<ul style="list-style-type: none"> [資産] タ ブ 		プロジェクト [修献00]
在庫	在庫 (amStock)	<ul style="list-style-type: none"> すべて 		在庫 [修献2]
作業指示	作業指示 (amWorkOrder)	<ul style="list-style-type: none"> [消耗品] タブ 		作業指示 [修献95]
[調達] メニュー				
購入依頼	依頼 (amRequest)	<ul style="list-style-type: none"> [交換] タ ブ [配達先在 庫] (SQL 名： Stock) リンク 		ポートフォリオ 品目の移動 [修献7]
発注と見積	発注 (amOrder)	<ul style="list-style-type: none"> [配達先在 庫] (SQL 名： Stock) リンク 		在庫 [修献2]
受領	受領 (amReceipt)	<ul style="list-style-type: none"> [配達先在 庫] (SQL 名： Stock) リンク 		在庫 [修献2]
[契約] メニュー				
契約	契約 (amContract)	<ul style="list-style-type: none"> [資産] タ ブ [資産 (リー ス)] タブ 		資産を契約に関 連付ける [修献0]

サブメニュー	アクセスする テーブル（テー ブル名とSQL 名）	専用のタブ、 フィールドまた はリンク	コメント	関連するマニ ュアルの章
一括発注	契約 (amContract)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ [資産] タブ ▪ [資産 (リース)] タブ 		資産を契約に関連付ける [修 40]
マスターリース	契約 (amContract)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ [資産] タブ ▪ [資産 (リース)] タブ 		資産を契約に関連付ける [修 40]
リース明細	契約 (amContract)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ [資産] タブ ▪ [資産 (リース)] タブ 		資産を契約に関連付ける [修 40]
返却 - 期間満了	返却 (amReturnEnv)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ [資産] タブ 		資産を契約に関連付ける [修 40]
[ファイナンス] メニュー				
固定資産	固定資産 (amFixedAsset)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ [資産] タブ 		資産に関する財務情報のトラッキング [修 43]
[ツール] メニュー				
アクション / 編集	アクション (amAction)	N/A		マニュアル『はじめに』の「参考情報」の章、「アクション」の節を参照してください。
アクション / < 前 >	N/A	N/A	コンテキストアクションまたはコンテキスト外アクションにアクセスできません。 選択されたアクションをトリガします。	アクションとウィザード [修 41]

サブメニュー	アクセスする テーブル(テー ブル名とSQL 名)	専用のタブ、 フィールドまた はリンク	コメント	関連するマニ ュアルの章
ツールバーのカ スタマイズ	N/A	N/A	ツールバーに対 して、アイコン を追加または削 除できるよう になります(ポ ートフォリオカテ ゴリ)。	ツールバーのア イコン [修 628]
レポート機能/ レポート	レポート (amReport)	N/A	印刷可能なレ ポートにアクセ スできます。	レポートと書式 [修 650]
レポート機能/ 書式 [管理]メ ニュー	内部用書式 (amForm)	N/A		レポートと書式 [修 650]
画面一覧	N/A	N/A	メニューからア クセスできない テーブルを表示 します。 このようなテー ブルは直接変更 してはならない ため、管理者の みが同メニュー にアクセスでき ます。	マニュアル『は じめに』の「レ コードリスト」 の章、「リスト を使う」の節を 参照してくださ い。
リストデータ	リストデータ (amItemizedList)	N/A		リストデータ [修 638]
カウンタ	カウンタ (amCounter)	N/A		カウンタ [修 641]
特殊フィールド	特殊フィールド (amCalcField)	N/A		特殊フィールド [修 640]
接続タイプ	接続タイプ (amCnxType)	すべて		コンピュータ間 の接続 [修 661] 接続を作成する [修 663]

表 9.2. ソフトウェアライセンスモジュールのメニューとタブ - 一覧

サブメニュー	アクセスする テーブル (テー ブル名とSQL 名)	専用のタブ、 フィールド、ま たはリンク 名)	コメント	関連するマニ ユアルの章
[ファイル] メニュー				
モジュールの起 動	N/A	N/A	ライセンスファ イルで承認され ている場合は、 ソフトウェアラ イセンスモ ジュールを有効 または無効にす ることができます。	マニュアル『は じめに』の 「ユーザのコン ピュータで AssetCenterをか スタマイズす る」の章、「モ ジュールを起動 する」の節を参 照してくださ い。
[ポートフォリオ] メニュー				
ポートフォリオ 品目	ポートフォリオ 品目 (amPortfolio)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ [インス トール済ソ フトウェ ア] タブ ▪ [使用] タ ブ ▪ [ライセン ス] タブ 		<ul style="list-style-type: none"> ▪ 方法2 : メ ニューを使 用する [倭 献 7] ▪ 方法2 : メ ニューを使 用する [倭 献 8]
資産とロット	資産 (amAsset)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ [ライセン ス] タブ 		
インストール済 ソフトウェア	インストール済 ソフトウェア (amSoftInstall)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ すべて 		インストール済 ソフトウェア [倭 献 01]

サブメニュー	アクセスする テーブル(テー ブル名とSQL 名)	専用のタブ、 フィールド、ま たはリンク	コメント	関連するマニ ュアルの章
属性	属性 (amNature)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ [オーバー フローテー ブル] フィールド (OverflowTd) ▪ [ソフト ウェアをイ ンストー ル] フィー ルド (InstallSql) ▪ [ライセン ス] フィー ルド (InstallLicense) 		<ul style="list-style-type: none"> ▪ インストー ル済ソフト ウェアを手 動で作成す る [修 30] ▪ ソフトウェ アライセンス / 資格の 属性を作成 する [修 35]
モデル	モデル (amModel)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ [インス トール済ソ フトウェ ア] タブ ▪ [ライセン ス] タブ 		<ul style="list-style-type: none"> ▪ インストー ル済ソフト ウェアを手 動で作成す る [修 30] ▪ 方法 2 : メ ニューを使 用する [修 36]
[ソフトウェア] メニュー				
ソフトウェア資 源管理	N/A	N/A	ソフトウェアの 管理ウィザード をトリガしま す。	レコードの作成 方法 [修 30]
コントロールパ ネル	N/A	N/A	レポートコント ロールパネルを 表示します。	方法 2 : メ ニューを使用す る [修 30]

サブメニュー	アクセスする テーブル（テー ブル名とSQL 名）	専用のタブ、 フィールド、ま たはリンク	コメント	関連するマニ ユアルの章
確定版ソフト ウェアの保管庫	モデル (amModel)	<ul style="list-style-type: none"> [インス トール済ソ フトウェ ア] タブ 	<p>[オーバーフ ローテーブル] フィールド (OverflowTbl) が「インスト ール済ソフト ウェア」 (amSoftInstall) に設定されてい る属性にリンク された [モデ ル] テーブル (amModel) の レコードのリス トを表示しま す。</p>	
カウンタ	ソフトウェアカ ウンタ (amSoftLicCounter)	<ul style="list-style-type: none"> すべて 		方法3：カウ ンタを直接作成す る [修 46]
ワークフロー チャート	ワークフロー チャート (amWFScheme)	<ul style="list-style-type: none"> すべて 	<p>[開始オブジェ クトのコンテキ スト] テーブル がソフトウェア カウンタ (amSoftLicCounter) に設定されてい る [ワークフ ローチャート] テーブル (amWFScheme) のレコードの一 覧を表示しま す。</p>	ワークフロー [修 46]
棚卸しされたソ フトウェアキー	棚卸されたモデ ル (amInventModel)			
[契約] メニュー				
契約	契約 (amContract)	<ul style="list-style-type: none"> [ライセン ス] タブ 		方法2：メ ニューを使用す る [修 46]

サブメニュー	アクセスする テーブル(テー ブル名とSQL 名)	専用のタブ、 フィールド、ま たはリンク	コメント	関連するマニ ュアルの章
マスターリス	契約 (amContract)	<ul style="list-style-type: none"> ■ [ライセン ス] タブ 		方法2: メ ニューを使用す る [倭敵1]
[ツール] メニュー				
アクション / 編 集	アクション (amAction)	<ul style="list-style-type: none"> ■ すべて 		マニュアル『は じめに』の「参 考情報」の章、 「アクション」 の節を参照して ください。
アクション / < アクションの名 前>	N/A	N/A	コンテキストア クションまたは コンテキスト外 アクションにア クセスできま す。 選択されたアク ションをトリガ します。	アクションと ウィザード [倭敵41]
ツールバーのカ スタマイズ	N/A	N/A	ツールバーに対 して、アイコン を追加または削 除できるよう になります (ポ ートフォリオカ テゴリ)。	ツールバーのア イコン [倭敵28]
レポート機能 / レポート	レポート (amReport)	<ul style="list-style-type: none"> ■ すべて 		レポートと書式 [倭敵50]
レポート機能 / 書式	内部用書式 (amForm)	<ul style="list-style-type: none"> ■ すべて 		レポートと書式 [倭敵50]
[管理] メニュー				

サブメニュー	アクセスする テーブル（テー ブル名とSQL 名）	専用のタブ、 フィールド、ま たはリンク	コメント	関連するマニ ュアルの章
画面一覧	N/A	N/A	メニューからア クセスできない テーブルを表示 します。 このようなテー ブルは直接変更 してはならない ため、管理者の みが同メニュー にアクセスでき ます。	マニュアル『は じめに』の「レ コードリスト」 の章、「リスト を使う」の節を 参照してくださ い。
リストデータ	リストデータ (amItemizedList)	■ すべて		リストデータ [修 48]
カウンタ	カウンタ (amCounter)	■ すべて		カウンタ [修 41]
特殊フィールド	特殊フィールド (amCalcField)	■ すべて		特殊フィールド [修 40]

ツールバーのアイコン

ツールバーに表示されるアイコンの中には、ポートフォリオとソフトウェアライ
センスのモジュールに固有のものがいくつかあります。

アイコンのリストを表示して、ツールバーに追加するには、次の手順に従いま
す。

- 1 [ツール/ツールバーのカスタマイズ]メニューを選択します。
- 2 [ツール]タブをクリックします。
- 3 [カテゴリ]リストから[ポートフォリオ]を選択します。
- 4 希望するアイコンをドラッグ & ドロップしてツールバーに表示します。

ツールバーのカスタマイズに関する詳細は、マニュアル『はじめに』の「ユーザ
のコンピュータでAssetCenterをカスタマイズする」の章、「ツールバーをカス
タマイズする」の節を参照してください。

インタフェースのオプション

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールに固有のインタフェースのオプションはありません。

インタフェースのオプション設定に関する詳細は、マニュアル『はじめに』の「ユーザのコンピュータでAssetCenterをカスタマイズする」の章の「AssetCenterインタフェースオプション」を参照してください。

テーブル

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールでは、多数のテーブルを使用します。

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールにリンクされているテーブルの一覧は以下のとおりです。

表 9.3. テーブル (ポートフォリオ) - 一覧

テーブル名	テーブルのSQL名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
一般的なテーブル			
資産	amAsset	[ポートフォリオ / ポートフォリオ品目] メニュー [ポートフォリオ / 資産とロット] メニュー	ポートフォリオ管理の主要テーブル [修 67] 資産 [修 62]
プロジェクトに含まれる資産	amAstProjDesc	[資産 / プロジェクト] メニュー、 [資産] タブ	ポートフォリオ管理の主要テーブル [修 67] プロジェクト [修 00]
交換された資産	amRelAstReplReq	[調達 / 購入依頼]、 [交換] タブ [調達 / 社内依頼]、 [交換] タブ	ポートフォリオ管理の主要テーブル [修 67] 資産 [修 62]

テーブル名	テーブルのSQL名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
接続	amConnection	[ポートフォリオ / 資産とロット]メニュー、[接続]タブ	コンピュータ間の接続 [修献1]
ポートフォリオ品目	amPortfolio	[ポートフォリオ / ポートフォリオ品目]メニュー	ポートフォリオ管理の主要テーブル [修献7]
減価償却の計算式	amDeprScheme	[ファイナンス / 減価償却の計算式]メニュー	資産に関する財務情報のトラッキング [修献3]
固定資産	amFixedAsset	[ポートフォリオ / 資産とロット]メニュー、[固定資産]タブ [ファイナンス / 固定資産]メニュー	資産に関する財務情報のトラッキング [修献3]
作業指示	amWorkOrder	[ポートフォリオ / 作業指示]メニュー	作業指示 [修献95]
メーカー	amBrand	[ポートフォリオ / メーカー]メニュー	ポートフォリオ品目のモデルを作成する [修献0]
モデル	amModel	[ポートフォリオ / モデル]メニュー	ポートフォリオ管理の主要テーブル [修献7] モデル [修献0]
属性	amNature	[ポートフォリオ / 属性]メニュー	オーバーフローテーブル [修献8]
在庫規則	amStockRule	[ポートフォリオ / 在庫]メニュー、[管理]タブ	在庫 [修献2]
資産 - 固定資産の関係	amRelFixedAsset	[ポートフォリオ / 資産とロット]メニュー、[固定資産]タブ	資産に関する財務情報のトラッキング [修献3]
在庫	amStock	[ポートフォリオ / 在庫]メニュー	在庫 [修献2]
単位	amUnit	[管理 / 単位]メニュー	ロットで使用する単位 [修献1]
コンピュータ用のテーブル			

テーブル名	テーブルのSQL名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
コンピュータ	amComputer	[ポートフォリオ/資産とロット]メニュー、[コンピュータ]タブ	オーバーフローテーブル [修献8]
接続タイプ	amCnxType	[管理/接続タイプ]メニュー	コンピュータ間の接続 [修献1] 接続を作成する [修献3]
調整項目用のテーブル			
被調整フィールド	amFieldAdjust	[管理/画面一覧]メニュー、[被調整フィールド]テーブル	調整項目 [修献01]
調整項目	amAdjustment	[ポートフォリオ/ポートフォリオ品目]メニュー、[調整]タブ	調整項目 [修献01]
調整タイプ	amFieldAdjustTempl	[ポートフォリオ/モデル]メニュー、[調整タイプ]タブ	調整項目 [修献01]
電話機用のテーブル			
ボタン/機能割当	amPKFT	[管理/画面一覧]メニュー、[ボタン/機能割当]テーブル	電話機 [修献91]
電話機能	amPhoneFeat	[管理/画面一覧]メニュー、[電話機能]テーブル	電話機 [修献91]
電話機能のモデル	amPhoneFeatTemplate	[管理/画面一覧]メニュー、[電話機能のモデル]テーブル	電話機 [修献91]
電話機	amPhone	[ポートフォリオ/電話機]メニュー	電話機 [修献91]

表 9.4. ソフトウェアライセンスモジュールのテーブル - 一覧

テーブル名	テーブルのSQL名	テーブルにアクセスするために使用するメニュー	関連するマニュアルの章
一般的なテーブル			
資産	amAsset	ポートフォリオ / ポートフォリオ品目 ポートフォリオ / 資 産とロット	ポートフォリオ管理 の主要テーブル [修 献 7] 資産 [修 献 2]
ポートフォリオ品目	amPortfolio	ポートフォリオ / ポートフォリオ品目	ポートフォリオ管理 の主要テーブル [修 献 7]
モデル	amModel	ポートフォリオ / モ デル	ポートフォリオ管理 の主要テーブル [修 献 7] モデル [修 献 0]
属性	amNature	ポートフォリオ / 属 性	オーバーフローテー ブル [修 献 8]
ソフトウェア専用テーブル			
契約	amContract	契約 / 契約	ソフトウェアライセ ンス [修 献 0]
特定資格	amEntitlement	ポートフォリオ / 特 定資格 ソフトウェア / ITIL 確定版ソフトウェア の保管庫	ライセンスをユーザ に割り当てるために 特定資格を作成する [修 献 00]
ソフトウェアカウン タ	amSoftLicCounter	ソフトウェア / ソフ トウェアカウンタ 管理 / 画面一覧、ソ フトウェアカウンタ (以前の形式)行	ソフトウェア管理 [修 献 15]
権限/使用カウン ト	amRightsUsesCount	管理 / 画面一覧、権 限/使用カウン ト行	定期削除 [修 献 24]
インストール済ソフ トウェア	amSoftInstall	ポートフォリオ / イ ンストール済ソフ トウェア	インストール済ソフ トウェア [修 献 01]
棚卸されたモデル	amInventModel	ソフトウェア / 棚卸 したモデルを正常化	AssetCenterデー タベースでのインポ ート結果 [修 献 06]

テーブルの関係

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールでは、AssetCenterデータベースの数多くのテーブルを使用します。これらのテーブル間には多数のリンクが存在するため、テーブルの入力順を最適化することをお勧めします。

以下で記述する入力順に必ずしも従う必要はありません。AssetCenterでは、リンクするテーブルで欠けているレコードを必要に応じて作成することができます。リンクされているテーブルの一覧とレコードの能率的な入力順は、以下の表のとおりです。

本マニュアルで記述したシナリオ例では、以下の入力順に従って操作が進められています。

ポートフォリオモジュールに間接的に関連する以下のテーブルは、ここでは省略されています。

- [メーカー]テーブル
- [場所]テーブル
- [プロジェクト]テーブル
- [作業指示]テーブル

また、ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールに直接関連する補助テーブルも除外されています。主要テーブルにレコードが作成されると、これらのテーブルにも自動的に値が入力されます。

表 9.5. テーブル間の依存関係 (ポートフォリオ) - 表

テーブル (テーブル名とSQL名)	前もって入力する必要があるテーブル (テーブル名とSQL名)	必須の値	自動的に作成されるレコード
属性 (amNature)			
モデル (amModel)	属性 (amNature)		
ポートフォリオ (amPortfolio)	1. 属性 (amNature) 2. モデル (amModel)		
資産 (amAsset)	1. 属性 (amNature) 2. モデル (amModel)		

テーブル（テーブル名とSQL名）	前もって入力する必要のあるテーブル（テーブル名とSQL名）	必須の値	自動的に作成されるレコード
コンピュータ (amComputer)	1. 属性 (amNature)	[作成] (SQL名 : seBasis) フィールド : ポートフォリオ品目 [オーバーフローテーブル] (SQL名 : seOverflowTbl) フィールド : コンピュータ [管理条件] (SQL名 : seMgtConstraint) フィールド : 固有資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ポートフォリオ品目 ■ 資産
	2. モデル (amModel)		
電話機 (amPhone)	1. 属性 (amNature)	[作成] (SQL名 : seBasis) フィールド : ポートフォリオ品目 [オーバーフローテーブル] (SQL名 : seOverflowTbl) フィールド : 電話機 [管理条件] (SQL名 : seMgtConstraint) フィールド : 固有資産タグ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ポートフォリオ品目 ■ 資産
	2. モデル (amModel)		

表 9.6. テーブル間の依存関係 (ポートフォリオ) - 表

テーブル (テーブル名とSQL名)	前もって入力する必要があるテーブル (テーブル名とSQL名)	必須の値	自動的に作成されるレコード
従業員と部署 (amEmplDept)			
契約 (amContract)			

テーブル(テーブル名とSQL名)	前もって入力する必要のあるテーブル(テーブル名とSQL名)	必須の値	自動的に作成されるレコード
属性 (amNature)		[作成] (SQL名: seBasis) フィールド: ポートフォリオ品目 [オーバーフローテーブル] (SQL名: seOverflowTbl) フィールド: コンピュータ (amComputer) [管理条件] (SQL名: seMgtConstraint) フィールド: 固有資産タグ [ソフトウェアをインストール] (SQL名: bHasSoftInstall) <u>フィールド</u>	

テーブル (テーブル名とSQL名)	前もって入力する必要のあるテーブル (テーブル名とSQL名)	必須の値	自動的に作成されるレコード
		[作成] (SQL名: seBasis) フィールド: ポートフォリオ品目 [オーバーフローテーブル] (SQL名: seOverflowTbl) フィールド: (テーブルなし) [管理条件] (SQL名: seMgtConstraint) フィールド: 固有資産タグ [ライセンス] (SQL名: bSoftLicense) フィールド: はい	
		[作成] (SQL名: seBasis) フィールド: ポートフォリオ品目 [オーバーフローテーブル] (SQL名: seOverflowTbl) フィールド: ポートフォリオ品目 [管理条件] (SQL名: seMgtConstraint) フィールド: 個別管理しない	
モデル (amModel)	属性 (amNature)		

テーブル(テーブル名とSQL名)	前もって入力する必要のあるテーブル(テーブル名とSQL名)	必須の値	自動的に作成されるレコード
ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	モデル (amModel)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 資産 (amAsset) ■ コンピュータ (amComputer) ■ インストール済ソフトウェア (amSoftInstal)
特定資格 (amEntitlement)	従業員と部署 (amEmplDept)		
クエリ (amQuery)			
カウンタ (amCounter)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 従業員と部署 (amEmplDept) ■ モデル (amModel) ■ クエリ (amQuery) ■ ポートフォリオ品目 (amPortfolio) ■ 特定資格 (amEntitlement) 		

リストデータ

フィールドに値を入力する際に、リストデータ(オープン/クローズド)を使って値を選択する場合があります

[管理/リストデータ]メニューを選択して[リストデータ](SQL名: amItemizedList)テーブルを表示します。

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュール専用のリストデータは、以下のとおりです。

表 9.7. リストデータ - 一覧

テーブル(テーブル名とSQL名)	リストデータを使って入力するフィールド(フィールド名とSQL名)	リストデータの識別子
一般的なリストデータ		

テーブル(テーブル名とSQL名)	リストデータを使って入力するフィールド(フィールド名とSQL名)	リストデータの識別子
資産 (amAsset)	理由 (DisposReason)	amDisposReason
	条件 (MaintCond)	amMaintCond
	OS (SoftOS)	amOS
	メディア (SoftMedia)	amSoftMedia
	ステータス (Status)	amStatus
	終了オプション (TerminOpt)	amTerminOpt
	条件 (WarrCond)	amWarrCond
固定資産 (amFixedAsset)	計算方法 (DeprCalcMode)	amDeprCalcMode
	タイプ (DeprType)	amDeprType
	分類 (Family)	amFixedAstFamily
モデル (amModel)	ケーブルのタイプ (CableType)	amCableType
	承認 (Certification)	amCertification
	契約の属性 (ContractNature)	amCntrNature
	CPU (CPUType)	amCPUType
	デバイスのタイプ (DeviceType)	amDeviceType
	OS (SoftOS)	amOS
	メディア (SoftMedia)	amSoftMedia
	優先度 (WOPriority)	amWOPriority
	在庫 (amStock)	優先度 (ReqPriority)
ステータス (ReqStatus)		amReqStatus
タイプ (ReqType)		amReqType
単位 (amUnit)	次元 (Dimension)	amDimension
	基準単位 (DstConvSym)	amUnitSymbol
	記号 (Symbol)	amUnitSymbol
コンピュータに固有のリストデータ		
コンピュータ (amComputer)	コンピュータのタイプ (ComputerType)	amComputerType
	CPUのバージョン (CPUInternal)	amCPUInternal
	CPUのタイプ (CPUType)	amCPUType
	OS (OperatingSystem)	amOS
	スキャナの記述 (ScannerDesc)	amScannerDesc
	[スキャナのバージョン] (SQL名 : ScannerVersion) テーブル	amScannerVersion
接続 (amConnection)	フィールド2 (Field2)	amCnxField2
ソフトウェアに固有のリストデータ		
ソフトウェアカウンタ (amSoftLicCounter)	属性 (Type)	amSLCountNature

テーブル（テーブル名とSQL名）	リストデータを使って入力するフィールド（フィールド名とSQL名）	リストデータの識別子
インストール済ソフトウェア （ amSoftInstall ）	言語（ Language ）	amLanguage
インストール済ソフトウェア （ amSoftInstall ）	OS（ SoftOS ）	amOS
インストール済ソフトウェア （ amSoftInstall ）	ステータス（ Status ）	amSoftInstStatus

リストデータの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「リストデータ」の章を参照してください。

特殊フィールド

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールでは、特定の特殊フィールドを使用します。

これらの特殊フィールドは、特定のフィールドのデフォルト値で使用されています。

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールに固有の特殊フィールドは、以下のとおりです。

表 9.8. 特殊フィールド - 一覧

特殊フィールドの名前	特殊フィールドのSQL名	特殊フィールドの適用先 テーブル （テーブル名 とSQL名）	使用
1年間当たりのTCO	AvgYearlyTco	モデル （ amModel ） 資産 （ amAsset ）	資産の1年当たりのTCOを計算します。

上記の特殊フィールドは、カスタマイズ可能です。

特殊フィールドの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「特殊フィールド」の章を参照してください。

スクリプトの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「スクリプト」の章を参照してください。

APIの使用に関する情報は、マニュアル『プログラマーズリファレンス』を参照してください。

カウンタ

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールでは、以下のカウンタを使用します。

これらのカウンタは、特定のフィールドのデフォルト値で使用されています。

[管理 / カウンタ] メニューを選択して [カウンタ] (SQL名: amCounter) テーブルを表示します。

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールに直接関連するカウンタは以下のとおりです。

表 9.9. カウンタ - 一覧

カウンタのSQL名	カウンタを使用するテーブル (テーブル名とSQL名)	カウンタを使用するフィールド (フィールド名とSQL名)
amModel_BarCode	モデル (amModel)	バーコード (BarCode)
amAsset_AssetTag	モデル (amModel)	資産タグ (AssetTag)
amNature_Code	属性 (amNature)	コード (Code)
amStock_Code	在庫 (amStock)	コード (Code)

カウンタの詳細については、マニュアル『管理』の「データベースのカスタマイズ」の章、「フィールドのデフォルト値のカウンタ」を参照してください。

アクションとウィザード

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールでは、一般的なタスクを自動化するためにアクションを使用します。

[ツール / アクション / 編集] メニューを選択して [アクション] (SQL名 : amAction) テーブルを表示します。

以下のフィールドのいずれかにシンプルフィルタを使用すると、ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールに関連するアクションをフィルタできません。

- [ドメイン] (SQL名 : Domain) フィールド
- [属性] (SQL名 : Domain) フィールド

次に示すアクションは、ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールにすべて関連します。

表 9.10. アクションとウィザード - 一覧

アクション名	アクションのSQL名	アクションのタイプ	アクションのコンテキスト (テーブルのSQL名)	関連するマニュアルの章
一般的なアクションとウィザード				
ロットの分割	sysSplitAssignment	ウィザード	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	ロット [修献6]
依頼の品目を作成する	sysProcRequestExecuteAll	ウィザード	依頼 (amRequest)	ポートフォリオ品目の移動 [修献7]
ポートフォリオ品目に資産タグを付ける	sysTagItem	ウィザード	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	トラッキングしないロット [修献0]
コンピュータに固有のアクションとウィザード				
新しいコンピュータ/コンピュータグループ	sysCoreCpuNew	ウィザード	コンピュータ (amComputer)	コンピュータ [修献7]
ソフトウェアに固有のアクションとウィザード				
カウンタの作成	sysSamCreateCounter	ウィザード		方法 : カウンタの作成 (sysSamLauncher) ウィザードを使用して複雑なカウンタを作成する [修献20]

アクション名	アクションのSQL名	アクションのタイプ	アクションのコンテキスト (テーブルのSQL名)	関連するマニュアルの章
単純カウンタの作成	sysSamSimpleSqlCountsCreate	ウィザード		方法1: 単純カウンタの作成ウィザードを使用して単純カウンタを作成する [参考文献20]
ソフトウェアカウンタの更新	sysCoreSoftLicCountCalc	スクリプト	ソフトウェアカウンタ (amSoftLicCounter)	ソフトウェアカウンタの結果の更新 [参考文献24]
全インストール済ソフトウェア数の計算	BstSamComputeAllLicAndInstal	スクリプト		ライセンス数の定期検証ワークフローチャートの主な機能 [参考文献28]
ソフトウェアのコントロールパネル	BstSamDashBoard	コントロールパネル		コントロールパネルをカスタマイズする [参考文献30]
ライセンス数超過に関する管理者へのメール	BstSamLicenses_exceeded	メッセージシステム	amSoftLicCounter	ライセンス数超過の場合に自動メッセージを送信する [参考文献27]
見つからないソフトウェア割り当て	BstSamMissingSoftware	スクリプト	amComputer	前回のコンピュータのスキャンで見つからなかったソフトウェアにフラグを設定する [参考文献09]
単純カウンタの作成	sysSamSimpleSqlCountsCreate	ウィザード		方法1: 単純カウンタの作成ウィザードを使用して単純カウンタを作成する [参考文献20]

アクション名	アクションのSQL名	アクションのタイプ	アクションのコンテンツ (テーブルのSQL名)	関連するマニュアルの章
未承認のインストール済ソフトウェアに関する管理者へのメール	sysSamUninstallFund	メッセージシステム	amSoftInstall	未承認インストールが発生した場合に自動メッセージを送信する [修補10]
ASPユーザの追加	sysSamAddAspUsers2Cntr	ウィザード		ユーザを現在のASP契約に追加する [修補4]
ソフトウェアライセンスタイプ (モデル) を作成	sysSamCreateLicModel	ウィザード		ソフトウェアライセンス / 資格を作成する [修補6]
インストールからソフトウェアライセンスタイプ (モデル) を作成	sysSamCreateLicModFromInst	ウィザード		ソフトウェアライセンス / 資格を作成する [修補6]
新規ソフトウェアライセンスの作成	sysSamCreateLicpfi	ウィザード		<ul style="list-style-type: none"> ■ 方法1: ソフトウェアの管理ウィザード (sysSamLauncher) を使用する [修補6] ■ これにより、新規ソフトウェアライセンスの作成 (sysSamCreateLicpfi) ウィザードが開始します。 [修補7]

アクション名	アクションのSQL名	アクションのタイプ	アクションのコンテンツ (テーブルのSQL名)	関連するマニュアルの章
特定資格の依頼を作成	sysSamCreateRefFormEntdTemp	ウィザード		依頼を作成する [修献9]
ソフトウェア契約を作成 (原案)	sysSamCreateSoftContract	ウィザード		<ul style="list-style-type: none"> ライセンス契約を作成する [修献0] ライセンス契約を変更する [修献1]
ASPユーザの削除	sysSamDelAspUsersFromCntr	ウィザード		現在のASP契約からユーザを削除する [修献5]
OEMインストールをフラグ	sysSamFlagOEMInst	ウィザード		OEMインストールとしてインストールをフラグする [修献13]
現在のソフトウェア契約を選択	sysSamGetEnv	ウィザード		ソフトウェアの管理ウィザード (sysSamLauncher) で現在の契約を選択する [修献2]
ソフトウェアの不正を処理	sysSamIdentifyIllegalInstall	ウィザード		<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアカウンタを再計算する [修献25] インストール/使用とライセンス/資格の間の不正を処理する [修献25]
ソフトウェアの管理	sysSamLauncher	ウィザード		レコードの作成方法 [修献0]
ライセンスとソフトウェアのインストールの準備	sysSamLicenseProcess	ウィザード		<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアライセンス/資格を作成する [修献6] 依頼を作成する [修献9]
請求明細を契約にリンク	sysSamLinkInvoices2OEM	ウィザード		請求明細を現在の契約にリンクする [修献3]

アクション名	アクションのSQL名	アクションのタイプ	アクションのコンテンツ (テーブルのSQL名)	関連するマニュアルの章
権利数とインストール数を再計算	sysSamReCalcCounters	ウィザード		<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアカウンタを再計算する [修献25] インストール/使用とライセンス/資格の間の不正を処理する [修献25]
不明なインストールと既知のインストール済みソフトウェアとの関連付	sysSamReconcExtModelMz	ウィザード	amInventModel	[棚卸しされたモデル] (amInventModel) テーブルに新しいレコードが作成されたときにトリガされる自動処理 [修献08]
契約の承認を依頼	sysSamReqContractApproval	ウィザード		現在の契約の承認を依頼する [修献0]

アクションの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「アクション」の章を参照してください。

スクリプトの詳細に関しては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「スクリプト」の章を参照してください。

APIの使用に関する情報は、マニュアル『プログラマーズリファレンス』を参照してください。

新しいアクションの作成や、既存のアクションのカスタマイズが可能です。

ワークフロー

ソフトウェアライセンスモジュールでは、ワークフローチャートを使用して特定の処理を行います。

[ワークフローチャート] (amWfScheme) テーブルにアクセスするには、[ツール/ワークフロー/ワークフローチャート]メニューを選択します。

次のワークフローチャートは、ソフトウェアライセンスモジュールに直接リンクされます。

表 9.11. ワークフロー - 一覧

ワークフローチャートの名前	ワークフローチャートのSQL名	ワークフローチャートのコンテキスト (テーブルのSQL名)	関連するマニュアルの章
ライセンス数の不足	BST_SAM01	amSoftLicCounter	ライセンス数超過の場合に自動メッセージを送信する [俊献27]
ライセンス数の定期検証	BST_SAM02	amSoftLicCounter	ソフトウェアアカウントを定期的に検証する [俊献28]
未承認のインストール	BST_SAM03	amSoftInstall	未承認インストールが発生した場合に自動メッセージを送信する [俊献10]
前回のスキャンで見つからなかったソフトウェアの検出	BST_SAM20	amComputer	前回のコンピュータのスキャンで見つからなかったソフトウェアにフラグを設定する [俊献09]
契約の承認	sysSam_CNTR_APPR	amContract	概要 [俊献2]
モデルの正常化: 'amInventModel'が追加されました	sysSam_ExtModelNew	amInventModel	[棚卸しされたモデル] (amInventModel) テーブルに新しいレコードが作成されたときにトリガされる自動処理 [俊献08]
モデルの正常化: 'amInventModel'が解決されました	sysSamExtModelEnd	amInventModel	[棚卸しされたモデル] (amInventModel) テーブルに新しいレコードが作成されたときにトリガされる自動処理 [俊献08]
モデルの正常化: 'amPortfolio'が変更されました	sysSamExtModelSync	amPortfolio	[棚卸しされたモデル] テーブルの既存のレコードがソフトウェアインストールに最初にリンクされたときにトリガされる自動処理 [俊献09]

ワークフローの詳細については、『AssetCenterの高度な使い方』ガイドの「ワークフロー」の章を参照してください。

新しいワークフローチャートを作成するか、既存のワークフローチャートをカスタマイズすることができます。

AssetCenter Serverモジュール

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールでは、以下のAssetCenter Serverモジュールを使用します。

ポートフォリオモジュールで使用されるAssetCenter Serverモジュールを表示するには、次の手順に従います。

- 1 AssetCenter Serverを起動します。
- 2 AssetCenterデータベースに接続します。
- 3 [ツール / モジュールの設定] メニューを選択します。

表 9.12. AssetCenter Serverモジュール (ポートフォリオ) - 一覧

モジュール名	説明
一般的なモジュール	
AddUser	データベースにNTユーザを追加
Stock	在庫の検証
Delivery	受領品に対応する資産、消耗品などの作成
コンピュータに固有のモジュール	
AddCpu	データベースにNTドメインのコンピュータを追加
GetFsf	スキャナの結果を取得
IddAc	スキャナの結果を基にデータベースを更新
SendScan	スキャナをコンピュータに送信
ソフトウェア専用モジュール	
WkGrIddAcoupSYS_SAM	実行グループ'SYS_SAM'にワークフロー規則を適用
IddAc	スキャナの結果を基にデータベースを更新

AssetCenter Serverモジュールの詳細については、マニュアル『管理』の「AssetCenter Server」の章、「AssetCenter Serverでモニタするモジュールを設定する」の節を参照してください。

システムデータと専門分野データ

AssetCenterは、以下の標準データパッケージと共に提供されています。

これらのデータパッケージは、以下のグループに分類できます。

- システムデータ：AssetCenterの使用に不可欠のデータ
- 専門分野データ：必要に応じて、実際のデータベースに挿入するデータ
このデータは、機能別に分類されています。
- サンプルデータ：AssetCenterの使用に慣れるために便利なデータ

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュール専用のシステムデータ

ポートフォリオモジュールに使用可能なシステムデータはありません。

ソフトウェアライセンスモジュールの場合、システムデータパッケージに次のテーブルのデータが含まれます。

- アクション (amAction)
- スクリプト (amScriptLibrary)
- アプリケーションのオプション (amOption)

システムデータは、デフォルトでAssetCenterデータベースに組み込まれています。

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールに関連する専門分野データ

ポートフォリオモジュールに関する専門分野データは、多数のテーブルに適用されます。これらのテーブルの例は、以下のとおりです。

- [アクション] (SQL名： amAction) テーブル
例：プロジェクトに従業員と資産を割り当て
- [任意管理項目] (SQL名： amFeature) テーブル
- [アプリケーションのオプション] (SQL名： amOption) テーブル

ソフトウェアライセンスモジュールの場合、専門分野データパッケージに次のような複数テーブルのデータが含まれます。

- [従業員グループ] (SQL名： amEmplGroup) テーブル
- [ソフトウェアカウンタ] (SQL名： amSoftLicCounter) テーブル
- [アクション] (SQL名： amAction) テーブル
- [ワークフローチャート] (SQL名： amWfScheme) テーブル
- [リストデータの値] (SQL名： amItemListVal) テーブル
- [棚卸されたモデル] (SQL名： amInventModel) テーブル
- [レポート] (SQL名： amReport) テーブル

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールに関連する専門分野データは、AssetCenterと共にインストールされるデモ用データベースに自動的に含まれます。

専門分野データを実際のデータベースでも使用するには、AssetCenter Database Administratorでこのオプションを指定する必要があります。

レポートと書式

AssetCenterは、ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュール専用のレポートと書式と共に提供されています。

レポートと書式をデータベースで使用するには、AssetCenter Database Administratorを使ってインポートを行う必要があります。

ポートフォリオモジュール専用のレポートをインポートおよび識別する

レポートのインポートについては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「Crystal Reports」の章、「レポート作成プログラムの操作とインストール / 既製のCrystal Reportsレポートを実際に使用するデータベースにインストールする」の節を参照してください。

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュール専用のレポートを見分ける方法については、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「Crystal Reports」の章、「モジュールに関連するCrystalレポートの識別」の節を参照してください。

ポートフォリオモジュール専用の書式をインポートおよび識別する

書式のインポートについては、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「書式」の章、「既製の書式を実際に使用するデータベースにインストールする」の節を参照してください。

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュール専用の書式を見分ける方法については、マニュアル『AssetCenterの高度な使い方』の「書式」の章、「モジュールに関連する書式の識別」を参照してください。

自動プロセス

AssetCenterがバックグラウンドで実行する自動プロセスについては、マニュアル『データベース構造』を参照してください。同マニュアルで記述されている各テーブルの章ごとに、「自動プロセス」という節があります。

API

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールに関連するAssetCenter APIがいくつかあります。

ポートフォリオとソフトウェアライセンスのモジュールに関連するAPIの一覧および説明については、マニュアル『プログラマーズリファレンス』を参照してください。

ビュー

ポートフォリオモジュールの専用のビューはありません。

ビューの詳細に関しては、マニュアル『はじめに』の「ビューの使用方法」の章を参照してください。

その他のマニュアル

Ce manuel ne vous apporte que des informations directement liées au module Parc. 本マニュアルに加えて、以下のマニュアルを参照することをお勧めします。

表 9.13. その他のマニュアル (ポートフォリオ) - 一覧

マニュアル名		フォーマット	AssetCenterのインストール先フォルダにおけるパス
インストール	<ul style="list-style-type: none"> AssetCenterのインストール方法 	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/Installation*.pdf</code> <code>/doc/chm/install*.chm</code>
主要テーブル	<ul style="list-style-type: none"> 場所の管理 	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/CommonTables*.pdf</code> <code>/doc/chm/common*.chm</code>
はじめに	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアのインタフェース 	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/UserInterface*.pdf</code> <code>/doc/chm/userint*.chm</code>

マニュアル名		フォーマット	AssetCenterのインストール先フォルダにおけるパス
ケーブル	<ul style="list-style-type: none"> ■ ケーブルの管理 	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/CableAndCircuit*.pdf</code> <code>/doc/chm/cable*.chm</code>
データベース管理	<ul style="list-style-type: none"> ■ ウィザードの使用 ■ フィールドのカスタマイズ ■ 特殊フィールドの使用 	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/Administration*.pdf</code> <code>/doc/chm/admin*.chm</code>
AssetCenterの高度な使い方	<ul style="list-style-type: none"> ■ リストデータの管理 ■ スクリプトの作成 	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/AdvancedUse*.pdf</code> <code>/doc/chm/advanced*.chm</code>
フィールドおよびリンクに関する状況依存ヘルプ	<ul style="list-style-type: none"> ■ データベースのフィールドおよびリンクの使用 	オンライン	<p>フィールドまたはリンクに関する状況依存ヘルプにアクセスするには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 フィールドまたはリンクを選択します。 2 次のアクションの1つを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 右クリックして、[フィールドのヘルプ]メニューを選択します。 ■ キーボードで [Shift + F1] キーを押します。 ■ [ヘルプ/フィールドのヘルプ]メニューを選択します。
プログラマーズリファレンス	<ul style="list-style-type: none"> ■ APIの使用 	印刷版 オンライン	<code>/doc/pdf/ProgrammersReference*.pdf</code> <code>/doc/progref*.chm</code>
データベース構造	<ul style="list-style-type: none"> ■ データベースのテーブル、フィールド、リンク、インデックスの一覧 ■ AssetCenterが自動的にトリガするエージェント 	テキストファイル オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ■ <code>doc/infos/database.txt</code> ■ <code>infos/tables.txt</code> <code>/doc/chm/dbstruct*.chm</code>

マニュアル名		フォー マツト	AssetCenterのインストール先 フォルダにおけるパス
オンラインヘルプ	■ アプリケーションの全機能	オンライ ン	オンラインヘルプにアクセスするには、以下の操作の1つを行います。 <ol style="list-style-type: none">1 キーボードで [F1] キーを押します。2 [ヘルプ/トピックの検索] メニューを選択します。

インデックス

PEREGRINE

- アイコン, 228
- アクション, 241
- インストール済ソフトウェア
 - (参考 ソフトウェア)
 - OEM契約, 113
 - インポートする, 106
 - トリガされる自動処理, 108
 - オーバーフローテーブル, 20
 - ソフトウェア使用
 - 定義, 216
 - テーブル, 102
 - ポイント, 101
 - ライセンスとのリンク, 78
 - 作成, 101
 - Desktop Inventory, 103
 - Network Discovery, 104
 - 自動化, 102
 - 実際の使用, 102
 - 除却する, 112
 - 承認 - 通知, 110
 - 消失, 109
 - 定義, 216
- インタフェース - オプション, 229
- インタフェースのオプション, 229
- ウィザード, 241
- オーバーフロー - テーブル, 18
- カウンタ, 241
- コンピュータ, 57
 - オーバーフローテーブル, 20
 - モデル, 58
 - 属性, 57
- コンピュータの標準セット, 60
- システムデータ, 248
- ソフトウェア
 - (参考 インストール済ソフトウェア)
 - (参考 ソフトウェアライセンス)
 - (参考 ソフトウェア - 管理)
 - AssetCenterライセンス, 73
 - ITIL
 - 定義, 217
 - Microsoft Select, 145
 - オーバーフローテーブル, 20
 - コントロールパネル, 130
 - ステータス, 130
 - テーブル, 76
 - モジュール, 74
 - レコードの作成, 80
 - レポート, 131
 - 概要, 75
 - 管理 - タイプ, 79

- 契約, 80
 - メンテナンス, 92
 - ユーザ - 削除, 95
 - ユーザ - 追加, 94
- 現在の契約, 82
- 作成, 80
- 資産, 94
- 承認 - 依頼, 90
- 承認 - 却下, 90
- 承認 - 更新, 91
- 承認 - 受領, 90
- 承認 - 進行状況, 90
- 請求書, 93
- 変更, 93, 91
- 実装, 79
- 実用例, 131
- 準備段階, 73
- 正常化
 - 定義, 217
- 物理データモデル, 77
- ソフトウェアカウンタ (参考 ソフトウェア - 管理)
- ソフトウェアのコントロールパネル, 130
- ソフトウェアの管理 (ウィザード), 80
- ソフトウェアライセンス
 - (参考 ソフトウェア)
 - モデル, 96
 - ライセンスまたは資格権限
 - 定義, 217
 - 依頼, 112
 - 関連付け, 113
 - 作成, 97, 96
 - 除却する, 100
 - 属性, 95
 - 定義, 216
 - 変更, 98, 98
- ソフトウェアレポート, 131
- ソフトウェア - 管理, 115
 - カウンタ
 - ウィザード, 120
 - グローバル再計算, 125
 - ソフトウェアの不正を処理する, 125
 - テーブル, 116
 - 旧モードカウンタ, 126
 - 更新, 124
 - 作成, 120
 - 削除, 124
 - 参照フィールド, 123
 - 定期検証, 128
 - 定義, 217
 - 概要, 115
 - 特定資格 - テーブル, 118
 - ソフトウェア使用 (参考 インストール済ソフトウェア)
 - ソフトウェア資格 (参考 ソフトウェアライセンス)
 - (参考 ソフトウェア)
 - タブ, 219
 - ツール, 228
 - ツールバー, 228
 - テーブル, 229
 - オーバーフローテーブル, 18
 - 定義, 213
 - メインテーブル, 17
 - 関係, 233
 - データベース
 - 準備, 74
 - 専門分野データ - インポート
 - 既存のデータベース, 74
 - 新しいデータベース, 74
 - データベース記述ファイルを開く - 新規データベースの作成 (オプション), 74
 - データモデル, 18
 - トラッキング, 215
 - トラッキングしないロット, 40
 - トラッキングするロットへの変換, 42
 - 作成, 41
 - 定義, 214
 - 非個別管理, 16
 - 分割, 41
 - ビュー, 251
 - プロジェクト, 200
 - 定義, 218
 - ポート, 62
 - 変更, 68
 - ポートフォリオ品目, 27-56, 17
 - (参考 トラッキングしないロット)
 - (参考 モデル)
 - (参考 ロット)
 - (参考 在庫)

- (参考 資産)
- (参考 属性)
- オーバーフローテーブル, 18
- コンテキスト情報の指定, 48, 21
- トラッキング, 22
- 移動, 47
- 管理, 15
 - タイプ, 15
 - 一括管理, 16
 - 個別管理, 16
 - 非個別管理, 16
- 使用終了, 50
- 値, 15
- 定義, 212
- 予約, 48
- マニュアル, 251
- メニュー, 219
- モデル, 25, 17
 - コンピュータ, 58
 - ポートフォリオ品目, 30
 - 作成, 30
 - 単位, 31
 - 定義, 212
- モデルの正常化 (グループ), 105
- ライセンスまたは資格権限 (参考 ソフトウェアライセンス)
- リストデータ, 238
- リモートコントロール
 - LanDesk, 69
 - NetOp, 69
 - pcAnywhere, 69
 - Windows XP RDP, 69
 - プロセス, 72
 - 使用可能な機能, 69
 - 設定, 69
- レポート, 250
- ロット
 - 一括管理, 16
 - 作成, 37
 - 単位, 31
 - 定義, 213
 - 分割, 38
- ロットの単位, 31
- ロットの分割 (ウィザード), 39
- ワークフロー, 246
- 割当, 216
- 管理タイプ, 215
- 管理条件, 214
- 契約
 - (参考 ソフトウェア)
 - ライセンス, 77
 - 資産, 50
 - 取得方法, 44
- 減価償却, 45
- 固定資産, 45
- 在庫, 52
 - 管理, 54
 - 規則, 52
 - 再発注依頼, 53
 - 再発注制限のチェック - 頻度, 53
 - 使用可能品目, 53
 - 資産の予約, 50
 - 資産 - 在庫からの出庫, 55
 - 定義, 215
 - 発注点 - 必要条件, 52
 - 品目の追加, 54
- 作業指示, 195
 - サイクル, 197
 - ステータス, 198
 - タイプ, 196
 - トラッキング, 198
 - 管理, 199
 - 自動処理, 198
- 作業順序 (フィールド), 196
- 残存価額 (フィールド), 46
- 資産, 32, 17
 - (参考 コンピュータの標準セット)
 - オーバーフローテーブル, 19
 - コスト, 44
 - 契約, 50
 - 個別管理, 16
 - 固定資産, 45
 - 在庫, 55
 - 財務情報のトラッキング, 43
 - 取得契約, 44
 - 取得方法, 43
 - 定義, 213
 - 資産のコスト, 44
- 自動処理, 250
- 書式, 250

- 消耗品, 41
 - 定義, 214
- 数量, 216
- 正常化
 - 定義, 217
- 接続, 61
 - コンピュータ, 64
 - ポート, 62
 - 管理, 67
 - 作成, 65, 63
 - 削除, 68
 - 影響, 68
 - 数, 67
 - 必要条件, 62
- 専門分野データ, 248, 74, 74
- 属性, 23, 17
 - コンピュータ, 57
 - ポートフォリオ品目, 27
 - 作成, 28, 23
 - 定義, 211
 - 動作オプション, 24
 - 例, 29
- 棚卸されたモデル, 108
- 単位, 31
 - 作成, 31
 - 表示, 32
- 調整, 201-209
 - 調整項目, 201
 - 例, 205
- 調整項目
 - ターゲット項目, 201
 - フィールド調整をトリガするリンク, 205
 - モデル, 204
 - 作成, 205
 - 使用, 203
 - 調整タイプ, 204
- 電話機, 191-194
 - オーバーフローテーブル, 20
 - キー, 193
 - テーブル, 191
 - 管理, 192
 - 機能, 191
 - 追加, 193
 - 作成, 193
- 特殊フィールド, 240

- 特定資格
 - (参考 ソフトウェア - 管理)
 - 作成, 100
 - 定義, 217

A

- API, 251
- AssetCenter Database Administrator
 - 専門分野データ - インポート
 - 既存のデータベース, 74
 - 新しいデータベース, 74
- AssetCenter Server
 - モジュール, 248
 - 在庫, 52
- AssetCenter - インストール, 75

C

- Connect-It, 102

D

- Desktop Inventory, 103

I

- ITIL
 - 定義, 217
- ITポートフォリオ
 - (参考 コンピュータ)
 - (参考 コンピュータの標準セット)
 - (参考 リモートコントロール)
 - (参考 接続)

M

- Microsoft Select, 145

N

- Network Discovery, 104

P

- pdiac-swnorm.scn (シナリオ), 103
- pndac.scn (シナリオ), 104

S

- Select, 145

